

令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

認知症地域支援推進員の配置形態や
活動実態に応じた機能強化に関する調査研究
報告書

社会福祉法人浴風会

認知症介護研究・研修東京センター

令和5（2023）年3月

目次

本調査研究事業の要旨	2
第1章 研究事業概要	4
1. 研究事業の目的	4
2. 調査研究の全体構造	4
3. 調査研究の方法と経過	5
4. 研究事業の方法と内容	6
第2章 「認知症地域支援推進員の配置と活動に関する」全国調査	10
1. 全国調査の目的・方法	10
2. 全国調査の回収数(回収率)	10
3. 【市町村調査】結果 ※実数は巻末資料に記載	11
4. 【認知症地域支援推進員調査】結果 ※実数は巻末資料に記載	30
5. 【都道府県調査】結果 ※実数は巻末資料に記載	48
6. 推進員の機能強化に関するクロス集計結果	58
7. 推進員の機能強化に関する課題の整理・分析：推進員に関する主な課題マップ	62
第3章 推進員の配置と機能強化のあり方に関するオンラインワークショップ開催	63
第4章 配置及び機能強化促進のための推進員活動情報共有システムのあり方の検討と資料制作	64
1. 目的	64
2. 製作した関連資料一式（活動ガイド・活動情報集・活動情報検索システム・活動情報動画）	64
第5章 認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会の開催	66
第6章 まとめ・提案・今後の課題	68
1. まとめ	68
2. 提案	70
3. 今後の課題	73
巻末資料 全国調査 調査票及び回答結果	74
1. 単純集計結果	74
【都道府県調査】結果	74
【市区町村調査】結果	74
【認知症地域支援推進員調査】結果	74
2. 都道府県別データ集約（ひな形）	146
都道府県別【市区町村調査】結果	146
都道府県別【認知症地域支援推進員調査】結果	147

本調査研究事業の要旨

事業要旨 令和4年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）
「認知症地域支援推進員の配置形態と活動実態に応じた機能強化に関する調査研究」

研究事業全体の概要

【目的】認知症地域支援推進員（以下、「推進員」とする。）の配置形態と活動実態に関する実態把握を踏まえて、活動上の課題解決に向けた好事例の収集・整理及び推進員の配置効果等の明確化を行い、市町村等における推進員の配置や機能強化を促進するための「ガイド及び事例集」を作成する。

【事業内容】本人組織代表、家族組織代表、自治体担当者、推進員、有識者16名からなる検討委員会及び8名からなるワーキングチームを設置し、以下を実施した。

1. 「認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査」の実施
2. 推進員の配置と機能強化のあり方に関する「オンラインワークショップ」の開催
3. 配置及び機能強化促進のための推進員活動情報共有システムのあり方の検討と資料5種類を制作
 - ① 推進員活動ガイド、② 推進員活動ガイドエッセンス版、③ 推進員活動情報集（事例集）、④ 推進員活動促進動画（2点）、⑤ Webを活用した推進員活動情報の共有システムの構築
4. 報告会を開催。参加者アンケート調査を実施。
5. 全国に速やかに普及を図るため、上記②、③を全都道府県及び全市町村に送付。Webで公開。

1. 「認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査」結果：抜粋

【目的】推進員の配置及び活動の現状と課題、機能向上に関する意向等を把握し、基礎資料とする。

【対象】①市町村（施策担当者） ②認知症地域支援推進員 ③都道府県（施策担当者） 悉皆調査

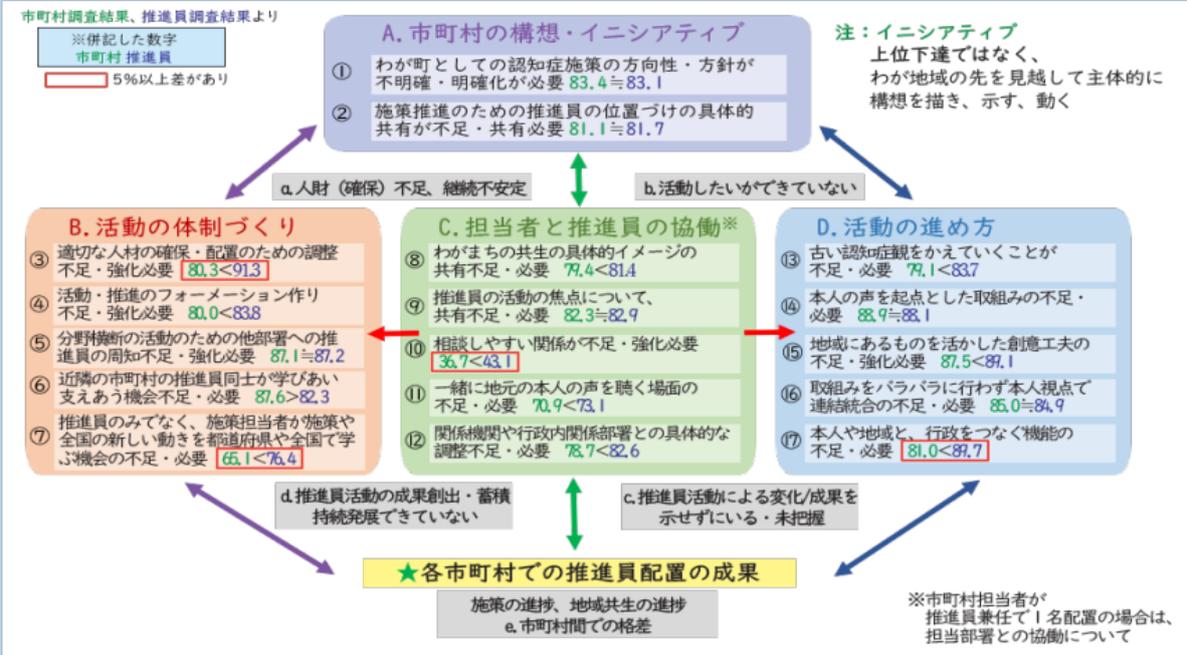
【方法】三者共通構造の調査票をもとに実施。（市町村、推進員は都道府県の協力を得て調査票を送付後、直接回収。） 調査時期は、2022年10月～11月。

【回答数（率）】①市区町村 1,111（63.8%） ②推進員 3,707（45.9%） ③都道府県 47（100.0%）

市町村 (%)	◆配置状況 6割が当初の配置の仕方を変更	◆推進員配置により多面的成果が生まれ始めている																							
	<table border="1"> <tr> <td>総配置数</td> <td>0人 0.5 3-4人 22.7</td> <td>1人 26.1 5人以上 31.8</td> <td>2人 19.0</td> </tr> <tr> <td>配置組織</td> <td>直営包括 48.6 役所 30.0</td> <td>委託包括 39.7 その他 22.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配置形態</td> <td>専任のみ 11.7 専任と兼任 9.0</td> <td>兼任のみ 78.8 その他 0.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配置の仕方の変更</td> <td colspan="2">配置の仕方の変更あり (内訳) 配置組織数・総数増 28.7 配置組織種類・総数増 19.2 その他 9.2</td> <td>57.0</td> </tr> </table>	総配置数	0人 0.5 3-4人 22.7	1人 26.1 5人以上 31.8	2人 19.0	配置組織	直営包括 48.6 役所 30.0	委託包括 39.7 その他 22.3		配置形態	専任のみ 11.7 専任と兼任 9.0	兼任のみ 78.8 その他 0.5		配置の仕方の変更	配置の仕方の変更あり (内訳) 配置組織数・総数増 28.7 配置組織種類・総数増 19.2 その他 9.2		57.0	<table border="1"> <tr> <td>本人に関して</td> <td>早期に相談/地域でのつながり/状態変化時のつながり → 5割が成果あり</td> </tr> <tr> <td>地域/家族専門職</td> <td>自分ごととして/会議で本人視点重視/家族なりの暮らしの継続 → 4~6割が成果あり</td> </tr> <tr> <td>情報の流れや協働</td> <td>情報が入り協働しやすくなった/相談したり助けてもらえる人が広がった → 約6~8割が成果あり</td> </tr> <tr> <td>地域共生の進捗</td> <td>認知症があってもなくても、地域で共に生きる意識・姿が広がってきている (年々拡充が進みつつある) → 52.6</td> </tr> </table>	本人に関して	早期に相談/地域でのつながり/状態変化時のつながり → 5割が成果あり	地域/家族専門職	自分ごととして/会議で本人視点重視/家族なりの暮らしの継続 → 4~6割が成果あり	情報の流れや協働	情報が入り協働しやすくなった/相談したり助けてもらえる人が広がった → 約6~8割が成果あり	地域共生の進捗
総配置数	0人 0.5 3-4人 22.7	1人 26.1 5人以上 31.8	2人 19.0																						
配置組織	直営包括 48.6 役所 30.0	委託包括 39.7 その他 22.3																							
配置形態	専任のみ 11.7 専任と兼任 9.0	兼任のみ 78.8 その他 0.5																							
配置の仕方の変更	配置の仕方の変更あり (内訳) 配置組織数・総数増 28.7 配置組織種類・総数増 19.2 その他 9.2		57.0																						
本人に関して	早期に相談/地域でのつながり/状態変化時のつながり → 5割が成果あり																								
地域/家族専門職	自分ごととして/会議で本人視点重視/家族なりの暮らしの継続 → 4~6割が成果あり																								
情報の流れや協働	情報が入り協働しやすくなった/相談したり助けてもらえる人が広がった → 約6~8割が成果あり																								
地域共生の進捗	認知症があってもなくても、地域で共に生きる意識・姿が広がってきている (年々拡充が進みつつある) → 52.6																								
推進員 (%)	◆推進員は重要で機能強化進めたいが8割強 ・認知症施策推進のために推進員は重要な存在と考えており、機能強化を進めたい 77.1 ・今後は推進員を重視し機能強化を強めたい 6.4 ・推進員の機能強化を進めていこうと思わない 1.8 ・推進員について考える余裕や環境がない 12.1	◆7割が促進役と協働し機能向上を進める意向あり ・すでに促進役と協働し取組んでいる 34.9 ・今後、促進役と協働して進めていきたい 17.1 ・今後、促進役を把握し協働していきたい 15.9 ・協働で機能向上を進めることは考えていない 10.5 ・その他 21.6																							
	◆推進員活動のEffort 20%未満が約5割	◆多彩な機能果たす一方、やりたいかやれていないが2~6割																							
都道府県 (%)	◆推進員の基本姿勢-焦点を市町村に提示 2割強 都道府県として（積極的に）提示/説明 23.4 都道府県として（あまり）提示/説明ない 76.6 ★都道府県が提示/説明している場合、「市町村として推進員の機能強化を進めたい」が多い	◆約8割の都道府県が推進員の機能強化を進めていきたい ・都道府県として（積極的に）進めたい 78.7 ・推進員について考える余裕や環境がない 12.8 ◆8割強が推進員活動の促進役との協働意向あり ・機能促進のために推進員の促進役と協働したい 78.7																							

【推進員の機能強化に関する課題の整理・分析（下図）】a～dの背景としてA～Dの基本的課題が確認された。市町村調査及び推進員調査の同一質問項目の結果を整理し、A～Dの4領域17項目からなる課題マップを作成した。市町村担当者、推進員ともに、A～Dの課題領域・項目に関して強化が必要とする回答が高率であり、担当者と推進員で概ね同程度の回答であったが、推進員の方が5%以上高率の回答が4項目見られた（赤枠）A～Dの課題は相互に関連しあっており、人口規模や推進員の配置形態に関わらず同様の課題構図が確認された。

推進員の機能強化に関する課題の整理（課題マップ）



2. 推進員の配置と機能強化のあり方に関する「オンラインワークショップ」の開催

人口規模や推進員の配置形態、職種が多様な23名の推進員と自治体職員が参加。配置形態別の5グループに分かれ、上記の課題マップをもとに各自自治体が課題を解消しながら前向きに取組んで行くために必要な考え方や方策、工夫等について集中的に討議し、現場発の情報やアイデア、提案を集約した（Aの行政の構想とDの活動の進め方が一体となることで推進員の機能が向上し、成果が生まれる、特に、施策がめざす地域共生を共通のゴールに据え、推進員が活動の焦点を意識しながら日常業務に取組むことで、日々の中で共生が生まれ、施策推進にも寄与できる、推進員が活動の焦点に注力できるためにA,B領域の強化が必要で、少しの工夫でできることが多い、本人視点で地道に取組んでいる地域の人財を大切に等）。以上の点については、人口規模や配置形態に関わらず共通であることが確認された。

3. 配置及び機能強化促進のための推進員活動情報共有システムのあり方の検討と資料制作

全国の推進員が配置状況や活動のプロセス・成果等に関する情報を共通フォーマットで記録・蓄積し共有を日常的に可能にする現場発の循環型システムを検討。今年度は一貫した体系・フォームをもとに以下5種6点を制作。



4. 報告会の開催（2月24日 Zoom 開催）、アンケートの実施

433名参加。① 調査結果等事業報告、② 配置と機能強化をテーマに4地域の推進員から報告、③ 人口規模・立場の異なる5地域の推進員からポイントに関するコメントと視聴者との質疑応答、以上3部構成で実施。アンケート結果では、自地域の補強・改善に活かせる点があったが97%。自由記述では、推進員活動の焦点を確認する必要性、協働関係見直しの必要性、その具体を今後活かしたい等、各地域の展開につながる意見が多数寄せられた。

5. まとめ・提案

- ① 人口規模の大小に係わらず、推進員が多面的成果を生み出し地域共生を創出し始めている。各自自治体が推進員の機能として【地域共生の実現を日常的に推進していく機能】に着目し、その促進をしていくことが、多種多様な事業を本人視点にたって統合し、施策成果の創出、多世代の地域共生を実現していくためにも重要である。好例の横展開のために資料活用を。
- ② 配置と機能強化促進のためには、表層的・部分的・単発的な取組みでなく、**基本的・全体的な促進策**が必要。各市町村の地域性を活かした促進策を**行政と推進員等が協働で練り**、できることから着実に実行し**中長期的に促進**を。
- ③ 機能強化の焦点は「本人視点」「本人発信」「社会参加」。推進員が立場を活かしく本人が望む社会参加の推進-地域ネットワーク拡充-共生の実現への**成功体験を創出・共有・波及**していく**メカニズムとフォーメーション**が重要。それが育つための地域を基盤とした市町村・都道府県による**重層的な後方支援**が効果的。**促進役の人財**と自治体が協働し進展の加速化を。

第1章 研究事業概要

1. 研究事業の目的

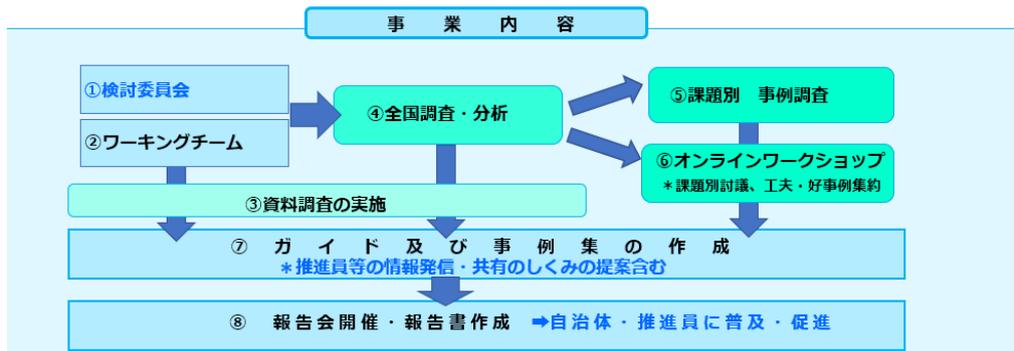
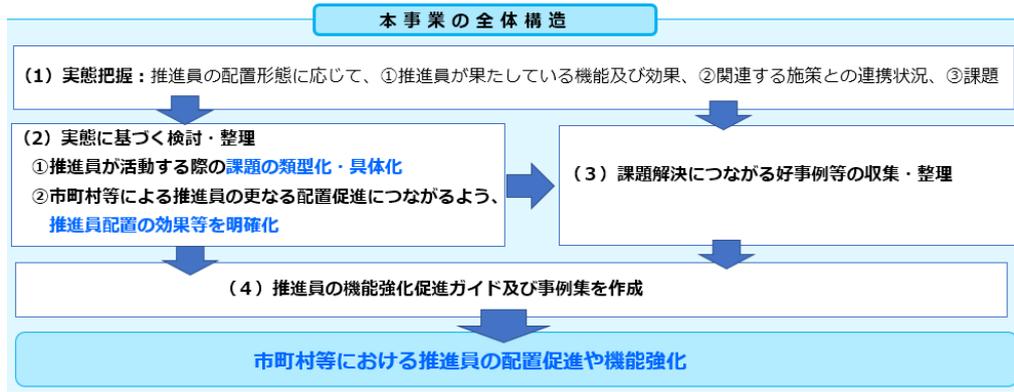
「認知症地域支援推進員」は、各自治体における認知症施策の推進やネットワークの核となる役割を担うが、施策の拡充が進む中、「認知症の本人発信支援」、「チームオレンジの推進」、「社会参加支援（若年性認知症の人を含む）」など、推進員に期待される役割が拡大・多様化しており、各市町村において、推進員の更なる活動の促進に向けて、推進員の機能強化を図る必要がある。

このため、本事業では、推進員の配置形態（専任・兼任等、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、オレンジコーディネーター等との連携等の実態把握を含む。）に応じて、果たしている機能及び効果、関連する施策との連携状況、課題などの実態を把握する。

- ・ 上記実態把握を踏まえ、推進員が活動する際の課題を類型化・具体化するとともに、課題の解決につながるよう具体的な好事例等を収集し、整理を行う。
- ・ また、市町村等による推進員の更なる配置促進につながるよう、推進員配置の効果等を明確化する。
- ・ 以上の検討や、既存の「認知症ライフサポート研修」や「認知症者及び家族への対応ガイドライン」等も踏まえ、市町村等における推進員の配置促進や機能強化につながるよう、「推進員の機能強化促進ガイド及び事例集」を作成する。

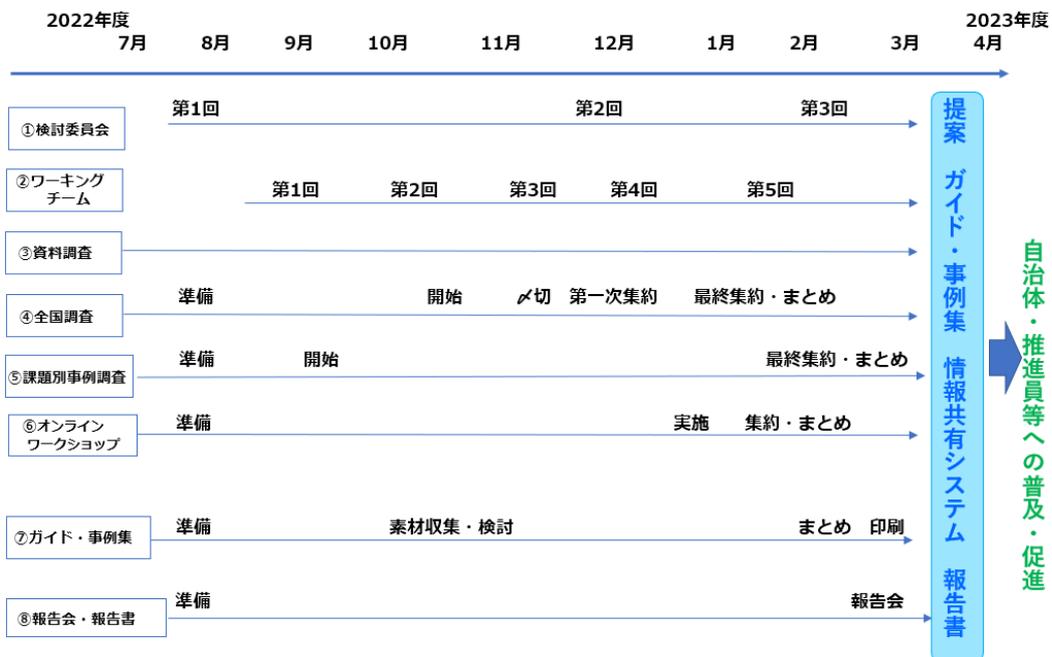
2. 調査研究の全体構造

①検討委員会及びワーキングチームによる検討を基軸に、②推進員の配置形態及び機能に関する資料調査、③推進員の配置形態及び機能に関する全国調査、④オンラインワークショップの開催及び取組情報共有システムを検討した。各市町村において、推進員の更なる活動の促進や、推進員の配置促進や機能強化につながるよう、⑤「推進員の機能強化促進ガイド及び事例集（動画付き）」を作成するとともに、⑦取組情報共有システムを開発し、⑦報告会を開催して周知した。⑧全国に速やかに普及を図るため、開発資材や活用のための情報を Web で公開するとともに、都道府県・市区町村に送付して周知した。



3. 調査研究の方法と経過

事業の経過



4. 研究事業の方法と内容

検討委員会及びワーキングチームの設置

1) 検討委員会の設置

(1) 設置目的

本事業の実施に関し、事業全体の方向性、調査の方法と結果の検討、成果物等に関する討議を行い助言、提言を行うことを目的に、検討委員会を設置した。

(2) 検討委員会委員

推進員に期待される役割が拡大・多様化しており、各市町村において、推進員の更なる活動の促進に向けて、推進員の機能強化を図る必要がある。本人当事者組織代表、家族組織代表、自治体職員、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター、介護職員、有識者 15 名からなる委員会を設置し、委員会を 3 回開催し全体枠組及び調査内容、結果の検討、ガイドの骨子・内容等を検討した。

**令和 4 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究」
検討委員会 委員名簿 (敬称略)**

立 場	氏 名	都道府県	市町村	所 属	備 考
認知症本人当事者組織	藤田 和子	鳥取県	鳥取市	一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ	代表理事 希望大使 (国、鳥取市)
家族組織	鈴木 森夫	京都府		公益社団法人認知症の人と家族の会	代表理事
都道府県	上村 佐和子	兵庫県		兵庫県健康福祉部健康局健康増進課 認知症対策室	認知症対策班長
	中野 早紀子	山口県		山口県健康福祉部長寿社会課地域包括ケア推進班	班長
市町村	青木 裕子	神奈川県	大和市	大和市人生 100 年推進課認知症施策推進係	保健師 大規模都市 人口 24 万 2 千人 (2022 年 6 月)
	杉本 一美	愛知県	名古屋市 拠点 センター	名古屋市社会福祉協議会 名古屋市認知症相談支援センター	人口 229 万 6 千人 (2022 年 6 月)
	速水 陽	北海道	釧路市	釧路市福祉部介護高齢課高齢福祉担当	専門員 中規模市 人口 16 万人 (2022 年 6 月)
	谷口 泰之	和歌山県	御坊市	御坊市市民福祉部介護福祉課地域支援係	係長、認知症地域支援推進員 小規模市 人口 2 万 3 千人 (2022 年 6 月)
	國松 明美	新潟県	湯沢町	湯沢町健康福祉部健康増進課	小規模町 人口 7.9 千人 (2022 年 6 月)
推進員	横山 麻衣	静岡県	藤枝市	藤枝市地域包括ケア推進課	行政・直営包括 人口 14 万 2 千人 (2022 年 6 月)
	力石 雅博	新潟県	燕市	燕市健康福祉部長寿福祉課	行政(出向) 人口 7 万 7 千人 (2022 年 6 月)
	大迫 健二	宮崎県	宮崎市	宮崎市生目・小松台地域包括支援センター	委託包括 人口 40 万人 (2022 年 6 月)
	鎌田 佐智子	秋田県	藤里町	藤里町社会福祉協議会 (地域包括支援センター)	委託包括 人口 3 千人 (2022 年 6 月)
	作田 直人	北海道	千歳市	医療法人資生会 千歳病院 認知症疾患医療センター	認知症疾患医療センター 初期集中兼務 人口 9 万 6 千人 (2022 年 6 月)
	鈴木 裕太	東京都	品川区	社会福祉法人新生寿会 きのこ地域連携室	介護事業所 人口 40 万 4 千人 (2022 年 6 月)
東京センター	永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター			

オブザーバー：谷内 一夫 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 課長補佐
村上 優 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 係長
竹藤 昇香 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 係員

事務局：社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
花田健二、飯塚弘幸、滝口優子、翠川沙織、小宮山恵

(3) 検討委員会の開催

○第1回検討委員会

日時：令和4年7月27日(水) 15時30分～17時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ 地域共生の実現に向けた推進員の配置と機能の実際・課題・工夫について
*各委員の立場や取組み現状をもとに
- ・ 全国調査の目的と構造・内容について

○第2回検討委員会

日時：令和4年11月28日(月) 15時30分～17時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ 全国調査結果(速報)で注目すべき点について
*委員の各立場から
- ・ 推進員活動の機能強化のための提案事項について

○第3回検討委員会

日時：令和5年2月9日(木) 13時30分～15時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ 推進員活動の機能強化促進のための方策について
- ・ 提案事項について
*各委員の立場から

2) ワーキングチームの設置

(1) 設置目的

本事業の実施に関し、実際に推進員の配置形態や活動の実態、課題、課題解決に関して検討している立場・体験をもとに、調査及び成果物等に関して具体的な討議を行い、実行可能性の高い助言、提言を行うことを目的に、ワーキングチームを設置した。

(2) ワーキングチーム委員

地域性を考慮し、自治体関係者、有識者 8 名からなるワーキングチームを設置した。

令和 4 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究」
ワーキングチーム メンバー名簿 (敬称略)

立場	氏名	都道府県	市町村	所属	備考
市町村	杉本 一美	愛知県	名古屋市	名古屋市社会福祉協議会 名古屋市認知症相談支援センター	人口 229 万 6 千人 (2022 年 6 月)
	速水 陽	北海道	釧路市	釧路市福祉部介護高齢課高齢福祉担当	専門員 中規模市 人口 16 万人 (2022 年 6 月)
	谷口 泰之	和歌山県	御坊市	御坊市市民福祉部介護福祉課 地域支援係	係長、認知症地域支援推進員 小規模市 人口 2 万 3 千人 (2022 年 6 月)
推進員	横山 麻衣	静岡県	藤枝市	藤枝市地域包括ケア推進課	行政・直営包括 人口 14 万 4 千人 (2022 年 6 月)
	杉浦 綾乃	静岡県	富士宮市	富士宮市保健福祉部福祉企画課 地域包括ケア推進係	行政・直営包括 人口 12 万 9 千人 (2022 年 6 月)
	カ石 雅博	新潟県	燕市	燕市健康福祉部長寿福祉課	行政(出向) 人口 7 万 7 千人 (2022 年 6 月)
	石毛 幸子	神奈川県	大和市	社会福祉法人徳寿会 晃風園 上草柳・中央地域包括支援センター	委託包括 人口 24 万 2 千人 (2022 年 6 月)
	作田 直人	北海道	千歳市	医療法人資生会 千歳病院 認知症疾患医療センター	認知症疾患医療センター 初期集中兼務 人口 9 万 6 千人 (2022 年 6 月)

(3) ワーキングチーム検討会の開催

○第 1 回ワーキングチーム検討会

日時：令和 4 年 8 月 9 日(火) 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：Web 会議(認知症介護研究・研修東京センター＋各委員の職場等)

議題

- ・ 地域共生の実現に向けて推進員に必要な機能と機能強化のための方策
- ・ 全国調査の目的と構造・内容について

○第 2 回ワーキングチーム検討会

日時：令和 4 年 10 月 17 日(火) 15 時 30 分～17 時 30 分

場所：Web 会議(認知症介護研究・研修東京センター＋各委員の職場等)

議題

- ・ 調査票(案)についての、気づき、改良の提案
 - * 特にご自身の立場の調査票(案)に関して
 - ①全体の構造や流れは、妥当か？
 - ②調査を通じて、得たい内容(データ)がもりこまれているか？
 - ③不要な項目、減らしてもいい項目は？
 - ④内容や表現を、変えた方がいい点は？

⑤その他、必要な配慮等

- ・ 全国調査を通じて、特に明らかにしたい点、伝えたい点
*単純集計、クロス集計で、特に重要になる点について

○第3回ワーキングチーム検討会

日時：令和4年11月9日(水) 15時30分～17時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ グループ討議で話し合う「課題の設定と内容」について
 - ①推進員の配置や機能強化に関する課題として、案の4課題で適切か
 - ②課題についての討議を通じて、今後の自地域に役立つ情報や工夫等が得られるために、話しあいたい内容の具体について
- ・ グループ編成上で配慮すべきことについて
 - ③人口規模別の分け方が妥当か
 - ④参加者として、どういう人に討議に加わってもらおうと役立つ情報・アイデア等が得られるか
- ・ ファシリテーターについて
 - ⑤自分がどの課題のグループに入るといいか
 - ⑥進め方の工夫等

○第4回ワーキングチーム検討会

日時：令和4年12月8日(木) 15時30分～16時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ オンラインワークショップでの検討内容を受けて、活動ガイドや活動情報集、取組み情報検索システムについての検討
- ・ 参考) オンラインワークショップ内容：推進員の活動上の「主な課題(よくある課題)」を解消するために、各自がこれまで取り組んできたことをもとに率直に討議しあい、今後どの地域でも課題を解消しながら、推進員機能を高めていくために必要な考え方、方策、工夫等を、具体的に提起した。

○第5回ワーキングチーム検討会

日時：令和5年1月27日(金) 15時30分～17時30分

場所：Web会議(認知症介護研究・研修東京センター+各委員の職場等)

議題

- ・ ホームページ掲載のフォーム・キーワードについて
- ・ 事例集の構成について
 - *検索用のキーワードの確認
- ・ 報告会について

第2章 「認知症地域支援推進員の配置と活動に関する」全国調査

1. 全国調査の目的・方法

1) 調査の目的

都道府県・市区町村認知症施策担当者、推進員を対象に配置形態と活動実態、成果、課題、課題解消に向けた工夫等に関する実態の把握。

2) 対象

悉皆調査（母数）：市区町村が今年度配置している推進員（8,078名）

参考：6,978名：令和2年度実績調査（認知症施策・地域介護推進課実施状況調べ）

市区町村の認知症施策担当者（1,741名）、都道府県の認知症施策担当者（47名）

3) 方法

調査表の配布・回収

- ・都道府県にメールにて協力依頼、調査表送付
- ・市区町村、推進員には、都道府県の協力を得て、調査の依頼と調査票の送信（メール）。
- ・回答は、都道府県担当者、市区町村担当者、推進員から直接事務局宛で回収。

○調査期間：10月～4週間

○集計・分析：単純集計、クロス集計（道府県別、市町村の人口規模別、立場別）。

4) 調査内容

都道府県、市区町村、推進員について3者共通で下記のI～Vの5領域を設定し、3者それぞれの立場からの回答を求めた。

【全国調査の構造】

都道府県	市区町村	推進員
I. 基本情報		
II. 推進員の機能強化に関し都道府県として取組んでいること	II. 推進員が実際に取組んでいること(機能)	
III. 推進員の取組みを通じた変化・成果		
IV. 推進員が機能を強めるための課題と必要なこと		
V. 推進員活動に関する意向等		

2. 全国調査の回収数(回収率)

①都道府県認知症施策担当者	47 (100%)
②市区町村認知症施策担当者	1,111 (63.8%)
③認知症地域支援推進員*	3,707 (45.8%)

*母数：市町村に配置されている認知症地域支援推進員 8,078人 厚生労働省資料より

3. 【市町村調査】結果

※実数は巻末資料に記載

1. 市町村の基本情報について (n=1111)

- 人口規模：1万人未満 22.6%、1万人以上5万人未満 39.7%、
5万人以上20万人未満 28.0%、20万人以上 9.7%
- 高齢化率：25%未満 11.1%、25%以上30%未満 19.6%、
30%以上35%未満 23.2%、35%以上40%未満 22.0%、40%以上 24.2%
- 認知症施策のご担当者数：3人未満 64.6%、5人未満 24.4%、7人未満 7.1%、7人以上 3.9%
- ご担当者の中で認知症施策を最も長く担当している人の年数：3年未満 32.5%、
3年以上6年未満 37.3%、6年以上9年未満 16.9%、9年以上 13.3%
- 担当部署内で推進員を兼任している人数：いない 43.5%、1人 23.3%、
2人 15.4%、3人以上 17.8%
- 市町村が推進員を最初に配置した年度：2014年度以前 18.4%、2015年度 24.8%、
2016年度 23.8%、2017年度 14.8%、2018年度以降 18.0%
- 現在の推進員の配置総数：0人 0.5%、1人 26.1%、2人 19.0%、
3人以上5人未満 22.7%、5人以上10人未満 20.1%、10人以上 11.7%
- 最初に配置してからの推進員の配置数等の変更：
変更していない 43.1%、配置する組織の種類を増やし、数も増員 19.0%、
配置する組織の種類は増やしていないが、配置組織数や推進員数を増やした 28.7%、
その他の変更をしている 9.2%
- 現在、推進員を配置している組織：
市町村役所 30.0%、市町村直営地域包括支援センター 48.6%、
委託型地域包括支援センター 39.7%、社会福祉協議会（本体） 7.7%、
認知症疾患医療センター 1.2%、それ以外の医療機関 2.0%、
介護事業所 5.9%、出向 0.9%、その他 4.6%
- 推進員の配置形態：専任配置のみ 11.7%、兼任配置のみ 78.8%、
専任と兼任を配置 9.0%、その他の配置をしている 0.5%
- 推進員の勤務形態：常勤のみ 78.5%、常勤と非常勤が混ざっている 14.3%、
非常勤のみ 5.9%、把握していない 1.3%
- 市町村の推進員が、推進員以外で兼務している連携関連の役割：
初期集中支援チーム員 67.1%、生活支援コーディネーター 14.7%、
チームオレンジコーディネーター 27.7%、相談支援包括化推進員 1.7%、
高齢者の就労活動のコーディネーター 0.5%、
在宅医療・介護連携推進に関するコーディネーター 6.9%、
若年性認知症支援コーディネーター 1.6%、キャラバンメイト 68.1%、
認知症介護指導者 2.6%、その他（包括業務や施策担当の役割以外） 26.1%

II. 市町村内の推進員が実際に取組んでいること（機能）

II-1 推進員の取組み方の基本姿勢や焦点について

①認知症の人（以下、本人とする）への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう、②本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をする、③活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている（本人抜きに進めない）は、「日常的にやっている」が約4～8割であった。④日常の中で本人が声（思い、希望等）を表せるための支援（本人発信支援）に注力する、⑤本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること（社会参加支援）に注力する、⑥認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること（認知症バリアフリー）に注力する、⑧事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）は、「（あまり）やれていない」が約4割～5割弱であった。⑦活動を、推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちとつながりながら進めるは、「時々やっている」が約4割であった。

n=1111

項目	日常的にやっている	時々やっている	（あまり）やれていない	把握していない
①認知症の人（以下、本人とする）への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう	81.5%	12.8%	3.2%	2.6%
②本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をする	37.5%	32.9%	24.7%	4.8%
③活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている（本人抜きに進めない）	45.4%	27.9%	22.2%	4.5%
④日常の中で本人が声（思い、希望等）を表せるための支援（本人発信支援）に注力する	27.4%	26.9%	39.1%	6.6%
⑤本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること（社会参加支援）に注力する	19.5%	22.8%	48.2%	9.5%
⑥認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること（認知症バリアフリー）に注力する	15.2%	27.6%	46.4%	10.9%
⑦活動を、推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちとつながりながら進める	29.0%	39.0%	28.2%	3.7%
⑧事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）	21.0%	25.8%	40.1%	13.1%

II - 2 医療・介護等の支援ネットワークの構築

①医療職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、②初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、③介護職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、⑩認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用するは、「日常的にやっている」が約4割～5割弱であった。④権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、⑥地域で暮らす人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行うは、「時々やっている」が約4割弱であった。⑤本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、⑦地域で働く多様な領域の人たちや企業と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う、⑧専門職と地域で暮らす人たちが、本人を中心につながり支えあう機会をつくる、⑨認知症ケアパスを、本人視点にたつて見直し、改良する、⑪見守りネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする、⑫行方不明など本人のSOS時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする、⑬自然災害時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする、⑭ITや通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取組みをする、⑮その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取組んでいることがあるは、「(あまり) やれていない」が約4～6割であった。

n=1111

項目	日常的にやっている	時々やっている	(あまり) やれていない	把握していない
①医療職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	39.5%	36.0%	21.0%	3.5%
②初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	48.7%	31.9%	16.2%	3.3%
③介護職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	42.7%	36.7%	16.3%	4.3%
④権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	34.0%	37.4%	22.3%	6.4%
⑤本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	6.2%	14.0%	57.6%	22.2%
⑥地域で暮らす人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	23.3%	38.3%	31.6%	6.8%
⑦地域で働く多様な領域の人たちや企業と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	8.8%	20.9%	54.2%	16.2%
⑧専門職と地域で暮らす人たちが、本人を中心につながり支えあう機会をつくる	18.4%	29.1%	44.0%	8.4%
⑨認知症ケアパスを、本人視点にたつて見直し、改良する	21.9%	32.5%	40.1%	5.5%
⑩認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用する	41.7%	31.5%	22.9%	3.8%
⑪見守りネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	19.0%	30.6%	42.3%	8.1%
⑫行方不明など本人のSOS時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	18.3%	27.9%	44.4%	9.5%
⑬自然災害時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	5.9%	16.2%	59.2%	18.7%
⑭ITや通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取組みをする	6.0%	10.6%	61.0%	22.4%
⑮その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取組んでいることがある	7.7%	10.0%	41.2%	41.1%

II-3 関係機関と連携した事業の企画・調整について

①講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する、②配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する（チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等）、⑪認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整は、「日常的にやっている」が約4割であった。④地域ケア会議が、本人視点での検討が展開するように企画・調整する、⑥住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取り組む企画・調整をするは、「時々やっている」が約3～4割であった。③病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する、⑦本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする、⑧診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする、⑨家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする、⑩本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする、⑫地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整、⑬地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整、⑭地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整、⑮本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整、⑯本人の声を聞きながら自地域に潜むバリアを解消していくための認知症バリアフリーの企画・調整、⑰「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整、⑱本人が理解者とつながり、本人が参画したチームで支えあうチームオレンジ等の企画・調整は、「(あまり) やれていない」が約3割強～7割弱であった。

n=1111

項目	日常的にや っている	時々やっ ている	(あまり) や れていない	把握して いない
①講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する	41.9%	30.7%	22.3%	5.2%
②配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する（チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等）	40.9%	32.6%	22.0%	4.6%
③病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する	20.0%	28.3%	36.2%	15.5%
④地域ケア会議が、本人視点での検討が展開するように企画・調整する	27.4%	32.6%	30.6%	9.4%
⑤認知症多職種協働研修が、本人視点で協働について学びあえるように企画・調整する	7.4%	10.5%	53.1%	29.0%
⑥住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取り組む企画・調整をする	27.2%	40.0%	27.2%	5.6%
⑦本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする	11.1%	15.5%	60.6%	12.8%
⑧診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする	3.6%	9.2%	68.8%	18.3%
⑨家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする	8.0%	14.4%	60.5%	17.1%
⑩本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする	6.1%	11.3%	59.9%	22.7%
⑪認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整	36.5%	36.3%	22.7%	4.4%
⑫地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整	6.2%	18.2%	62.2%	13.4%
⑬地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整	4.4%	13.3%	64.7%	17.7%
⑭地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整	1.2%	4.8%	67.4%	26.5%
⑮本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整	5.6%	17.1%	61.0%	16.3%
⑯本人の声を聞きながら自地域に潜むバリアを解消していくための認知症バリアフリーの企画・調整	2.8%	10.7%	68.7%	17.9%
⑰「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整	1.4%	6.1%	67.2%	25.3%
⑱本人が理解者とつながり、本人が参画したチームで支えあうチームオレンジ等の企画・調整	11.1%	17.9%	55.7%	15.3%

⑤-1 多職種協働研修に取り組んでいる場合

独自に実施、が約9割であった。

n=133

項目	
ライフサポート研修を実施	3.0%
ライフサポート研修を発展させて実施	3.0%
独自に実施	94.0%

⑩-1 取組みをしている場合

地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている、が5割弱であった。

n=142

項目	
以前から、すでに地域独自の一体型支援の企画・調整をしてきている	31.7%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている	47.9%
一体型支援事業で示されたスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	10.6%
その他	9.9%

⑱-1 取組みをしている場合

地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、チームオレンジの企画・調整をしている、が約6割であった。

n=276

項目	
以前から、すでに地域独自のチームによる支援体制づくりの企画・調整をしてきている	18.8%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、チームオレンジの企画・調整をしている	62.0%
チームオレンジのスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	15.2%
その他	4.0%

II - 4 個別の相談・支援体制構築

①家族や周囲の声や情報だけではなく、本人が声（思いや望み等）を表せるように、配慮や工夫をする、②医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる、③医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくるは、「日常的にやっている」が約4～5割弱であった。④個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝えるは、「時々やっている」が3割強であった。⑤関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援（体制）の見直し・拡充を図る、⑥個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たに作り出すは、「（あまり）やれていない」が約4割～6割強であった。

n=1111

項目	日常的にやっている	時々やっている	（あまり）やれていない	把握していない
①家族や周囲の声や情報だけではなく、本人が声（思いや望み等）を表せるように、配慮や工夫をする	48.5%	31.4%	15.5%	4.6%
②医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる	42.4%	33.7%	19.6%	4.3%
③医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくる	41.0%	36.3%	18.0%	4.7%
④個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝える	24.7%	36.3%	31.3%	7.7%
⑤関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援（体制）の見直し・拡充を図る	14.8%	34.8%	43.2%	7.2%
⑥個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たに作り出す	5.5%	17.2%	65.8%	11.5%

II - 5 認知症施策の全体的な推進・調整

①年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う、③次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行うは、「時々やっている」が4割弱であった。①事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図る、④まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が（関係者ととともに）試行的にやってみるは、「（あまり）やれていない」が約5～6割であった。

n=1111

項目	日常的にやっている	時々やっている	（あまり）やれていない	把握していない
①事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図る	17.5%	23.6%	50.3%	8.7%
②年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う	27.4%	39.0%	27.9%	5.8%
③次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う	26.9%	38.4%	29.7%	5.0%
④まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が（関係者ととともに）試行的にやってみる	5.0%	15.2%	60.4%	19.4%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について ※推進員の間接的な取組みも含めて

Ⅲ-1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」

①本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった、②本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった、③本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった、④本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった、⑤本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった、⑥本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった、⑦本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった、⑧本人が発症後もそれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった、⑨本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった、⑩本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった、⑪本人がGPS機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった、⑫本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった、⑬本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)、⑭本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった、⑮認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった、⑯本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった、⑰若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった、⑱その他、本人に関する変化や成果がみられているは、「まだない/把握していない」が約4～9割であった。

n=1111

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだない/把握していない
①本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった	7.7%	30.3%	15.3%	2.2%	44.6%
②本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった	7.9%	29.3%	15.7%	2.3%	44.8%
③本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった	3.5%	14.0%	5.1%	3.4%	74.0%
④本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった	2.7%	10.8%	3.0%	3.2%	80.2%
⑤本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった	1.6%	17.6%	5.0%	2.6%	73.2%
⑥本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった	8.1%	25.5%	8.6%	5.5%	52.3%
⑦本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった	0.9%	7.6%	2.8%	1.9%	86.8%
⑧本人が発症後もそれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった	0.2%	2.9%	0.9%	1.2%	94.8%
⑨本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった	1.8%	12.7%	4.4%	3.1%	78.0%
⑩本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった	0.5%	3.1%	1.3%	1.3%	93.9%
⑪本人がGPS機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	1.0%	6.3%	4.7%	1.6%	86.3%
⑫本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	0.5%	2.4%	1.2%	1.5%	94.4%
⑬本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)	1.5%	16.1%	6.1%	2.6%	73.7%
⑭本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった	7.0%	26.7%	12.5%	4.0%	49.8%
⑮認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった	1.7%	13.7%	5.7%	2.1%	76.8%
⑯本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった	2.2%	6.5%	2.2%	3.1%	86.1%
⑰若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった	1.6%	8.1%	1.6%	3.9%	84.7%
⑱その他、本人に関する変化や成果がみられている	1.6%	5.2%	1.5%	2.8%	88.8%

III-2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」

①住民が本人の声を聴こうとするようになった、②住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった、③住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった、④住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった、⑤地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった、⑥住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった、⑦医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった、⑧介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった、⑨医療・介護等の専門職の人たちが、本人視点にたつて支援や連携をするようになった、⑩地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった、⑪医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった、⑫地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった、⑬地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった、⑭地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった、⑮住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった、⑯医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった、⑰本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった、⑱その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果があるは、「まだない/把握していない」が約4～9割であった。

n=1111

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだない/把握していない
①住民が本人の声を聴こうとするようになった	4.9%	20.7%	9.3%	5.4%	59.8%
②住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった	12.3%	22.3%	17.2%	5.9%	42.2%
③住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった	4.8%	23.3%	12.0%	4.8%	55.0%
④住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった	8.1%	25.3%	10.1%	5.6%	50.9%
⑤地域の企業等で働く人が認知症の人への関心を高め配慮や工夫をするようになった	5.3%	12.7%	6.6%	3.8%	71.6%
⑥住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった	2.5%	7.8%	3.3%	2.2%	84.3%
⑦医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	7.2%	23.7%	10.6%	2.5%	56.0%
⑧介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	9.5%	25.9%	10.7%	2.6%	51.4%
⑨医療・介護等の専門職の人たちが本人視点にたつて支援や連携をするようになった	7.5%	28.6%	10.4%	2.7%	50.8%
⑩地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった	11.4%	36.5%	9.0%	3.6%	39.5%
⑪医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった	6.5%	18.2%	5.7%	4.0%	65.6%
⑫地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった	3.9%	14.3%	4.0%	3.6%	74.2%
⑬地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった	1.7%	2.9%	1.2%	1.1%	93.1%
⑭地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった	0.7%	6.4%	2.5%	1.1%	89.3%
⑮住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	2.6%	10.0%	2.8%	4.3%	80.3%
⑯医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	2.3%	8.1%	2.3%	2.8%	84.5%
⑰本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった	3.5%	24.2%	7.0%	3.1%	62.2%
⑱その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果がある	2.7%	8.1%	2.8%	3.3%	83.0%

III-3 情報の流れや協働に関する変化・成果

①施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった、②市町村内の推進員/推進役の人から施策担当者に情報が入るようになり、協働しやすくなった、③施策担当者に、地域包括支援センター（の職員）の情報が入るようになり、協働しやすくなったは、「増えてはいないが、中身が充実してきている」が約3割～4割弱であった。④施策担当者に、医療関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑤施策担当者に、介護関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった⑥施策担当者に、権利擁護の関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑦施策担当者に、警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑧施策担当者に、民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑨施策担当者に、生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑩地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑪本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑫家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑬必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がったは、「まだない/把握していない」が4割弱～7割強であった。

n=1111

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだない/把握していない
①施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった	15.9%	34.2%	18.1%	3.4%	28.4%
②市町村内の推進員/推進役の人から施策担当者に情報が入るようになり、協働しやすくなった	15.9%	34.8%	17.2%	3.5%	28.6%
③施策担当者に、地域包括支援センター（の職員）の情報が入るようになり、協働しやすくなった	16.7%	38.1%	21.0%	2.6%	21.6%
④施策担当者に、医療関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった	9.1%	27.7%	16.5%	2.0%	44.7%
⑤施策担当者に、介護関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった	9.0%	30.6%	17.7%	2.4%	40.3%
⑥施策担当者に、権利擁護の関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった	8.1%	25.5%	15.2%	2.8%	48.4%
⑦施策担当者に、警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった	12.9%	22.0%	25.3%	2.0%	37.8%
⑧施策担当者に、民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなった	10.9%	31.6%	23.1%	2.2%	32.2%
⑨施策担当者に、生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった	10.8%	26.7%	13.6%	4.4%	44.5%
⑩地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった	5.6%	16.2%	11.2%	2.4%	64.6%
⑪本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった	3.6%	12.3%	6.2%	2.2%	75.7%
⑫家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった	8.1%	24.2%	18.8%	3.7%	45.1%
⑬必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がった	11.9%	27.4%	12.9%	4.2%	43.6%

III-4 あなたの市町村での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況

①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつづけるようになってきている、②認知症があってもなくても、同じ地域とともに生きる意識や姿が広がってきているは、「少しずつ進みつつある」が4割～5割弱であった。

n=1111

項目	年々、拡充してきている	少しずつ進みつつある	今年度から動きだしてきている	今年度はまだだが、来年度から動きだす(予定含む)	まだ動きも予定もない
①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつづけるようになってきている	2.7%	42.1%	6.0%	14.3%	34.9%
②認知症があってもなくても、同じ地域とともに生きる意識や姿が広がってきている	3.1%	49.5%	6.6%	12.5%	28.3%

IV. 推進員が機能を強め、活躍するための課題や必要なこと

IV-1 認知症施策担当者と推進員との関係性について

①施策担当者や推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある、②施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい、③施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししている、⑤施策担当者や推進員と一緒に、地域や取組みの現場に出向く機会がある、⑥推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えている、⑦推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする関係を育てる、⑧施策担当者/関係者が悩んだり困っている時に、推進員に相談したり助けを求められる関係を育てる、⑨推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする、⑩施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めることがあるは、「すでにあり、引き続き必要」が約3～6割であった。④施策担当者や推進員と一緒に、地元の認知症の本人の話を聴いたり、本人と過ごす場面があるは、「現在はなく、強化が必要」が約4割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①施策担当者や推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある	60.8%	23.2%	14.9%	1.1%
②施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい	62.4%	28.7%	8.0%	0.9%
③施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししている	42.9%	33.0%	22.2%	1.9%
④施策担当者や推進員と一緒に、地元の認知症の本人の話を聴いたり、本人と過ごす場面がある	26.2%	26.2%	44.6%	3.1%
⑤施策担当者や推進員と一緒に、地域や取組みの現場に出向く機会がある	33.9%	29.5%	33.5%	3.0%
⑥推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えている	46.8%	36.6%	15.5%	1.2%
⑦推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする関係を育てる	44.1%	34.5%	20.2%	1.3%
⑧施策担当者/関係者が悩んだり困っている時に、推進員に相談したり助けを求められる関係を育てる	48.0%	35.0%	15.7%	1.3%
⑨推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする	44.5%	35.6%	18.6%	1.3%
⑩施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めることがある	51.0%	33.4%	14.2%	1.4%

IV-2 認知症施策推進に向けた、認知症施策担当者と推進員との合意形成について

< 1) 担当者と推進員との、わがまちが目指すこと（ビジョン、方向性）の検討と共有・浸透 >

①認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する、②認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する、③（新規の）事業が目指していることや意味について話しあい、共有するは、「あるが、より強化が必要」が約4割であった。④市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろるように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかるは、「現在はなく、強化が必要」が約4割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する	20.3%	43.6%	35.2%	0.8%
②認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する	20.0%	43.5%	35.8%	0.6%
③（新規の）事業が目指していることや意味について話しあい、共有する	25.0%	46.7%	27.6%	0.7%
④市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろるように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかる	15.1%	39.1%	44.3%	1.6%

< 2) 担当者と推進員との、認知症に関する地域の現状と課題の検討と具体的な共有 >

②認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有するは、「すでにあるが、より強化が必要」が約割であった。①本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有するは、「（あまり）なく、強化が必要」が約割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	すでにあるが、より強化が必要	（あまり）なく、強化が必要	必要と思わない
①本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有する	20.7%	37.1%	41.4%	0.8%
②認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有する	21.2%	40.3%	37.7%	0.8%

< 3) 担当者と推進員との、推進員の位置づけと機能・役割に関する検討と共有 >

②わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有している、③推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有しているは、「あるが、より強化が必要」が約4割であった。①わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有している、④推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整するは、「現在はなく、強化が必要」が約4割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有している	17.0%	38.6%	42.8%	1.6%
②わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有している	16.7%	42.7%	39.0%	1.6%
③推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有している	16.2%	41.9%	40.4%	1.6%
④推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整する	16.4%	37.1%	43.7%	2.8%

< 4) 担当者と推進員との、活動方針や推進員の機能についての具体的な共有 >

①事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする、②認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく③地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく（認知症観の変革）、⑩事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく（楽しさ、気軽さ）、⑪推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく（自発的な活動重視）、⑫当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく（実情に応じた柔軟な改良）、⑬事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む（持続発展性）、⑯推進員が、本人・地域と行政をつなぐパイプ役を果たす（届きにくい声や力等を行政につなぐ機能）、⑰推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政の計画づくりや予算に反映していく（施策提案・立案）は、「あるが、より強化が必要」が約4～5割であった。④「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく、⑤施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく（本人視点、本人参画の重視）、⑥施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く（本人の声が起点）、⑦国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取組みを創意工夫していく（自治体主体、創意工夫）、⑧地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む（創出力の重視）、⑨事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）、⑭事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく（事業の連動・統合）、⑮増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち（住民、専門職等）が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく（地域の主体的取組みの推進）は、「現在はなく、強化が必要」が約4～5割強であった。

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする	26.2%	52.2%	20.6%	1.0%
②認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく	24.3%	54.0%	20.8%	0.9%
③地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく（認知症観の変革）	19.1%	50.1%	29.1%	1.6%
④「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく	10.4%	30.8%	56.2%	2.6%
⑤施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく（本人視点、本人参画の重視）	11.7%	35.7%	51.3%	1.3%
⑥施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く（本人の声が起点）	9.7%	30.7%	58.1%	1.5%
⑦国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取り組みを創意工夫していく（自治体主体、創意工夫）	11.2%	39.8%	47.7%	1.4%
⑧地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む（創出力の重視）	11.0%	36.8%	51.0%	1.2%
⑨事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）	12.1%	31.7%	54.6%	1.6%
⑩事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく（楽しさ、気軽さ）	15.6%	42.9%	40.5%	1.1%
⑪推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく（自発的な活動重視）	18.7%	39.9%	39.8%	1.6%
⑫当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく（実情に応じた柔軟な改良）	18.5%	44.7%	35.6%	1.3%
⑬事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む（持続発展性）	17.8%	49.9%	31.4%	0.9%
⑭事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく（事業の連動・統合）	13.8%	40.1%	45.0%	1.1%
⑮増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち（住民、専門職等）が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく（地域の主体的取組みの推進）	9.2%	34.9%	54.7%	1.1%
⑯推進員が、本人・地域と行政とをつなぐパイプ役を果たす（届きにくい声や力等を行政につなぐ機能）	18.8%	44.5%	35.6%	1.1%
⑰推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政の計画づくりや予算に反映していく（施策提案・立案）	17.7%	44.3%	37.0%	1.0%

IV-3 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取り組み

①推進員が配置されている職場の上司等に、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけ、②推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知、⑦推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を支援・調整、⑧推進員が活動を進める上で必要な個人情報の入手や共有を、行政が支援・調整は、「あるが、より強化が必要」が約3～4割であった。③推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織（医師会、自治会、警察、企業等）へ広く発信・周知、④行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ、⑤推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知、⑥推進員が活動を進める上で、実際に関係機関（医師会、自治会、学校、商工、警察等）と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつながりや調整を図るは、「現在はなく、強化が必要」が約4～6割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員が配置されている職場の上司等に、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけ	35.0%	37.1%	24.1%	3.8%
②推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知	15.3%	43.1%	38.8%	2.7%
③推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織（医師会、自治会、警察、企業等）へ広く発信・周知	12.4%	38.5%	46.5%	2.6%
④行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ	14.3%	33.7%	48.6%	3.4%
⑤推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知	9.2%	25.4%	61.8%	3.6%
⑥推進員が活動を進める上で、実際に関係機関（医師会、自治会、学校、商工、警察等）と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつながりや調整を図る	19.3%	38.3%	40.5%	2.0%
⑦推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を支援・調整	24.0%	37.6%	35.3%	3.1%
⑧推進員が活動を進める上で必要な個人情報の入手や共有を、行政が支援・調整	31.6%	33.2%	30.1%	5.1%

IV-4 推進員同士等がつながり、学びあい、支えあう機会等

①同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる

※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会について、⑦都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整は、「すでにあり、引き続き必要」が4割弱であった。②近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる、③困った時や相談したい時に、タイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつなぎやしきみをつくる、④推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫、⑤推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備やICTの活用に関する市町村の支援、⑥市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有、⑧推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる、⑨認知症施策の担当者と推進員が、施策や全国の新しい動きを一緒に学べる都道府県や全国での機会をつくるは、「現在はなく、強化が必要」が3割強～7割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる ※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会について	38.1%	25.1%	33.4%	3.4%
②近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる	11.7%	14.9%	69.8%	3.6%
③困った時や相談したい時に、タイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつなぎやしきみをつくる	20.5%	22.7%	52.6%	4.2%
④推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫	17.4%	20.4%	52.9%	9.3%
⑤推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備やICTの活用に関する市町村の支援	15.0%	12.0%	52.6%	20.4%
⑥市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有	13.8%	24.1%	58.0%	4.1%
⑦都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整	39.3%	25.0%	30.9%	4.8%
⑧推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる	32.2%	29.3%	35.8%	2.7%
⑨認知症施策の担当者と推進員が、施策や全国の新しい動きを一緒に学べる都道府県や全国での機会をつくる	27.7%	27.2%	41.5%	3.6%

IV-5 推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」や質向上の促進について

①推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる、②推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有、③推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信、④推進員活動の報告会の開催、⑤自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施は、「現在はなく、強化が必要」が約6～7割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる	9.4%	30.7%	57.5%	2.4%
②推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有	2.5%	5.4%	73.7%	18.5%
③推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信	3.7%	8.6%	76.6%	11.1%
④推進員活動の報告会の開催	6.4%	8.3%	67.2%	18.1%
⑤自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施	7.9%	14.7%	71.3%	6.1%

④-1 報告会を行っている場合、実施方法

推進員のみで実施、が約5割であった。

n=130

項目	
地域で公開して実施	5.4%
活動の関係者が参加して実施	38.5%
推進員のみで実施	50.0%
その他	6.2%

IV-6 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等

①推進員が（短期間で）異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ、②推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつづけていけるための調整や位置づけ、③推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ、④推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援は、「現在はなく、強化が必要」が約5割～7割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員が（短期間で）異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ	15.4%	17.6%	55.6%	11.4%
②推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつづけていけるための調整や位置づけ	4.1%	7.3%	64.9%	23.7%
③推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ	3.6%	4.9%	71.6%	19.9%
④推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援	13.3%	21.6%	58.7%	6.4%

IV-7 認知症施策を推進していくための、市町村としての推進員の適正な配置と工夫等

①市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人財が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする、②市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする、③市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする、④市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする、⑤推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする、⑥推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に進めていくフォーメーションをつくるは、「現在はなく、強化が必要」が約5～7割であった。

n=1111

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人財が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする	13.4%	21.9%	58.4%	6.3%
②市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする	16.8%	22.1%	53.2%	7.9%
③市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする	13.9%	17.8%	56.1%	12.3%
④推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする	14.7%	15.3%	50.4%	19.6%
⑤推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に進めていくフォーメーションをつくる	7.3%	10.5%	70.3%	12.0%

V. 推進員の機能強化に関する市町村担当者の意向等

V-1 推進員の強化機能に関する市町村担当の意向

「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を進めていきたい、が7割強であった。

n=1111

項目	
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を進めていきたい	77.1%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をこれまであまり持っていなかったが、今後は推進員を重視し、機能強化を進めていきたい	6.4%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」とはあまり考えておらず、施策担当者として、推進員の機能強化を進めていこうとは、(あまり) 思わない	1.8%
推進員について考える余裕や環境がない	12.1%
その他、上記以外の推進員の存在や機能強化に関する考えがある	2.6%

V-2 市町村内全体の推進員活動の促進役になる人財について

そうした人財が複数名おり、組織化まではしていないが、市町村全体の推進員機能の向上のために、施策担当者と一緒に取組んでいる、が約2割であった。

n=1111

項目	
そうした人財が複数名おり、すでにそうした人たちを組織化し、市町村全体の推進員機能の向上のために、施策担当者と一緒に取組んでいる	11.0%
そうした人財が複数名おり、組織化まではしていないが、市町村全体の推進員機能の向上のために、施策担当者と一緒に取組んでいる	23.9%
そうした人財はいるが、市町村全体の推進員機能の向上のための施策担当者との連携・協働はまだなく、今後一緒に取組みたい	17.1%
そうした人財はいるが、推進員機能の向上のための連携・協働までは考えていない	6.0%
そうした人財がいるかどうか把握していないが、今後把握し、連携・協働をしていきたい	15.9%
そうした人財がいるかどうか把握しておらず、今後も連携・協働までは考えていない	4.5%
市町村の推進員は一人あるいは数人であり、市町村内というよりは、他市町村の推進員とのネットワークや推進員機能の向上のための促進役として活動することを市町村として応援している	15.0%
その他	6.5%

4. 【 認知症地域支援推進員調査 】 結果

※実数は巻末資料に記載

1. 市町村の基本情報について (n=3707)

- 人口規模：1万人未満 10.6%、1万人以上5万人未満 25.3%、
5万人以上20万人未満 32.6%、20万人以上 31.5%
- 高齢化率：25%未満 17.5%、25%以上30%未満 28.2%、
30%以上35%未満 24.9%、35%以上40%未満 15.7%、40%以上 13.7%
- 推進員を最初に配置した年度：2013年度以前 17.6%、2014年度 11.5%、2015年度 25.0%、
2016年度 20.1%、2017年度 12.5%、2018年度以降 13.3%
- 現在の推進員の配置総数：1人 8.9%、2人 8.4%、3人以上5人未満 16.1%、
5人以上10人未満 25.1%、10人以上 41.5%
- 年齢：20代 6.0%、30代 19.4%、40代 35.5%、50代 28.1%、60代以上 11.0%
- 所持している資格等：医師 0.0%、歯科医師 0.0%、薬剤師 0.1%、歯科衛生士 0.8%、栄養士 0.7%、
保健師 27.0%、助産師 0.4%、看護師 34.2%、准看護師 1.3%、理学療法士 0.5%、作業療法士 0.8%、
言語聴覚士 0.1%、視能訓練士 0.0%、義肢装具士 0.0%、あん摩マッサージ指圧師 0.1%、はり師 0.1%、
きゅう師 0.1%、柔道整復師 0.1%、社会福祉士 36.8%、精神保健福祉士 8.4%、介護福祉士 25.1%、
介護支援専門員 48.6%、認知症介護指導者 0.9%、その他 4.0%
- ご自身が推進員として配置された年度：2015年度以前 8.7%、2016～2017年度 17.0%、
2018～2019年度 22.2%、2020～2021年度 28.9%、2022年度以降 23.1%
- 配置されているご自身の組織：
市町村役所 10.9%、市町村直営地域包括支援センター 25.6%、委託型地域包括支援センター 52.8% 社会
福祉協議会（本体） 3.0%、認知症疾患医療センター 1.0%、それ以外の医療機関 2.5%、
介護事業所 2.3%、出向 0.6%、その他 1.4%
- 市町村の認知症施策担当と推進員を兼任：していない 61.8%、している 38.2%
- 所属する組織の中で何代目か：自分が初めての推進員 28.4%、2代目 25.1%、
3代目以上 32.2%、不明 14.4%
- 雇用形態：正規 84.2%、契約/嘱託 12.9%、その他 2.9%
- 勤務形態：常勤 91.7%、非常勤 8.3%（非常勤の場合、一週間の勤務時間数：32時間以下 12.0%、33時間
以上40時間未満 24.9%、40時間以上 63.1%）
- 推進員としての配置形態：推進員として専任配置 12.1%、他の業務と兼任配置 87.9%
- 市町村の推進員が、推進員以外で兼務している連携関連の役割：初期集中支援チーム員 46.7%、
生活支援コーディネーター 10.1%、チームオレンジコーディネーター 12.8%、
相談支援包括化推進員 2.6%、高齢者の就労的活動のコーディネーター 0.2%、在宅医療・介護連携推進
に関するコーディネーター 3.3%、若年性認知症支援コーディネーター 0.6%、キャラバンメイト 55.5%、
認知症介護指導者 1.1%、その他（包括業務や施策担当の役割以外） 31.5%
- 全仕事の中で推進員に関する活動が占める時間の割合：10%未満 19.1%、10%以上20%未満 29.2%、
20%以上30%未満 15.8%、30%以上40%未満 12.1%、40%以上100%以下 23.8%

II. 推進員が実際に取組んでいること（機能）

II-1 取組み方の基本姿勢や焦点について

①認知症の人（以下、本人とする）への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう、③活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている（本人抜きに進めない）は、「日常的にやっている」が約4～7割であった。②本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をするは、「時々やっている」が約3割であった。④日常の中で本人が声（思い、希望等）を表せるための支援（本人発信支援）に注力する、⑤本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること（社会参加支援）に注力する、⑥認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること（認知症バリアフリー）に注力する、⑦活動を、推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちとつながりながら進める、⑧事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）は、「やっていない」約4～5割強であった。

n=3707

項目	日常的にやっている	時々やっている	やりたいが（あまり）やれていない	やっていない
①認知症の人（以下、本人とする）への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう	71.0%	20.1%	7.4%	1.4%
②本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をする	27.7%	33.0%	32.8%	6.5%
③活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている（本人抜きに進めない）	41.3%	28.1%	27.3%	3.3%
④日常の中で本人が声（思い、希望等）を表せるための支援（本人発信支援）に注力する	28.3%	26.3%	39.9%	5.5%
⑤本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること（社会参加支援）に注力する	13.9%	21.1%	55.9%	9.1%
⑥認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること（認知症バリアフリー）に注力する	10.1%	20.3%	57.1%	12.5%
⑦活動を、推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちとつながりながら進める	18.4%	35.3%	40.0%	6.2%
⑧事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）	13.4%	20.1%	53.3%	13.2%

II-2 医療・介護等の支援ネットワークの構築

①医療職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、②初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、③介護職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、④権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、⑩認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用するは、「時々やっている」が約3割～4割弱であった。⑤本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、⑥地域で暮らす人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、⑦地域で働く多様な領域の人たち/企業と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う、⑧専門職と地域で暮らす人たちがいっしょになって、本人を中心につながり支えあう機会をつくる、⑨認知症ケアパスを、本人視点にたって見直し、改良する、⑪見守りネットワークを、本人視点にたって見直し、よりよいネットワークにする、⑫行方不明など本人のSOS時のネットワークを、本人視点にたって見直し、よりよいネットワークにする、⑬自然災害時のネットワークを、本人視点にたって見直し、よりよいネットワークにするは、「やりたいが（あまり）やれていない」が約～割であった。⑭ITや通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取組みをする、⑮その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取組んでいることがあるは、「やっていない」が4割弱～5割であった。

項目	日常的にや っている	時々やっ ている	やりたいが (あまり)や れていない	やっていない
①医療職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	27.0%	38.2%	29.0%	5.8%
②初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	29.3%	32.6%	25.8%	12.3%
③介護職の人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	29.7%	38.3%	25.6%	6.4%
④権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	23.7%	35.8%	29.8%	10.7%
⑤本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	4.1%	9.5%	45.2%	41.2%
⑥地域で暮らす人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	13.9%	35.3%	41.8%	9.0%
⑦地域で働く多様な領域の人たち/企業と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う	4.8%	14.9%	51.2%	29.1%
⑧専門職と地域で暮らす人たちがいっしょになって、本人を中心につながり支えあう機会をつくる	9.8%	26.9%	50.7%	12.6%
⑨認知症ケアパスを、本人視点にたつて見直し、改良する	8.8%	23.5%	38.3%	29.5%
⑩認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用する	24.2%	34.0%	28.8%	13.0%
⑪見守りネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	8.1%	23.6%	47.1%	21.1%
⑫行方不明など本人のSOS時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	7.5%	20.6%	46.0%	25.9%
⑬自然災害時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする	2.2%	9.5%	50.4%	37.9%
⑭ITや通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取組みをする	2.5%	7.7%	40.3%	49.4%
⑮その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取組んでいることがある	5.4%	11.8%	31.9%	50.9%

II-3 関係機関と連携した事業の企画・調整について

①講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する、②配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する（チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等）は、「時々やっている」が約3割であった。③病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する、④地域ケア会議が、本人視点で検討が展開するように企画・調整する、⑥住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取組む企画・調整をする、⑦本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする、⑧診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする、⑨家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする、⑩本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする、⑪認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整、⑫地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整、⑬地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整、⑮本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整は、「やりたいが（あまり）やれていない」が約3～5割であった。⑤認知症多職種協働研修が、本人視点で協働について学びあえるように企画・調整する、⑭地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整、⑰「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整は、「やっていない」が5割強であった。

項目	日常的にや っている	時々やっ ている	やりたいが (あまり) やれていな い	やっていな い
①講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する	28.0%	30.9%	27.5%	13.7%
②配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する(チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等)	26.0%	30.6%	27.8%	15.6%
③病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する	11.1%	23.6%	35.5%	29.7%
④地域ケア会議が、本人視点で検討が展開するように企画・調整する	16.8%	28.3%	30.0%	24.9%
⑤認知症多職種協働研修が、本人視点で協働について学びあえるように企画・調整する	4.8%	7.9%	31.7%	55.5%
⑥住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取組む企画・調整をする	16.6%	33.5%	35.0%	14.9%
⑦本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする	5.7%	11.7%	47.6%	34.9%
⑧診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする	1.8%	6.3%	48.7%	43.2%
⑨家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする	4.1%	10.7%	45.4%	39.9%
⑩本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする	3.3%	9.0%	44.0%	43.6%
⑪認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整	22.1%	29.0%	33.2%	15.7%
⑫地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整	3.6%	13.5%	49.8%	33.1%
⑬地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整	2.8%	9.9%	49.0%	38.3%
⑭地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整	0.6%	3.1%	39.5%	56.8%
⑮本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整	2.6%	10.7%	47.0%	39.6%
⑯本人の声を聞きながら自地域に潜むバリアを解消していく認知症バリアフリーの企画・調整	1.5%	6.3%	49.6%	42.6%
⑰「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整	0.7%	2.9%	37.9%	58.5%
⑱本人が理解者となつたり、本人が参画したチームで支えあうチームオレンジ等の企画・調整	5.3%	12.3%	42.0%	40.3%

⑤-1 多職種協働研修に取り組んでいる場合

独自に実施、が約8割であった。

n=335

項目	
ライフサポート研修を実施	11.0%
ライフサポート研修を発展させて実施	8.9%
独自に実施	82.1%

⑩-1 取組みをしている場合

地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている、が約5割であった。

n=339

項目	
以前から、すでに地域独自の一体型支援の企画・調整をしてきている	22.1%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている	52.2%
一体型支援事業で示されたスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	13.6%
その他	12.1%

⑱-1 取組みをしている場合

以前から、すでに地域独自のチームによる支援体制づくりの企画・調整をしてきている、が5割強であった。

n=536

項目	
以前から、すでに地域独自のチームによる支援体制づくりの企画・調整をしてきている	16.2%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、チームオレンジの企画・調整をしている	57.6%
チームオレンジのスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	22.0%
その他	4.1%

II - 4 個別の相談・支援体制構築

①家族や周囲の声や情報だけではなく、本人が声（思いや望み等）を表せるように、配慮や工夫をするは、「日常的にやっている」が約4割であった。②医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる、③医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくる、④個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝えるは、「時々やっている」が3割強であった。⑤関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援（体制）の見直し・拡充を図る、⑥個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たにつくりだすは、「やりたいが（あまり）やれていない」が約5～6割であった。

n=3707

項目	日常的にやっている	時々やっている	やりたいが（あまり）やれていない	やっていない
①家族や周囲の声や情報だけではなく、本人が声（思いや望み等）を表せるように、配慮や工夫をする	43.3%	31.1%	21.3%	4.3%
②医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる	31.6%	35.1%	28.8%	4.5%
③医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくる	29.5%	36.2%	29.2%	5.0%
④個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝える	17.0%	37.3%	35.5%	10.1%
⑤関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援（体制）の見直し・拡充を図る	8.3%	28.4%	50.4%	12.9%
⑥個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たにつくりだす	4.0%	10.7%	60.4%	24.9%

II - 5 認知症施策の全体的な推進・調整

①事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図るは、「やりたいが（あまり）やれていない」が約5割であった。②年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う、③次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う、④まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が（関係者ととも）に試行的にやってみるは、「やっていない」が3割～5割であった。

n=3707

項目	日常的にやっている	時々やっている	やりたいが（あまり）やれていない	やっていない
①事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図る	8.1%	13.5%	51.6%	26.9%
②年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う	12.6%	23.8%	28.4%	35.2%
③次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う	12.5%	23.3%	29.3%	34.9%
④まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が（関係者ととも）に試行的にやってみる	2.7%	9.0%	38.0%	50.3%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について ※推進員の間接的な取組みによる変化等も含めて

Ⅲ-1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」

①本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった、②本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった、③本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった、④本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった、⑤本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった、⑥本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった、⑦本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった、⑧本人が発症後もそれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった、⑨本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった、⑩本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった、⑪本人がGPS機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった、⑫本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった、⑬本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)、⑭本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった、⑮認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった、⑯本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった、⑰若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった、⑱その他、本人に関する変化や成果がみられているは、「まだ(あまり)ない」が約4～9割であった。

n=3707

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えている	増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだ(あまり)ない
①本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった	6.2%	24.8%	22.0%	5.0%	42.1%
②本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった	6.8%	25.7%	22.4%	5.2%	39.9%
③本人が自分の声思いや希望等を周囲や地域に向けて表せるようになった	2.3%	12.5%	9.2%	5.4%	70.6%
④本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった	2.0%	7.4%	5.9%	5.6%	79.2%
⑤本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった	2.0%	13.8%	8.7%	6.1%	69.5%
⑥本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった	5.5%	19.7%	10.4%	9.4%	55.0%
⑦本人が馴染みの店や行きたい所に安心して出かけられるようになった	0.8%	9.0%	6.7%	4.0%	79.5%
⑧本人が発症後もそれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった	0.2%	1.6%	1.8%	2.0%	94.4%
⑨本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった	1.5%	11.0%	6.8%	6.2%	74.4%
⑩本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった	0.5%	3.0%	3.1%	3.3%	90.2%
⑪本人がGPS機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	0.9%	5.3%	6.3%	4.3%	83.2%
⑫本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	0.2%	2.1%	1.8%	2.8%	93.1%
⑬本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)	1.3%	15.5%	12.3%	5.9%	64.9%
⑭本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった	7.8%	24.2%	19.1%	7.8%	41.0%
⑮認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった	1.6%	12.3%	10.3%	5.7%	70.1%
⑯本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった	1.2%	4.6%	3.1%	5.2%	85.9%
⑰若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった	1.0%	5.8%	2.5%	5.4%	85.2%
⑱その他、本人に関する変化や成果がみられている	1.5%	7.6%	4.2%	5.4%	81.3%

III-2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」

①住民が本人の声を聴こうとするようになった、②住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった、③住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった、④住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった、⑤地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった、⑥住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった、⑦医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった、⑧介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった、⑨医療・介護等の専門職の人たちが、本人視点にたって支援や連携をするようになった、⑩地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった、⑪医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった、⑫地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった、⑬地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった、⑭地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった、⑮住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった、⑯医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった、⑰本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった、⑱その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果があるは、「まだ（あまり）ない」が約3～9割であった。

n=3707

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだ（あまり）ない
①住民が本人の声を聴こうとするようになった	5.5%	21.0%	14.4%	8.5%	50.6%
②住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった	11.0%	22.8%	23.2%	10.5%	32.5%
③住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった	4.9%	21.7%	18.2%	7.4%	47.8%
④住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった	6.5%	20.4%	11.7%	9.5%	51.8%
⑤地域の企業等で働く人が認知症の人への関心を高め配慮や工夫するようになった	3.4%	11.2%	10.4%	7.0%	68.0%
⑥住民や地域で働く人が本人の社会参加活動に加わり一緒に活動するようになった	1.7%	7.3%	5.0%	4.6%	81.4%
⑦医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	9.6%	24.8%	19.4%	4.4%	41.8%
⑧介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	11.7%	28.6%	19.9%	4.6%	35.3%
⑨医療介護等の専門職の人たちが本人視点にたって支援や連携をするようになった	10.7%	28.2%	19.6%	5.3%	36.2%
⑩地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった	10.0%	32.6%	13.5%	6.0%	37.8%
⑪医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった	6.4%	19.3%	10.4%	8.4%	55.6%
⑫地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった	4.0%	15.1%	6.5%	6.6%	67.9%
⑬地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった	1.2%	3.3%	2.5%	3.5%	89.5%
⑭地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった	0.7%	6.4%	4.7%	4.1%	84.2%
⑮住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	2.1%	8.6%	5.3%	5.9%	78.0%
⑯医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	1.5%	8.7%	5.4%	4.8%	79.6%
⑰本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった	4.5%	22.0%	12.7%	7.6%	53.3%
⑱その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果がある	2.9%	12.3%	7.7%	6.8%	70.3%

III - 3 情報の流れや協働に関する変化・成果

③地域包括支援センターの職員から情報が入るようになり、協働しやすくなったは、「増えてはいないが、中身が充実してきている」が3割弱であった。⑧民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなったは、「数は増えたが、中身はあまり変わっていない」が約3割であった。①認知症施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった、②市町村内の他の推進員/推進役の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった、④医療関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった⑤介護関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑥権利擁護の関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑦警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑨生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑩地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑪本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑫家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった、⑬必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がったは、「まだ（あまり）ない」が約3～7割であった。

n=3707

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだ（あまり）ない
①認知症施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった	14.7%	24.4%	20.3%	6.9%	33.7%
②市町村内の他の推進員/推進役の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった	12.7%	24.4%	16.7%	7.0%	39.2%
③地域包括支援センターの職員から情報が入るようになり、協働しやすくなった	16.9%	28.3%	21.8%	6.6%	26.4%
④医療関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった	8.8%	23.4%	22.1%	5.3%	40.5%
⑤介護関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった	8.1%	23.9%	20.9%	4.7%	42.4%
⑥権利擁護の関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった	5.1%	17.5%	14.4%	4.3%	58.7%
⑦警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった	10.5%	17.4%	28.9%	4.9%	38.3%
⑧民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなった	17.1%	25.6%	29.9%	4.8%	22.6%
⑨生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった	9.8%	19.4%	13.6%	6.8%	50.3%
⑩地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった	5.4%	14.8%	13.8%	6.6%	59.4%
⑪本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった	2.4%	10.3%	10.1%	4.9%	72.3%
⑫家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった	8.7%	19.4%	27.2%	7.4%	37.3%
⑬必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がった	13.3%	24.6%	17.4%	9.2%	35.5%

III-4 あなたの市町村での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況

①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしてつづけるようになってきている、②認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきているは、「少しずつ進みつつある」が約4割～5割弱であった。

n=3707

項目	年々、拡充している	少しずつ進みつつある	今年度から動きだしている	今年度はまだだが、来年度から動きだす(予定含む)	まだ動きも予定もない
①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしてつづけるようになってきている	2.8%	43.9%	6.9%	13.5%	32.9%
②認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきている	3.6%	48.4%	7.4%	11.7%	29.0%

IV. 推進員が機能を強め、活躍するための課題や必要なこと

IV-1 認知症施策担当者と推進員との関係性について

①施策担当者や推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある、②施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい、③施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししてくれる、⑥推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えてくれる、⑦推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする、⑧施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めてくれるは、「すでにあり、引き続き必要」が4割弱～5割であった。④施策担当者や推進員と一緒に、地域の認知症の本人の話をきいたり、本人と過ごす場面がある、⑤施策担当者や推進員と一緒に、地域や取組みの現場に向かう機会があるは、「現在はなく、強化が必要」が約4～5割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①施策担当者や推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある	52.0%	26.5%	20.0%	1.5%
②施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい	54.9%	27.1%	16.6%	1.4%
③施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししてくれる	38.2%	28.7%	30.2%	2.9%
④施策担当者や推進員と一緒に、地域の認知症の本人の話をきいたり、本人と過ごす場面がある	22.2%	21.6%	52.6%	3.6%
⑤施策担当者や推進員と一緒に、地域や取組みの現場に向かう機会がある	26.7%	27.3%	42.9%	3.1%
⑥推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えてくれる	40.6%	31.1%	26.0%	2.2%
⑦推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする	38.0%	27.6%	32.1%	2.4%
⑧施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めてくれる	39.1%	28.2%	29.6%	3.1%

IV-2 認知症施策推進に向けた、認知症施策担当者と推進員との合意形成について

< 1) 担当者と推進員との、わがまちが目指すこと（ビジョン、方向性）の検討と共有・浸透 >

③（新規の）事業が目指していることや意味について話しあい、共有するは、「あるが、より強化が必要」が約4割であった。①認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する、②認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する、④市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろるように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかるは、「現在はなく、強化が必要」が約4割～5割弱であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する	17.5%	40.3%	41.1%	1.1%
②認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する	16.4%	40.7%	41.9%	1.0%
③（新規の）事業が目指していることや意味について話しあい、共有する	18.9%	40.3%	39.5%	1.3%
④市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろるように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかる	13.6%	37.3%	47.3%	1.8%

< 2) 担当者と推進員との、認知症に関する地域の現状と課題の検討と具体的な共有 >

①本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有する、②認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有するは、「現在はなく、強化が必要」が約4割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有する	17.5%	35.2%	46.4%	0.9%
②認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有する	16.9%	37.3%	44.8%	1.0%

< 3) 担当者と推進員との、推進員の位置づけと機能・役割に関する検討と共有 >

①わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有する、②わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有する、③推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有する、④推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整するは、「現在ではなく、強化が必要」が約4～5割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有する	15.1%	38.0%	45.0%	1.9%
②わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有する	14.6%	39.8%	43.9%	1.8%
③推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有する	14.2%	38.2%	46.0%	1.6%
④推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整する	14.0%	32.9%	51.0%	2.1%

< 4) 担当者と推進員との、活動方針や推進員の機能についての具体的な共有 >

①事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする、②認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく、③地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく（認知症観の変革）は、「あるが、より強化が必要」が5割弱であった。④「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく、⑤施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく（本人視点、本人参画の重視）、⑥施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く（本人の声が起点）、⑦国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取組みを創意工夫していく（自治体主体、創意工夫）、⑧地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む（創出力の重視）、⑨事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切に※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）、⑩事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく（楽しさ、気軽さ）、⑪推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく（自発的な活動重視）、⑫当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく（実情に応じた柔軟な改良）、⑬事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む（持続発展性）、⑭事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく（事業の連動・統合）、⑮増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち（住民、専門職等）が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく（地域の主体的取組みの推進）、⑯推進員が、本人や地域と行政をつなぐパイプ役を果たす（届きにくい声や力等を行政につなぐ機能）、⑰推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政が計画づくりや予算に反映していく（施策提案・立案）は、「現在ではなく、強化が必要」が約4～6割であった。

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする	21.9%	46.5%	30.6%	1.0%
②認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく	20.0%	48.9%	30.4%	0.7%
③地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく（認知症観の変革）	14.0%	48.8%	36.0%	1.2%
④「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく	9.6%	34.9%	54.0%	1.5%
⑤施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく（本人視点、本人参画の重視）	10.7%	36.8%	51.5%	1.0%
⑥施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く（本人の声が起点）	9.7%	32.3%	57.1%	0.9%
⑦国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取組みを創意工夫していく（自治体主体、創意工夫）	8.5%	37.4%	53.0%	1.2%
⑧地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む（創出力の重視）	7.7%	34.3%	56.8%	1.2%
⑨事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯（物語）	8.4%	30.4%	59.5%	1.6%
⑩事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく（楽しさ、気軽さ）	11.7%	39.4%	48.1%	0.8%
⑪推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく（自発的な活動重視）	12.0%	36.4%	49.2%	2.4%
⑫当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく（実情に応じた柔軟な改良）	12.8%	38.7%	47.1%	1.4%
⑬事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む（持続発展性）	12.6%	42.2%	44.0%	1.1%
⑭事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく（事業の連動・統合）	9.5%	35.8%	53.4%	1.3%
⑮増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち（住民、専門職等）が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく（地域の主体的取組みの推進）	7.2%	30.9%	60.2%	1.6%
⑯推進員が、本人や地域と行政とをつなぐパイプ役を果たす（届きにくい声や力等を行政につなぐ機能）	11.0%	40.3%	47.1%	1.6%
⑰推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政が計画づくりや予算に反映していく（施策提案・立案）	11.5%	35.6%	50.6%	2.2%

IV-3 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み

①推進員が配置されている職場の上司等に、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけは、「あるが、より強化が必要」が約3割であった。②推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知、③推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織（医師会、自治会、警察、企業等）へ広く発信・周知、④行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ、⑤推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知、⑥推進員が活動を進める上で、実際に関係機関（医師会、自治会、学校、商工、警察等）と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつながりや調整を図る、⑦推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を、行政が支援・調整、⑧推進員が活動を進める上で必要な個人情報入手や共有を、行政が支援・調整は、「現在はなく、強化が必要」が約4～6割弱であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員が配置されている職場の上司等に、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけ	28.8%	34.1%	32.2%	4.9%
②推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知	12.0%	41.3%	43.3%	3.4%
③推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織（医師会、自治会、警察、企業等）へ広く発信・周知	10.1%	39.3%	47.1%	3.6%
④行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ	9.9%	35.4%	51.2%	3.5%
⑤推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知	7.1%	30.2%	58.9%	3.8%
⑥推進員が活動を進める上で、実際に関係機関（医師会、自治会、学校、商工、警察等）と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつながりや調整を図る	13.4%	38.5%	45.9%	2.2%
⑦推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を、行政が支援・調整	16.2%	35.2%	46.3%	2.3%
⑧推進員が活動を進める上で必要な個人情報入手や共有を、行政が支援・調整	21.1%	34.1%	41.0%	3.8%

IV-4 推進員同士等がつながり、学びあい、支えあう機会等

①同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる

※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会については、「すでにあり、引き続き必要」が約3割であった。②近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる、③困った時や相談したい時に、タイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつなぎやしきみをつくる、④推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫、⑤推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備やICTの活用に関する市町村の支援、⑥市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有、⑦都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整、⑧推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる、⑨施策や全国の新しい動きについて、認知症施策の担当者と推進員と一緒に学べる、都道府県や全国での機会をつくるは、「現在はなく、強化が必要」が4割弱～6割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる ※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会について	36.6%	31.8%	29.4%	2.2%
②近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる	11.9%	19.2%	64.4%	4.6%
③困った時や相談したい時に、タイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつなぎやしきみをつくる	17.5%	25.1%	54.1%	3.4%
④推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫	12.1%	23.0%	57.9%	7.0%
⑤推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備やICTの活用に関する市町村の支援	10.8%	16.7%	59.7%	12.8%
⑥市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有	11.4%	25.2%	59.3%	4.1%
⑦都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整	29.2%	29.0%	37.0%	4.8%
⑧推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる	23.6%	31.5%	41.3%	3.6%
⑨施策や全国の新しい動きについて、認知症施策の担当者と推進員と一緒に学べる、都道府県や全国での機会をつくる	19.8%	27.8%	47.1%	5.3%

IV-5 推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」や質向上の促進について

①推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる、②推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有、③推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信、④推進員活動の報告会の開催、⑤自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施は、「現在はなく、強化が必要」が約6～7割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員活動の「PDCA（計画・実践・見直し・改善）」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる	9.2%	29.2%	58.4%	3.3%
②推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有	5.4%	12.8%	70.8%	11.0%
③推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信	5.0%	15.0%	70.7%	9.3%
④推進員活動の報告会の開催	10.2%	15.7%	60.7%	13.4%
⑤自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施	7.5%	15.4%	69.1%	7.9%

④-1 報告会を行っている場合、実施方法

推進員のみで実施、が約5割であった。

n=705

項目	
地域で公開して実施	7.0%
活動の関係者が参加して実施	39.4%
推進員のみで実施	49.6%
その他	4.0%

IV-6 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等

①推進員が（短期間で）異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ、②推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつつづけていけるための調整や位置づけ、③推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ、④推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援は、「現在はなく、強化が必要」が約6～6割弱であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①推進員が（短期間で）異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ	12.7%	15.5%	61.1%	10.7%
②推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつつづけていけるための調整や位置づけ	5.3%	9.5%	66.8%	18.4%
③推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ	3.6%	7.9%	69.1%	19.4%
④推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援	9.9%	21.0%	63.3%	5.8%

IV-7 認知症施策を推進していくための、市町村としての推進員の適正な配置と工夫等

①市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人財が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする、②市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする、③市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする、④推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする、⑤推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に推進していくフォーメーションをつくるは、「現在はなく、強化が必要」が5割強～7割であった。

n=3707

項目	すでにあり、引き続き必要	あるが、より強化が必要	現在はなく、強化が必要	必要と思わない
①市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人財が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする	10.7%	22.9%	60.9%	5.5%
②市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする	13.2%	25.2%	56.2%	5.5%
③市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする	10.4%	19.9%	61.6%	8.1%
④推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする	9.9%	16.4%	60.6%	13.1%
⑤推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に推進していくフォーメーションをつくる	5.7%	13.3%	73.2%	7.8%

V. 推推進員活動に関する意向等

V-1 推進員活動をやってみての自分の感想や率直な思い

①推進員活動は、やりがいがある、②推進員活動は、やっていて楽しい、おもしろい、③推進員活動は、地域の多様な人と出会え、つながりが育ってうれしい、⑤推進員同士がつながり、支えあったり機能を高めあうための推進役になりたいは、「そう思う」が4割～5割強であった。④推進員として、自分なりにやりたいことをやれている、⑥施策担当者や推進員との協働について、不安や懸念がある、⑦推進員として活動していく上での負担やストレスが大きいは、「あまり思わない」が4割強～5割であった。

n=3707

項目	非常にそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
①推進員活動は、やりがいがある	13.7%	57.2%	24.4%	4.6%
②推進員活動は、やっていて楽しい、おもしろい	9.9%	48.7%	34.9%	6.5%
③推進員活動は、地域の多様な人と出会え、つながりが育ってうれしい	13.9%	55.7%	25.3%	5.1%
④推進員として、自分なりにやりたいことをやれている	5.4%	34.8%	45.0%	14.8%
⑤推進員同士がつながり、支えあったり機能を高めあうための推進役になりたい	8.1%	44.1%	34.7%	13.0%
⑥施策担当者や推進員との協働について、不安や懸念がある	7.0%	21.5%	50.2%	21.2%
⑦推進員として活動していく上での負担やストレスが大きい	11.3%	30.8%	46.5%	11.5%

V-2 推進員として、今後も活動を継続していく意向

今後も推進員を続けていきたい、が4割弱であった。

n=3707

項目	
今後も推進員を続けていきたい	38.5%
今後も推進員を続けていきたいが、負担等が大きく、続けていけるかわからない	22.5%
今後も推進員を続けていきたいが、雇用形態が1年だけの任用なので、続けていけるかわからない	5.2%
今後も推進員を続けていきたいが、法人の意向で、続けていけるかわからない	13.1%
今後も推進員を続けていきたいとは（あまり）思わない	12.8%
その他	7.9%

5. 【都道府県調査】結果

※実数は巻末資料に記載

I. 都道府県の基本情報について (n=47)

- 人口規模：50万人以上100万人未満 21.3%、100万人以上200万人未満 44.7%、200万人以上 34.0%
- 高齢化率：27%未満 12.8%、27%以上30%未満 23.4%、30%以上33%未満 31.9%、33%以上40%未満 31.9%
- 市町村数：1以上20未満 19.1%、20以上30未満 25.5%、30以上40未満 21.3%、40以上 34.0%
- 認知症施策のご担当者数：1人 17.0%、2人 29.8%、3人 23.4%、4人以上 29.8%
- ご担当者の中で認知症施策を最も長く担当している人の年数：2年未満 34.0%、2年以上3年未満 27.7%、3年以上 38.3%

II. 都道府県として推進員の機能強化に関して取組んでいること

II-1 市町村における推進員の配置状況や活動実態、課題等の把握

< 1) 市町村における推進員の配置状況についての把握 >

①推進員の配置数、②推進員が配置先（配置組織）、③推進員の配置形態（専任、兼任）、④推進員の勤務形態（常勤、非常勤）は、「(概ね)全市町村について把握している」が約6~9割であった。⑤推進員が兼務している役割（例：初期集中支援チーム員、生活支援コーディネーター、チームオレンジコーディネーター等）、⑥市町村における推進員の異動/交代状況、⑦市町村の推進員配置に関する課題は、「把握していない」が約4~5割であった。

n=47

項目	(概ね)全市町村について把握している	半数程度の市町村について把握している	一部の市町村について把握している	把握していない
①推進員の配置数	97.9%	0.0%	2.1%	0.0%
②推進員が配置先（配置組織）	89.4%	4.3%	2.1%	4.3%
③推進員の配置形態（専任、兼任）	74.5%	0.0%	10.6%	14.9%
④推進員の勤務形態（常勤、非常勤）	66.0%	0.0%	6.4%	27.7%
⑤推進員が兼務している役割（例：初期集中支援チーム員、生活支援コーディネーター、チームオレンジコーディネーター等）	12.8%	4.3%	34.0%	48.9%
⑥市町村における推進員の異動/交代状況	27.7%	2.1%	14.9%	55.3%
⑦市町村の推進員配置に関する課題	19.1%	10.6%	29.8%	40.4%

< 2) 市町村の推進員活動に関する現状と課題、成果等の把握 >

市町村の、①認知症施策のビジョンや視点、焦点等についての理解・考え方については、「把握するようにしている」「必要時のみ把握している」が約3割であった。②推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解・考え方について、③推進員に依頼している役割・機能について、④推進員活動の状況や内容について、⑤推進員が活動する上での課題や必要としていることについて、⑥推進員の活動を通じた変化/成果について、⑦推進員活動に関する好事例については、「必要時のみ把握している」が約3～5割であった。

n=47

項目	積極的に把握するようにしている	把握するようにしている	必要時のみ把握している	把握していない
①市町村の、認知症施策のビジョンや視点、焦点等についての理解・考え方について	17.0%	31.9%	29.8%	21.3%
②市町村の、推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解・考え方について	6.4%	14.9%	48.9%	29.8%
③市町村が推進員に依頼している役割・機能について	6.4%	14.9%	48.9%	29.8%
④市町村の推進員活動の状況や内容について	19.1%	23.4%	38.3%	19.1%
⑤推進員が活動する上での課題や必要としていることについて	14.9%	25.5%	36.2%	23.4%
⑥推進員の活動を通じた変化/成果について	6.4%	12.8%	46.8%	34.0%
⑦推進員活動に関する好事例	19.6%	19.6%	34.8%	26.1%

⑦-1 好事例を把握している場合、把握方法について

4. 推進員の研修や集まり等で把握が、約4割であった。

n=34

項目	
1. 認知症施策全体に関する市町村調査などで把握	27.7%
2. 推進員に関する市町村調査などで把握	14.9%
3. 市町村担当者の会議等で把握	34.0%
4. 推進員の研修や集まり等で把握	44.7%
5. 都道府県担当者が市町村等に出向いて把握	21.3%
6. 都道府県担当者が市町村担当者/推進員と電話やメールでやりとりして把握	38.3%
7. 市町村担当者/推進員等が、報告した資料等で把握	31.9%
8. その他	0.0%

< 3) 推進員機能の強化に関する市町村の取組みについての把握 >

市町村の①施策担当者と推進員との関係性や協働の状況について「必要時の把握している」が約4割であった。②施策担当者と推進員との方向性や役割等に関する合意形成について、③「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組みについて、④推進員同士等がつながり、学び合い、支えあう機会についての市町村の支援等について、⑤推進員活動の「PDCA」等、推進員の質の向上に向けた市町村の取組みについて、⑥推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等について、⑦認知症施策を推進員していくための、市町村としての推進員の適正な配置・体制については、「把握していない」が約4～5割であった。

n=47

項目	積極的に把握 するようにし ている	把握するよう にしている	必要時のみ把 握している	把握していな い
①市町村の施策担当者と推進員との関係性や協働の状況について	4.3%	23.4%	38.3%	34.0%
②市町村の施策担当者と推進員との方向性や役割等に関する合意形成について	2.1%	14.9%	36.2%	46.8%
③「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組みについて	2.1%	10.6%	38.3%	48.9%
④推進員同士等がつながり、学び合い、支えあう機会についての市町村の支援等について	4.3%	14.9%	31.9%	48.9%
⑤推進員活動の「PDCA」等、推進員の質の向上に向けた市町村の取組みについて	2.1%	17.0%	27.7%	53.2%
⑥推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等について	4.3%	12.8%	40.4%	42.6%
⑦認知症施策を推進員していくための、市町村としての推進員の適正な配置・体制について	4.3%	13.0%	34.8%	47.8%

II - 2 市町村の施策担当者が推進員の機能強化を図るための、都道府県による取組み

< 1) 市町村の施策担当者への都道府県としての方向性や方針等の提示等 >

市町村の①認知症施策が目指していること（ビジョン、方向性等）を都道府県として提示/説明、②「認知症とともに生きる希望宣言」についての情報提供/普及の勧奨、は「ある程度行っている」が約6割と3割であった。③推進員の取組みの基本姿勢や活動の焦点についての提示/説明は、「あまり行っていない」が4割強であった。

n=47

項目	積極的に行 っている	ある程度行っ ている	あまり行っ ていない	行っていない
①認知症施策が目指していること（ビジョン、方向性等）を都道府県として提示/説明	23.4%	66.0%	0.0%	10.6%
②「認知症とともに生きる希望宣言」についての情報提供/普及の勧奨	19.1%	36.2%	29.8%	14.9%
③推進員の取組みの基本姿勢や活動の焦点についての提示/説明	8.5%	14.9%	46.8%	29.8%

< 2) 研修や連絡会、ネットワーク作りの機会等の提供 >

⑤推進員の新任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている（受講勧奨、調整、費用確保等）、⑦推進員の現任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている（受講勧奨、調整、費用確保等）は、「積極的に行っている」が約6割であった。①都道府県主催で、市町村担当者を対象に、推進員の機能強化に関する情報提供や、担当者同士で情報・意見交換を行う機会をつくっている、④市町村の施策担当者等が、全国の認知症支援体制づくりの動きや推進員も含めた今後のあり方についての情報や知見をうるために、全国合同セミナー（東京センター）への参加を市町村担当者に勧奨しているは、「ある程度行っている」が約3~5割であった。②都道府県主催で、市町村担当者と推進員を対象に合同で集まる機会をつくり、推進員の機能強化に関する情報提供や参加同士での情報・意見交換を図る機会をつくっている、③都道府県主催で、市町村担当者と推進員と連携協働上重要な関係者（例：認知症疾患医療センター、若年性認知症支援コーディネーター、都道府県警察、保健所、企業等）が集まり、情報提供や情報・意見交換を図る機会をつくっている、⑥推進員の新任者が、都道府県独自（主催）の研修を受講する機会をつくっている、⑧推進員の現任者が、都道府県独自（主催）の推進員研修を受講する機会をつくっている、⑨上記の研修以外で、推進員の機能向上を図るための都道府県独自（主催）の研修やセミナー等を実施している、⑩都道府県内の推進員同士のネットワーク作りを、都道府県が行っている/支援している、⑪全国の推進員同士のネットワーク「すいしんいんネット」に都道府県内の推進員が参加する勧奨を行っているは、「行っていない」が、約3~5割であった。

n=47

項目	積極的に行っている	ある程度行っている	あまり行っていない	行っていない
①都道府県主催で、市町村担当者を対象に、推進員の機能強化に関する情報提供や、担当者同士で情報・意見交換を行う機会をつくっている	12.8%	36.2%	19.1%	31.9%
②都道府県主催で、市町村担当者と推進員を対象に合同で集まる機会をつくり、推進員の機能強化に関する情報提供や参加同士での情報・意見交換を図る機会をつくっている	19.1%	29.8%	17.0%	34.0%
③都道府県主催で、市町村担当者と推進員と連携協働上重要な関係者（例：認知症疾患医療センター、若年性認知症支援コーディネーター、都道府県警察、保健所、企業等）が集まり、情報提供や情報・意見交換を図る機会をつくっている	10.6%	19.1%	12.8%	57.4%
④市町村の施策担当者等が、全国の認知症支援体制づくりの動きや推進員も含めた今後のあり方についての情報や知見をうるために、全国合同セミナー（東京センター）への参加を市町村担当者に勧奨している	34.0%	51.1%	6.4%	8.5%
⑤推進員の新任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている（受講勧奨、調整、費用確保等）	61.7%	29.8%	4.3%	4.3%
⑥推進員の新任者が、都道府県独自（主催）の研修を受講する機会をつくっている	23.4%	12.8%	6.4%	57.4%
⑦推進員の現任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている（受講勧奨、調整、費用確保等）	57.4%	31.9%	4.3%	6.4%
⑧推進員の現任者が、都道府県独自（主催）の推進員研修を受講する機会をつくっている	25.5%	10.6%	6.4%	57.4%
⑨上記の研修以外で、推進員の機能向上を図るための都道府県独自（主催）の研修やセミナー等を実施している	13.0%	21.7%	8.7%	56.5%
⑩都道府県内の推進員同士のネットワーク作りを、都道府県が行っている/支援している	17.4%	17.4%	23.9%	41.3%
⑪全国の推進員同士のネットワーク「すいしんいんネット」に都道府県内の推進員が参加する勧奨を行っている	4.3%	15.2%	23.9%	56.5%

< 3) 都道府県の立場を活かした、市町村の連携・協働の支援 >

①認知症疾患医療センターと市町村・推進員との連携・協働の支援、②若年性認知症支援コーディネーターと市町村・推進員との連携・協働の支援は、「ある程度行っている」が約4割であった。③都道府県警察/管内警察と市町村・推進員との連携・協働の支援、④都道府県内の交通機関と市町村・推進員との連携・協働の支援、⑤都道府県内の企業と市町村・推進員との連携・協働の支援、⑥都道府県の保健所と市町村・推進員との連携・協働の支援、⑦その他、上記以外の関係機関等と市町村・推進員との連携・協働の支援は、「行っていない」が約5～7割であった。

項目	n=47			
	積極的に行っている	ある程度行っている	あまり行っていない	行っていない
①認知症疾患医療センターと市町村・推進員との連携・協働の支援	17.0%	38.3%	25.5%	19.1%
②若年性認知症支援コーディネーターと市町村・推進員との連携・協働の支援	21.3%	40.4%	25.5%	12.8%
③都道府県警察/管内警察と市町村・推進員との連携・協働の支援	6.4%	19.1%	23.4%	51.1%
④都道府県内の交通機関と市町村・推進員との連携・協働の支援	2.1%	4.3%	31.9%	61.7%
⑤都道府県内の企業と市町村・推進員との連携・協働の支援	4.3%	10.6%	27.7%	57.4%
⑥都道府県の保健所と市町村・推進員との連携・協働の支援	10.6%	23.4%	25.5%	40.4%
⑦その他、上記以外の関係機関等と市町村・推進員との連携・協働の支援	4.3%	6.5%	17.4%	71.7%

< 4) 都道府県から市町村等への推進員機能強化に関連した情報の収集・提供・発信等 >

①都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に随時情報提供している、②都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をもとに、活動の事例集や手引きを作成し配布をしている、③全国の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に情報提供している、④都道府県として、管内の推進員が活動を報告・共有しあう報告会等を実施している、⑤都道府県のイベント等で、管内の推進員が活動を報告・発信する機会をつくっている、⑥都道府県の広報物やホームページ等で、管内の推進員の活動や活躍を報告・発信する機会をつくっている、⑦都道府県等のメディア（新聞、テレビ、ラジオ等）を通じて、管内の推進員の活動や活躍を発信する機会をつくっている、⑧その他、推進員機能強化に関連した情報の収集・提供・発信等を行っているのは、「行っていない」が約3強～7割強であった。

n=47

項目	積極的に行っている	ある程度行っている	あまり行っていない	行っていない
①都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に随時情報提供している	10.6%	19.1%	34.0%	36.2%
②都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をもとに、活動の事例集や手引きを作成し配布をしている	6.4%	8.5%	17.0%	68.1%
③全国の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に情報提供している	10.6%	21.3%	27.7%	40.4%
④都道府県として、管内の推進員が活動を報告・共有しあう報告会等を実施している	21.3%	14.9%	12.8%	51.1%
⑤都道府県のイベント等で、管内の推進員が活動を報告・発信する機会をつくっている	7.3%	9.8%	14.6%	68.3%
⑥都道府県の広報物やホームページ等で、管内の推進員の活動や活躍を報告・発信する機会をつくっている	10.0%	7.5%	20.0%	62.5%
⑦都道府県等のメディア（新聞、テレビ、ラジオ等）を通じて、管内の推進員の活動や活躍を発信する機会をつくっている	5.0%	5.0%	12.5%	77.5%
⑧その他、推進員機能強化に関連した情報の収集・提供・発信等を行っている	5.1%	5.1%	23.1%	66.7%

④-1 報告会等を行っている場合、実施方法について

推進員と市町村担当者・関係者が参加して実施、が約6割であった。

n=13

項目	
公開して実施	0.0%
推進員と市町村担当者・関係者が参加して実施	61.5%
主に推進員のみで実施	38.5%
その他	0.0%

< 5) 推進員機能の強化に向けた市町村の取組みの較差解消に向けた都道府県の取組み>

(1) 推進員機能の強化に向けた市町村の取組みの現状について

推進員機能の強化に向けて、管内の市町村は全体的に積極的に取組む姿勢がみられる、が約4割であった。

n=47

項目	
推進員機能の強化に向けて、管内の市町村は全体的に積極的に取組む姿勢がみられる	14.9%
推進員機能の強化に向けて、管内の市町村の多くに積極的な姿勢がみられるが、一部消極的な市町村もある	44.7%
推進員機能の強化に向けて、管内では積極的に取組む市町村の方が少なく、消極的な市町村が多い	6.4%
推進員機能の強化に向けて、管内では積極的な姿勢がみられる市町村は、ほとんどみられない	0.0%
よく把握しておらずわからない	29.8%
その他	4.3%

(2) 取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に向けて

その市町村の担当者等が必要としていることについて、情報提供や助言をおこなっている、が約4割であった。

n=47

項目	
研修会や会議等の開催時は、個別に連絡を入れて、参加を呼びかけている	8.5%
研修会や会議等の開催時は、個別に連絡を入れて、研修会等や推進員の意義やメリットを説明し、参加を後押ししている	4.3%
研修会や会議等に不参加の場合は、当日の資料や情報を提供し、不参加でもできるだけ情報共有ができるようにしている	27.7%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村には、個別に連絡を入れて、市町村担当者の状況や課題、悩み等を聞き、話しあうようにしている	10.6%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に出向いて、市町村の担当者の話を聞いたり、状況を見て、話しあうことがある	14.9%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に出向いて、市町村の担当者や推進員等との話し合いをもち、助言や調整等を行うことがある	12.8%
その市町村の担当者等が必要としていることについて、情報提供や助言をおこなっている	42.6%
その市町村の担当者等が必要としていることに適切な助言やバックアップをしてくれる人や組織につながることもある	34.0%
その他	6.4%
特に行なっていることはない	36.2%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について

Ⅲ - 1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」

変化・成果を把握していない、が約4割であった。

n=47

項目	
本人が発症後の早い段階（早期）で相談につながるようになった	21.3%
本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった	17.0%
本人が自分の声（思いや希望等）を周囲や地域に向けて表せるようになった	27.7%
本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった	23.4%
本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった	8.5%
本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった	40.4%
本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった	17.0%
本人が発症後もそれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった	0.0%
本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった	14.9%
本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった	4.3%
本人がGPS 機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	4.3%
本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	2.1%
本人が望む場で暮らし続けられるようになった（望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった）	2.1%
本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった	10.6%
認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった	6.4%
本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった	17.0%
若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった	25.5%
その他、「本人に関する変化や成果」がみられた	0.0%
変化・成果を把握していない	44.7%

III - 2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」の事例

変化・成果を把握していない、が5割強であった。

n=47

項目	
住民が本人の声を聴こうとするようになった	12.8%
住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった	12.8%
住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった	10.6%
住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった	21.3%
地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった	12.8%
住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった	10.6%
医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	8.5%
介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	10.6%
医療・介護等の専門職の人たちが、本人視点にたって支援や連携の改善を図るようになった	10.6%
地域ケア会議等で、本人視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった	12.8%
医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった	14.9%
地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった	19.1%
地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった	4.3%
地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった	2.1%
住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	6.4%
医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	4.3%
本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった	12.8%
その他、「地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果」が見られた	2.1%
変化・成果を把握していない	55.3%

III - 4 あなたの都道府県での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況

①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつづけるようになってきている、②認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきているは、「まだない/把握していない」が4割強であった。

n=47

項目	昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	増えてはいないが、中身が充実してきている	数は増えたが、中身はあまり変わっていない	今年度からみられるようになった	まだない/把握していない
①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつづけるようになってきている	19.6%	19.6%	10.9%	2.2%	47.8%
②認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきている	17.4%	23.9%	10.9%	2.2%	45.7%

IV. 推進員の機能強化のための課題と、都道府県として今後必要な取組みについて

IV-1 推進員の機能強化のための課題と、課題解消に向けて都道府県として必要な取組み

市町村の①認知症施策のビジョンや方向性、焦点等の理解（の向上）、②市町村の、推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解（の向上）、⑤推進員の新任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会（の拡充）⑥推進員の現任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会（の拡充）、⑦推進員同士が、日常的につながり、情報交換や相談・支えあいができるネットワーク（の拡充）、⑧市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会（の拡充）、⑧市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会（の拡充）、⑨市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会（の拡充）、⑩市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の集約（の促進）、⑫市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の発信・共有（の促進）、⑬推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等（の促進）、⑮認知症施策・推進員活動が進んでいない市町村（のバックアップ）、⑯都道府県の担当者が、セミナー等で他都道府県担当者と認知症施策・推進員活動のあり方を学び、話しあう機会の拡充は、「課題であり、都道府県として取組む必要性がある」が約3割強～5割強であった。③市町村担当者と推進員との関係性・協働のあり方（の向上）、④「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み（の向上）、⑩推進員活動の「PDCA」（の促進）、⑭各市町村の特性や状況に応じた推進員の適正な配置・活動体制（の促進）は、「課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い」が約4～5割であった。⑰その他は、「課題・必要性は（あまり）ない」が約9割であった。

n=47

項目	重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	課題であり、都道府県として取組む必要性がある	課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	課題・必要性は（あまり）ない
①市町村の、認知症施策のビジョンや方向性、焦点等の理解（の向上）	24.4%	44.4%	24.4%	6.7%
②市町村の、推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解（の向上）	26.7%	37.8%	31.1%	4.4%
③市町村担当者と推進員との関係性・協働のあり方（の向上）	11.1%	37.8%	42.2%	8.9%
④「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み（の向上）	8.9%	33.3%	48.9%	8.9%
⑤推進員の新任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会（の拡充）	10.9%	56.5%	26.1%	6.5%
⑥推進員の現任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会（の拡充）	10.9%	58.7%	23.9%	6.5%
⑦推進員同士が、日常的につながり、情報交換や相談・支えあいができるネットワーク（の拡充）	6.7%	55.6%	31.1%	6.7%
⑧市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会（の拡充）	17.8%	46.7%	28.9%	6.7%
⑨市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会（の拡充）	15.6%	44.4%	33.3%	6.7%
⑩推進員活動の「PDCA」（の促進）	4.4%	44.4%	46.7%	4.4%
⑪市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の集約（の促進）	15.6%	55.6%	24.4%	4.4%
⑫市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の発信・共有（の促進）	15.6%	57.8%	22.2%	4.4%
⑬推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等（の促進）	8.9%	48.9%	37.8%	4.4%
⑭各市町村の特性や状況に応じた推進員の適正な配置・活動体制（の促進）	4.4%	40.0%	53.3%	2.2%
⑮認知症施策・推進員活動が進んでいない市町村（のバックアップ）	28.9%	57.8%	13.3%	0.0%
⑯都道府県の担当者が、セミナー等で他都道府県担当者と認知症施策・推進員活動のあり方を学び、話しあう機会の拡充	13.3%	57.8%	24.4%	4.4%
⑰その他	10.0%	0.0%	0.0%	90.0%

V. 推進員の機能強化に関する市町村担当者の意向等

V-1 推進員の機能強化に関する都道府県担当の意向

「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を積極的に進めていきたい、が約6割であった。

n=47

項目	
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を積極的に進めていきたい	63.8%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をこれまであまり持っていなかったが、今後は推進員を重視し、機能強化を進めたい	14.9%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をあまり持っておらず、推進員の機能強化を進めていこうとは（あまり）思わない	0.0%
推進員について考える余裕や環境がない	12.8%
その他、上記以外の推進員の存在や機能強化に関する考えがある	8.5%

V-2 都道府県内の推進員活動の促進役になる人財について

そうした人財がいるかどうか把握していないが、今後把握し、連携・協働をしていきたい、が約5割であった。

n=47

項目	
そうした人財が複数おり、すでに都道府県としてそうした人財を組織化し、都道府県全体の推進員機能の促進のために連携・協働をしている	2.1%
そうした人財がおり、組織化まではしていないが、すでに都道府県担当者が連携・協働をしている	19.1%
そうした人財がいるが、まだ都道府県担当者が連携・協働はしておらず、今後連携・協働をしていきたい	10.6%
そうした人財がいるが、まだ都道府県担当者が連携・協働はしておらず、今後も連携・協働までは考えていない	2.1%
そうした人財がいるかどうか把握していないが、今後把握し、連携・協働をしていきたい	51.1%
そうした人財がいるかどうか把握しておらず、今後も連携・協働までは考えていない	14.9%

6. 推進員の機能強化に関するクロス集計結果

市区町村調査

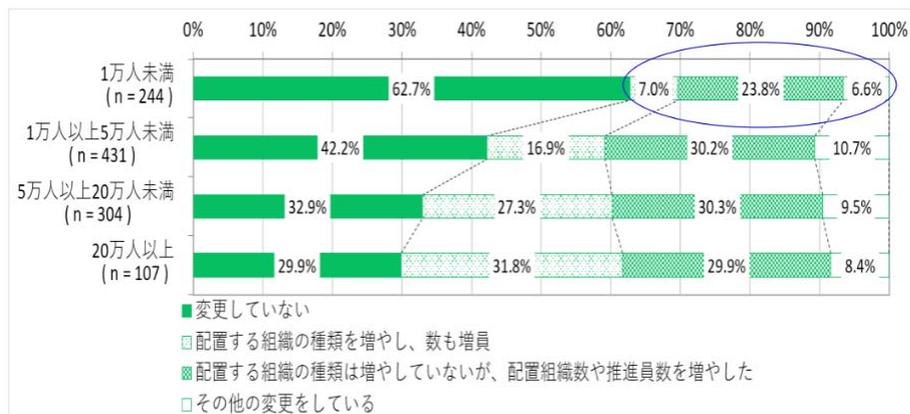
I-1 市町村の概況

未記入を除く

【人口規模別、配置のしかたの変更】

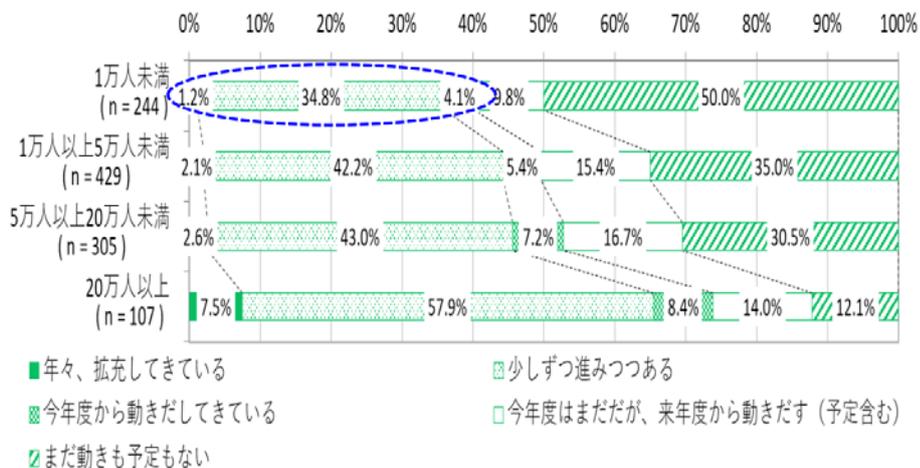
★人口規模が大きい市町村ほど、推進員の配置の変更をしている場合が多いが、人口規模が1万人未満の市町村でも37.4%が、配置の変更をしている。

最初に配置してからの、推進員の配置のしかたの変更



★人口規模が大きい市町村ほど、地域共生が拡充/進みつつある状況がみられるが、人口規模が1万人未満の市町村でも、約4割が年々拡充・進みつつあると回答。

人口規模別 ①地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしてつづけるようになってきている



市区町村調査 V 推進員の機能強化に関する施策担当者の意向等

認知症支援推進員の機能強化の必要性について

N=1,079

項目	人	%
①「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を進めていきたい	832	77.1%
②「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をこれまであまり持っていなかったが、今後は推進員を重視し、機能強化を進めていきたい	69	6.4%
③「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」とはあまり考えておらず、施策担当者として、推進員の機能強化を進めていこうとは、(あまり)思わない	19	1.8%
④推進員について考える余裕や環境がない	131	12.1%
⑤その他、上記以外の推進員の存在や機能強化に関する考えがある	28	2.6%

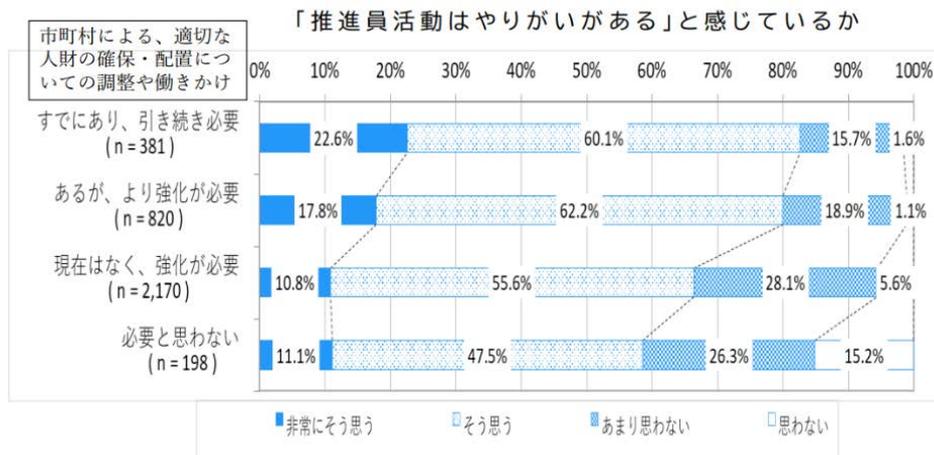


- 人口規模が大きいくほど、「推進員は重要な存在と考え、機能強化を進めていきたい」と考えている市町村が多いが、人口規模が1万人未満の場合でも、約6割の市町村が、そのように考えている。
- 「推進員について考える余裕や環境がない」と回答した市町村が、人口規模が小さい市町村に多い傾向がみられたが、どの人口規模でもみられていた。

推進員調査 V 推進員活動に関する意向等

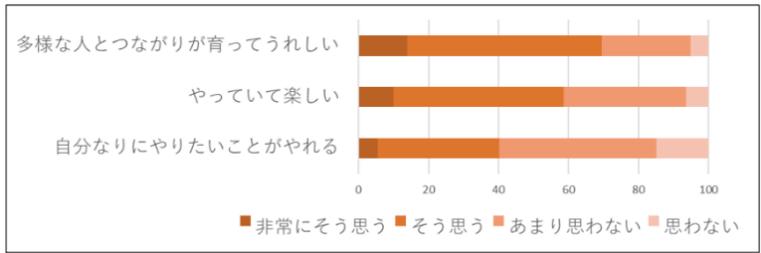
【1.「推進員活動はやりがいがある」と感じているか】

- ★推進員全体では、「非常にそう思う」が13.7%、「そう思う」が57.2%。
「あまり思わない」が24.4%、「思わない」が4.6%。
- ★市町村による「適切な人財の確保・配置について調整や働きかけ」がある場合、推進員活動にやりがいを感じている推進員が多い傾向がみられた。



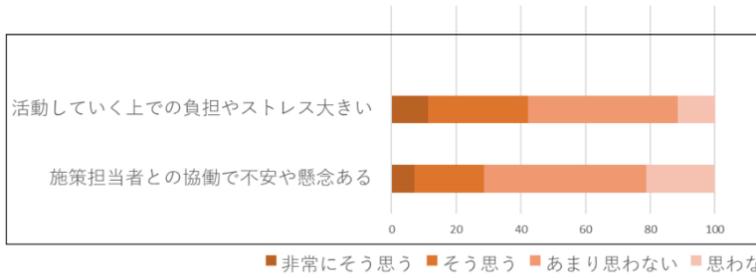
推進員調査 V 推進員活動に関する意向等

【2. 「推進員活動についての率直な思い等」】



市町村による、適切な人財の確保・配置についての調整や働きかけ

ある場合に各項目ともポジティブな回答が多い傾向がみられた。



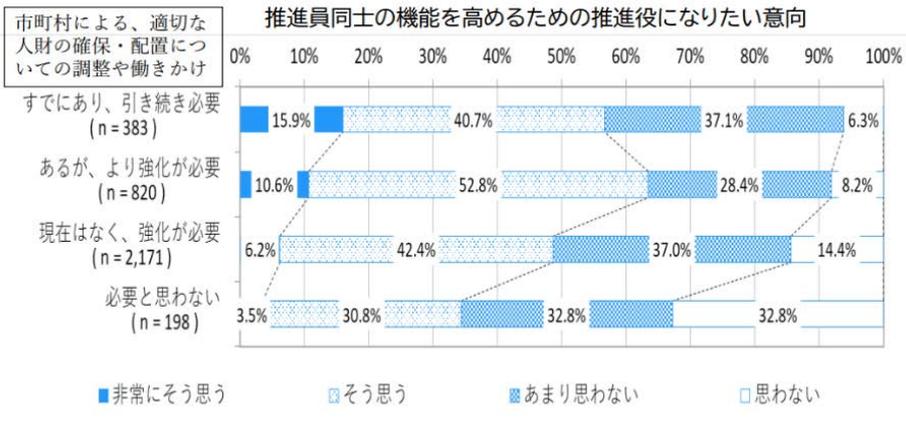
市町村による、適切な人財の確保・配置についての調整や働きかけ

ある場合に各項目ともネガティブな回答が少ない傾向がみられた。

推進員調査 V 推進員活動に関する意向等

【4. 推進員同士が機能を高めあうための推進役になりたい意向】

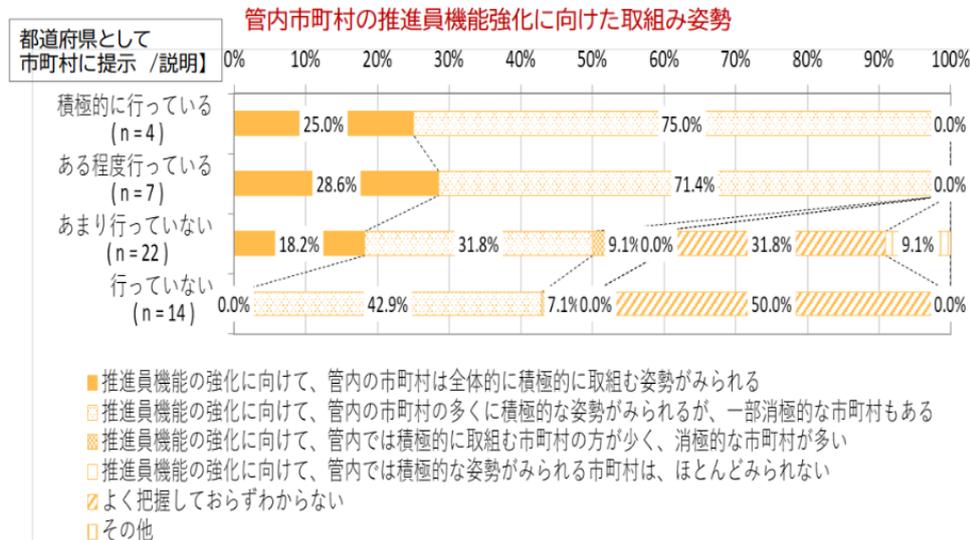
- ★「推進員同士がつながり、支えあったり機能を高めあうための推進役になりたい」かについて、「非常にそう思う」が8.1%、「そう思う」が44.1%、「あまり思わない」が34.7%、「思わない」が13.0%
- ★「市町村による、適切な人財の確保・配置についての調整や働きかけ」がある場合に、推進員同士の機能向上の推進役になりたい推進員が多い傾向がみられた。



都道府県調査 II 推進員の機能強化のための取組み

【4. 推進員の取組みの基本姿勢や焦点について市町村に提示 /説明】

- ★都道府県として「積極的に行っている」が8.5%、「ある程度行っている」が14.9%
「あまり行っていない」が46.8%、「行っていない」が29.8%
- ★都道府県が行っている場合、推進員機能の強化に向けた取組み姿勢が、積極的な管内市町村が多い。



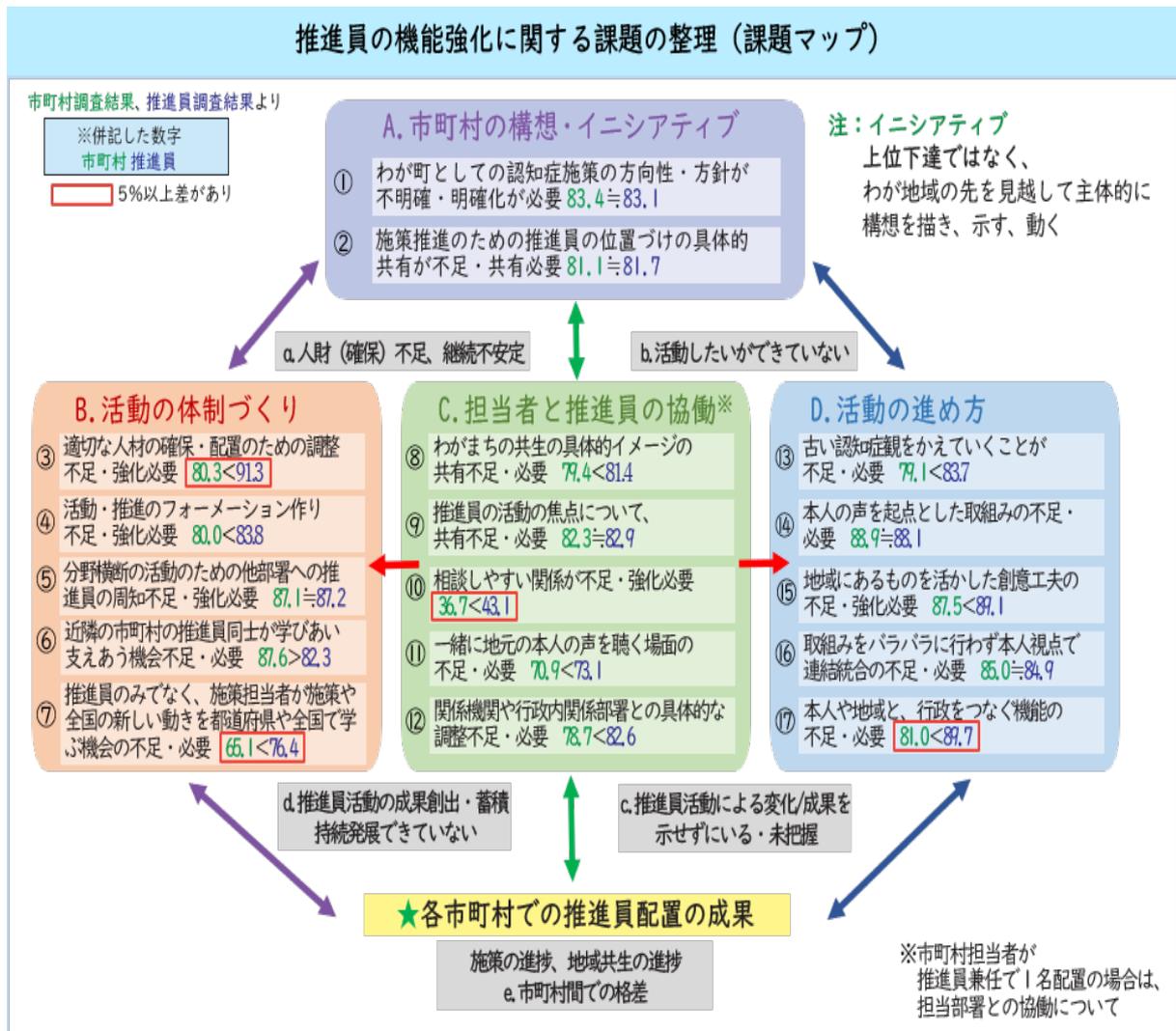
7. 推進員の機能強化に関する課題の整理・分析：推進員に関する主な課題マップ

調査結果より、市町村において「a.人財（確保）不足、継続不安定」、「b.（推進員が）活動したいができていない」、「c. 推進員活動による変化・成果を示せずにいる・未把握」、「d. 推進員活動の成果創出・蓄積・持続発展できていない」、「e. 施策・地域共生の進捗に、市町村間で較差がある」といった課題があることが確認されたが、委員会での検討を通じて、それらの背景には、より基本的（本質的な）な課題として、「A.市町村の構想・イニシアティブ」、「B.活動の体制（環境）づくり」、「C. 担当者と推進員の協働」、「D. 活動の進め方」、以上の4課題があることが確認された。

これらの課題解消に向けて、課題をよりブレイクダウンするために、市町村調査及び推進員調査の同一質問項目の結果を整理し、A～Dの4領域17項目からなる課題マップを作成した。

市町村担当者、推進員ともに、A～Dの課題領域・項目に関して強化が必要とする回答が高率であり、担当者と推進員で概ね同程度の回答であったが、推進員の方が5%以上高率の回答が4項目見られた（赤枠）。

A～Dの課題は相互に関連しあっており、人口規模や推進員の配置形態に関わらず同様の課題構図が確認された。



第3章 推進員の配置と機能強化のあり方に関するオンラインワークショップ開催

開催の目的

全国各地の自治体の認知症施策担当者と推進員がオンラインで参加し、推進員の配置形態と機能強化に関する討議を通じて、今後各自治体が課題を解消しながら、前向きに取り組んでいくために必要な考え方や方策、工夫等について、現場発の具体的な情報やアイデア、意見、提案を集める。

方法

全国調査結果に基づく推進員に関する主な課題マップを提示した後、立場の異なる5グループ（①行政/直営地域包括支援センター、②委託地域包括支援センター、③介護事業所/社会福祉協議会等、④医療機関/認知症疾患医療センター、⑤自治体等の認知症施策推進機関）に分かれて自由討議を行い、具体的意見を収集した。

開催日：2022年12月8日（木）13:30～15:30 オンライン（Zoom）

参加者数：23名

結果・内容

課題マップをもとに各自治体が課題を解消しながら前向きに取り組んでいくために必要な考え方や方策、工夫等について集中的に討議した結果、人口規模や配置形態によらず、共通して下記のような意見・アイデアが提示された。

【主な内容】

- ・ Aの行政の構想とDの活動の進め方が一体となることで推進員の機能が向上し成果が生まれる。
- ・ 特に、大綱・施策がめざす「地域共生」を共通のゴールに据え、推進員が活動の焦点を意識しながら日常業務に取り組むことで、日々の中で共生が生まれ、施策推進にも寄与できる。
- ・ 推進員が活動の焦点に注力できるためには、A.B領域の強化が必要で、少しの工夫でできることが多い。
- ・ 本人視点で認知症の人の地域生活継続を長年にわたって地道に取り組んでいる地域の人財がどの地域にもいる（地域密着型サービスの管理者やスタッフ、訪問診療など地域医療サービスに積極的に取り組んでいる管理者やスタッフ、認知症介護指導者等）。市町村がそれらの人財を知ってつながり、今後の推進員の配置人財として起用することで、推進員配置や機能の質の向上につながる。
- ・ 推進員として配置する以外にも、地域にいる人財を推進員とともに活動を進める推進役・チームとして市町村が経年的に育てていくことが非常に重要（推進員が活動していく上での重要な活動パートナー、推進力になる）、等。

なお、推進員が異動した場合に、推進員が活動継続を希望する場合、異動先でも推進員活動を継続していける体制や環境をつくることによって、推進員活動の持続発展性が強められること、加えて移動先での新たな分野における活動の展開や多資源ネットワークが広がる可能性も提起された。

第4章 配置及び機能強化促進のための推進員活動情報共有システムのあり方の検討と資材制作

1. 目的

全国の推進員が配置状況や活動のプロセス・成果等に関する情報を共通フォーマットで記録・蓄積・共有することを日常的に可能にする現場発の循環型システムを検討し、今年度は一貫した体系・フォームをもとに以下5種6点を製作した。

2. 製作した関連資材一式（活動ガイド・活動情報集・活動情報検索システム・活動情報動画）

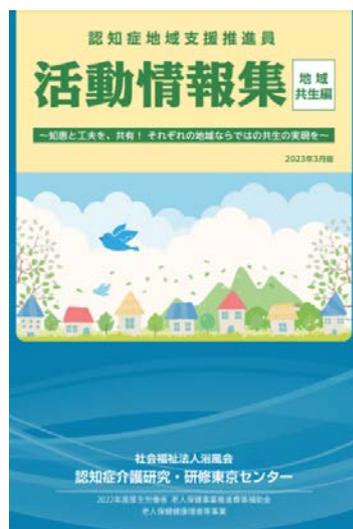
○活動ガイド及びガイドエッセンス版

推進員と行政担当者向けに、課題の解消を図りつつ、推進員機能を強化していくためのポイントを掲載。より多くの人に周知・活用いただくための普及・導入版としてエッセンス版を作成。



○活動情報集 地域共生編

日常業務を通じて地域共生の実現を進めている活動情報を共通フォーマットで集録。新任者も最初の一步がわかり活動イメージを広げられるよう写真等を多数掲載。



○活動情報検索システム（ホームページ DCnet）

推進員や自治体の職員、関係者が、知りたい情報をキーワードで選択可能。今後、推進員が日常の活動情報を共通フォーマットでまとめ、発信と共有、蓄積していくことを推進（現場発の自主的な情報発信・共有を大切に、推進員・市町村がつながりあい分かち合いながら、全体的に機能向上を図っていく情報循環システム）。



○活動情報動画（普及版）

人口規模、配置形態の異なる全国10地域の推進員の活動を通じた地域共生の実際のシーンとポイントを紹介。推進員と同時に、行政担当者、住民等にも気軽にみてもらい、本人が地域で共に生きていく可能性をリアルに見ていただき、地域での推進員の活動と多様な人たちとの協働を促進するための普及版動画（2本）。



第5章 認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会の開催

テーマ：推進員が活躍しやすい環境をともに創り、地域共生を進めよう！

プログラム 2023年2月24日(金) 13:30~16:30

時間	内容															
13:30~13:35	今年度研究事業のねらいと概要 認知症介護研究・研修東京センター															
13:35~14:00	認知症地域支援推進員の配置と活動に関する調査結果ダイジェストと提案 認知症介護研究・研修東京センター															
14:00~15:50 (途中休憩あり)	報告：地域の特徴を活かした推進員の配置と機能強化の工夫 人口規模、推進員の配置形態の異なる4地域 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>人口(高齢化率)</th> <th>推進員の配置形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 新潟県湯沢町</td> <td>7,960人 (39.5%)</td> <td>*行政/直営包括+小規模多機能</td> </tr> <tr> <td>2. 京都府南丹市</td> <td>30,597人 (36.0%)</td> <td>*社会福祉協議会/委託包括</td> </tr> <tr> <td>3. 静岡県藤枝市</td> <td>142,169人 (30.9%)</td> <td>*行政/直営包括+委託包括</td> </tr> <tr> <td>4. 神奈川県大和市</td> <td>243,919人 (23.9%)</td> <td>*行政+委託包括</td> </tr> </tbody> </table>	地域	人口(高齢化率)	推進員の配置形態	1. 新潟県湯沢町	7,960人 (39.5%)	*行政/直営包括+小規模多機能	2. 京都府南丹市	30,597人 (36.0%)	*社会福祉協議会/委託包括	3. 静岡県藤枝市	142,169人 (30.9%)	*行政/直営包括+委託包括	4. 神奈川県大和市	243,919人 (23.9%)	*行政+委託包括
地域	人口(高齢化率)	推進員の配置形態														
1. 新潟県湯沢町	7,960人 (39.5%)	*行政/直営包括+小規模多機能														
2. 京都府南丹市	30,597人 (36.0%)	*社会福祉協議会/委託包括														
3. 静岡県藤枝市	142,169人 (30.9%)	*行政/直営包括+委託包括														
4. 神奈川県大和市	243,919人 (23.9%)	*行政+委託包括														
15:50~16:20	ここがポイント！：リレーメッセージ *全国各地の推進員、行政担当者より、推進員が活躍していくためのポイントやその実際についてシンプルに伝達 *zoom参加者からの質問に答えて															
16:20~16:30	まとめ・アンケート															

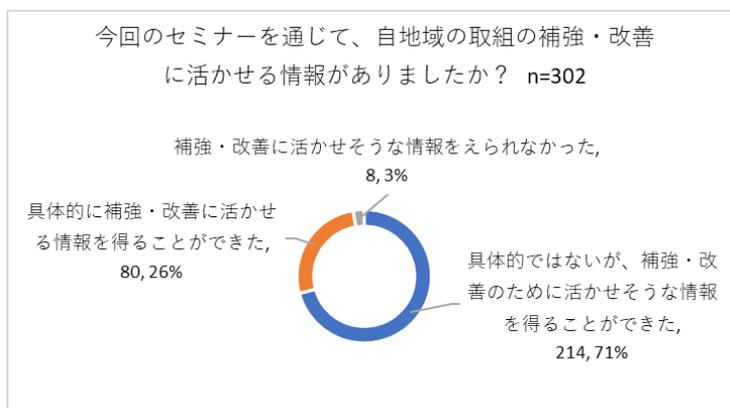
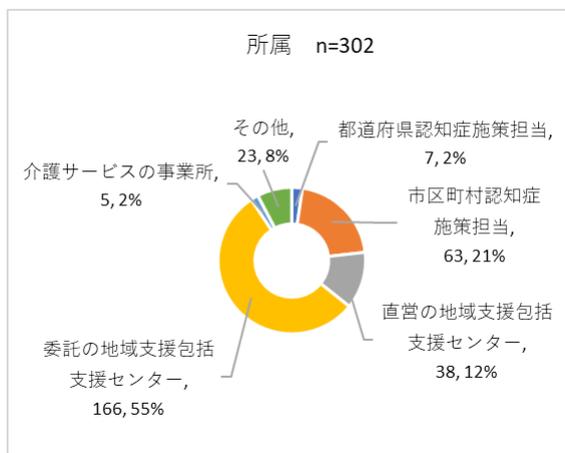
○開催方法：オンライン (Zoom)

○参加者数 433名 (アカウント数)

○結果・内容

①調査結果等事業報告、②配置と機能強化をテーマに4地域の推進員から報告、③人口規模・立場の異なる5地域の推進員からポイントに関するコメントと視聴者との質疑応答、以上3部構成で実施。アンケート結果では、自地域の補強・改善に活かせる点があったが97%。自由記述では、機能強化につなげるための推進員活動の焦点を確認する必要性、協働関係を見直しの必要性、行政と推進員の協働の具体的なあり方を今後活かしたい等、各地域の展開につながる意見が多数寄せられた。

○アンケート結果



情報を得ることができた点（自由記述抜粋）。

- ・ 所属する市町村の状況と似たような地域があり、その先進的な取り組みに関心をもって視聴した。
- ・ 多職種や各種団体との連携による、認知症施策の展開。
- ・ 推進員とともに、認知症施策担当者として活動するにあたり、事業を中心として回そうとしていたところを、本人中心で考える動きに徐々にシフトしていけたらと思った。
- ・ 行政担当者との連携。推進員「役」との連携という考え方。
- ・ 委託先の推進員との意見交換の場がないので、設けてみようと思った。
- ・ 行政と推進員とがいかに情報共有していけるか、対等な関係を意識して一緒に活動をつくっていく。
- ・ 行政にも活動内容のことを一緒に考えてもらえるよう、報告や活動に巻き込んでいかないといけない。
- ・ 実績（数字）を求められており、焦りだけがあり役割を楽しめていなかったことに改めて気づいた。
- ・ 事業にとらわれず、目の前にいる認知症の方の声をしっかり聴き、やりたいことを一緒に取り組んでいく、その積み重ねがいずれは地域づくりに繋がっていくことを改めて感じた。
- ・ 実際に何をしていくかは、個別の意向を伺うところから生まれて行く事だということがわかった。
- ・ 推進員の核となる考え方は、事業を沢山することに重きを置くのではなく、自分自身が認知症になったときに住みたい町か、そういう町づくりが役割という言葉は目から鱗くらい印象的だった。
- ・ 生活支援コーディネーターとの繋がりを持って活動していくことが大切だと確認出来た。
- ・ 「見守る」から、「本人が安心して外出できる」という視点への変換が、目からウロコでした。

推進員の配置促進や機能強化に関して、自治体で今後取り組みたいこと（自由記述抜粋）。

- ・ 本人の声が聴きたいです。その後1人から本人の声にそった活動支援を行っていきたいと思いました。
- ・ 推進員以外の支援者や地域住民に伝えていけるか、広報か。インスタ開設して広報していきたい。
- ・ 行政推進員、委託先推進員がともに楽しんで活動できているか、まずは確認したい。
- ・ 行政に1名しか配置されていないので、委託包括と連携をとれる体制を作りたい。
- ・ 推進員が兼務で役割も不明確であったので、課題と方向性を明確にし、できることから計画的にすすめていきたい。
- ・ 推進同士が日頃から繋がって、ちょっとした悩みや、こうしたら良いことが起きたなど、気軽に言い合える場を作っていき、それが本人の方へよい波及効果をもたらせるようにしていけたらと思う。
- ・ 行政の担当者の方と密に連絡を取り一緒にやっていけるように、話し合いをすることから始める。
- ・ 生活支援コーディネーターが行っている既存の仕組みを、チームオレンジの立ち上げに巻き込みたい。
- ・ 認知症をもつ本人や家族が思いを表出できる集いの場の普及、認知症の方も地域の一員として一緒に楽しめる場づくり。
- ・ 認知症カフェの運営を包括支援センター主体で企画していたが、まずは参加者の声を聞くことから始めたい。
- ・ 地域の個別の相談からニーズを知り活動に繋がりたい。
- ・ 事業の立ち上げにばかり意識を向けるのではなく当時者のニーズを行政へ伝えていきたいと思った。
- ・ 兼務していることを強みに、肩書に惑わされず地域での困りごとに何ができるか考えていきたい。
- ・ 市の担当者との定期的な話し合いの場を持ち、方向性等を共有する。

第6章 まとめ・提案・今後の課題

1. まとめ

1) 推進員配置により、変化・成果が生まれ始めている

- 全国調査結果より、推進員が配置されたことによる変化・成果が「まだない/把握できていない」とした市町村も少なくなかった一方、人口規模の大小に係わらず、推進員が「本人に関して」、「地域・専門職・家族に関して」、「情報の流れや協働に関して」、多面的な成果を上げ始めている市町村が半数程度あることが明らかになった。
- またそれらの集積として、推進員活動を通じて「認知症があってもなくても地域で共に生きる意識や姿は広がっている」地域共生の進捗が見られている市町村が、約半数あることが確認された。

2) 多彩な機能を果たす一方で、「やりたいができていない」推進員が多い：のびしろが大きい

- 推進員は、施策や支援を推進していく上での1) 焦点機能 (①「本人視点で・本人とともに」、②「本人発信支援」、③「社会参加支援」、④「認知症バリアフリー推進」、⑤分野横断の連携) をベースに、2) 推進員の3役割 (医療・介護等支援ネットワーク構築、連携しながらの企画・調整、相談・相談支援体制構築)、さらには3) 本人視点での統合や行政提案、など、多彩な機能を果たしていることが明らかになった。
- それらの機能を総合的に果たしている推進員が見られる一方、「やりたいができていない」推進員も多く、今後、推進員の活動環境を整えることで、「やりたい推進員が活躍していく」伸びしろが大きいことが示唆された。
- 「やりがいがある」と回答していた推進員が7割の一方、「活動を続けられるかわからない」が4割に上っていた。その理由の主なものは、「負担が大きい」、「1年雇用」、「法人の意向で異動」であり、工夫や調整によって、改善を図っている市町村もみられた。こうした状況を年々先送りせず、行政と推進員、そして委託法人等との間で建設的に話し合い、改善を積上げていくことが重要である。

3) 現象的な課題の背景にある構造的な課題：各自治体での課題検討の重要性

- 現象的な課題として、「a.人材(確保)不足、継続不安定」、「b.推進員が活動したいができていない」、「c.推進員活動による変化/成果を示せずにいる・それらを把握していない(未把握)」、「d.推進員活動の成果創出・蓄積・持続発展できていない」、「e.施策や地域共生の進捗に市町村間での較差」が、自治体規模にかかわらず生じていることが確認された。
- これらの課題が「なぜ生じているのか」を委員およびワークショップメンバーで検討した結果、その背景として、より基本的(本質的)な4課題17項目に整理された(課題マップ)。
- 全国調査結果から、これらの課題について解決が必要と考えている市町村担当者と推進員は、17項目中13項目については非常に近似値であり、市町村担当者と推進員は多くの点に関して同様の課題意識を持っていることが示唆された。
- 一方、以下の4項目については、市町村担当者よりも推進員の方がより高率で必要としていた。
・B「活動の体制づくり」③適切な人材の確保・配置のための調整不足・強化が必要

- ・B「活動の体制づくり」⑦推進員のみではなく、施策担当者が施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ開会の不足・必要
 - ・C「担当者や推進員との協働」⑩相談しやすい関係不足・強化が必要
 - ・D「活動の進め方」⑰本人や地域と、行政をつなぐ機能の不足・必要
- 市町村担当者と推進員との【認識のずれ】が生じていることが示唆され、内容的には推進員がより活躍をしたいと望んでおりそれを可能にする環境整備が求められていることが示唆された。

4) 推進員配置の効果が生まれるメカニズム：対話と合意形成に基づく協働と焦点機能の継続

- 課題を解消しながら推進員配置の効果を生み出している市町村（好事例）では、市町村担当者（担当部署）と推進員が日常的に対話できる関係性をベースに、活動の方向性・方針について合意形成を図り、それぞれの立場を尊重して活かしあいながら、推進員活動の企画・実施・見直し・改善を協働して行うプロセスが重視されていた。
- 市町村担当者と推進員との間で、事業をこなすことが目的ではなく、本人視点にたつこと、本人発信重視等、焦点機能の重視が共有され、それを日常的に実行していくこと（あたりまえのこととすること）が大切にされていた。
- 市町村担当者と推進員がそれを協働して進めることで、地域の医療・介護等の専門職や住民、企業、他の行政部門にも「焦点機能の重要性」が波及してそれが日常的になる、「地域のあたりまえ水準の向上」がみられ、担当者や推進員が直接かかわらなくても、地域の専門職や住民が「認知症の本人が地域とともに暮らす」ことを主体的に生み出していき、それらが担当者と推進員のやりがいと活動のさらなる発展につながっていく好循環がみられた。
- 好循環を生み出している市町村の担当者及び推進員ともに、「特別なことをやろうとせずに、あたりまえのことをやっているだけ」、「新しいことを増やしたり、複雑にしてハードルをあげずに、本人の声と力、地域の人たちの声と力を活かしながら続けていくこと」等、非常にシンプルに焦点機能をひたすら継続しながら活動を進めている特徴がみられた。
- 山積している課題を前に、推進員配置の効果を出せずにいる市町村も多いが、課題の表層的・部分的・単発的対策では、十分な効果が上がらないことが予測される。今後の取組みのハードルを下げるためにも、先進地域のプロセスを参考に、シンプルに焦点機能に注力することを継続していくことの重要性が示唆された。

5) 都道府県ならではの機能の重要性：促進役と協働した推進員の機能強化の体制作り

- 都道府県が推進員の基本姿勢や焦点を市町村に提示/説明している場合に、推進員機能強化を進めたいという市町村が多い結果が得られた。施策や事業の拡充が求められ、担当者の交代も多いうちで、方向性を見失って機能不全に陥りがちな市町村・推進員も少なくない中、都道府県ならではの立場を活かして、市町村・推進員をナビゲーションする機能が重要と考えられる。
- 都道府県の中には、「推進員について考える余裕や環境がない」という回答も1割強みられていた。市町村較差を解消していくためにも、都道府県として担当者のみで頑張らずに、推進員機能を経年的に強化していく効率的な体制づくりが急務である。
- 推進員の中には「推進員同士が機能を高めあう促進役になりたい」人が52.2%に上り、中でも「非常になりたい」という貴重な人財が8.1%みられた。これらの人財の意見や提案を聞きなが

ら、互いに無理なく持続可能な方策について協議しながら、都道府県管内の推進員の機能強化・活躍を協働して促進していく体制作りが求められている。

2. 提案

1) 推進員が”地域共生の推進役“として活躍する新たなステージへ

- 「認知症施策推進大綱」の目標年である 2025 年に向けて、各自治体における施策のさらなる拡充が求められているこの時期、多種多様な事業・取組をこなすことを目的とするのではなく、本人視点にたって各種事業を統合しながら、地域共生の実現を図ることが急務となっている。推進員がその着実な推進のための機能を果たしうることが今年度の調査で明らかになった。
- 実際に市町村として、「本人視点で事業や人をつなぎ、認知症になってからも地域でともに暮らし続ける地域共生の推進役」という発展的な機能を持つ人財として推進員を位置付けている自治体も見られており、それらの市町村では配置された推進員が活発に活動し、地域の多様な変化・成果を生み出している。
- 一方、『推進員を配置はしているが、推進員配置の意義や位置づけが不明確』という市町村も多く、そのことが推進員の確保や活躍を阻む一因になっていることが示唆された。それらの地域でも、推進員個々のポテンシャルは高く、市町村として推進員機能を発展的に見直すことで、推進員が有する力を発揮して活躍していく伸びしろが高いことも確認された。
- 今後は、すべての自治体において、推進員が“地域共生の推進役“という認識と位置づけをしながら、推進員配置や機能強化を促進していくことが、推進員個々のやりがいと活躍、そして市町村の認知症施策の効果的な推進につながると期待される。

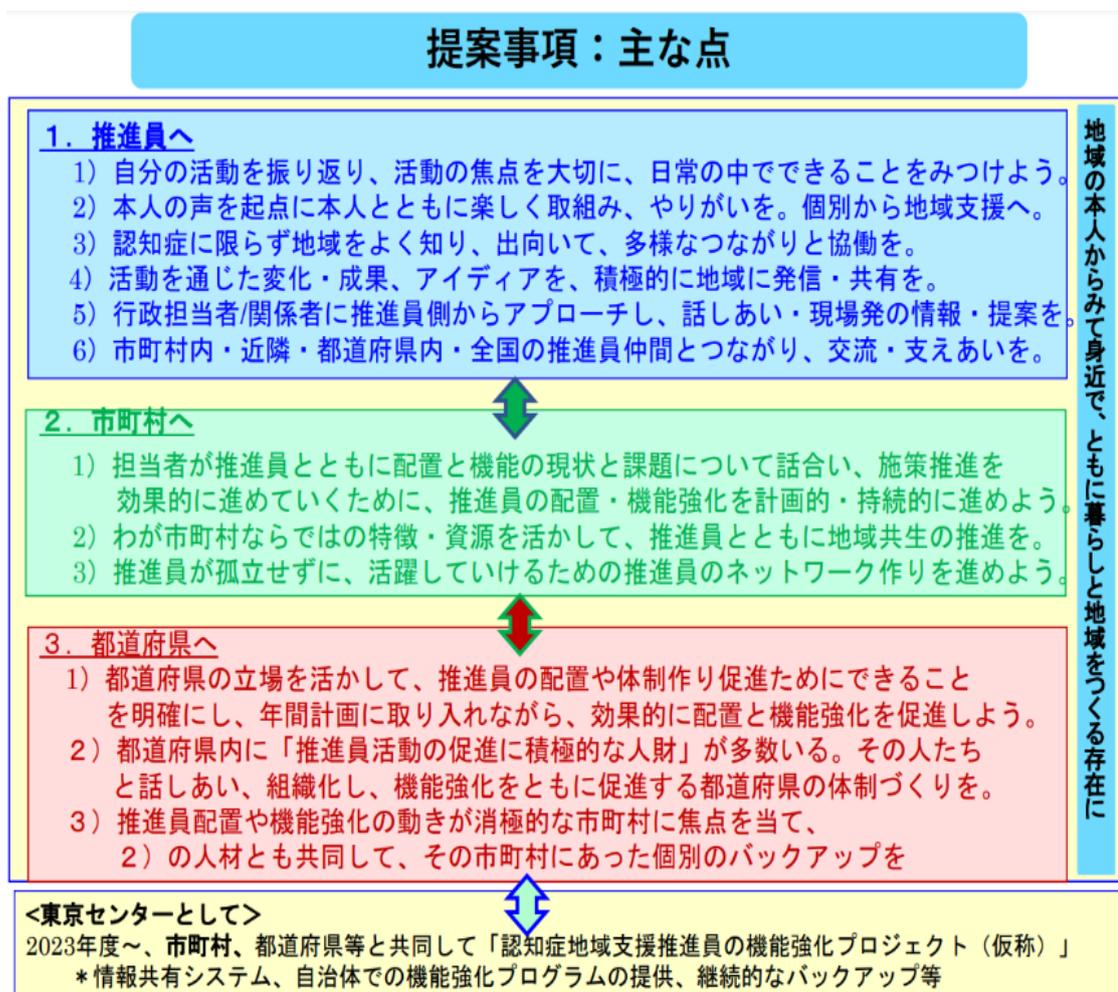
2) 推進員が継続的に地域の中で活躍を続けられる体制作りを：異動を活かす

- 推進員の異動が多く、せっかく積上げた活動や多様な関係者とのつながりの蓄積効果を出せないでいる市町村も少ないことが確認された。
- 2018 年度から推進員が全市町村に配置になってから 5 年近くが過ぎ、推進員の機能や位置づけの見直しがなされないまま前年度の配置が踏襲されたり、配置が形骸化している市町村もみられている。各市町村で、今後に向けた推進員の配置の意義や、活動の継続性が重要であることをあらためて確認し、異動を最小化する工夫や調整を、委託先も含めて強化する必要がある
- 異動をする場合、その推進員が希望すれば、推進員としての立場を保有し続け異動した先でも活躍を続けられる体制整備の検討が必要である。推進員のやりがいが高まり、先行き不安や関係間のストレスを最小にして活躍を続けられること、異動先の領域を足場にこれまでになかった新たなネットワークや活動の展開につながる効果等多様なメリットが期待できる。研修を受けた貴重な人財を賽の河原的に無駄にせず推進体制を年々拡充していくために、推進員の異動を活かす方策・体制づくりを全市町村で整備していくことが重要である。

3) 推進員、市町村・都道府県が、重層的に機能強化を：促進役とともに体制づくりを

○推進員配置と機能強化の促進を、市町村（担当者）や一部の人だけで進めるのではなく、推進員、市町村、都道府県がそれぞれの立場をいかしながら、重層的に進めていくことが大切である。

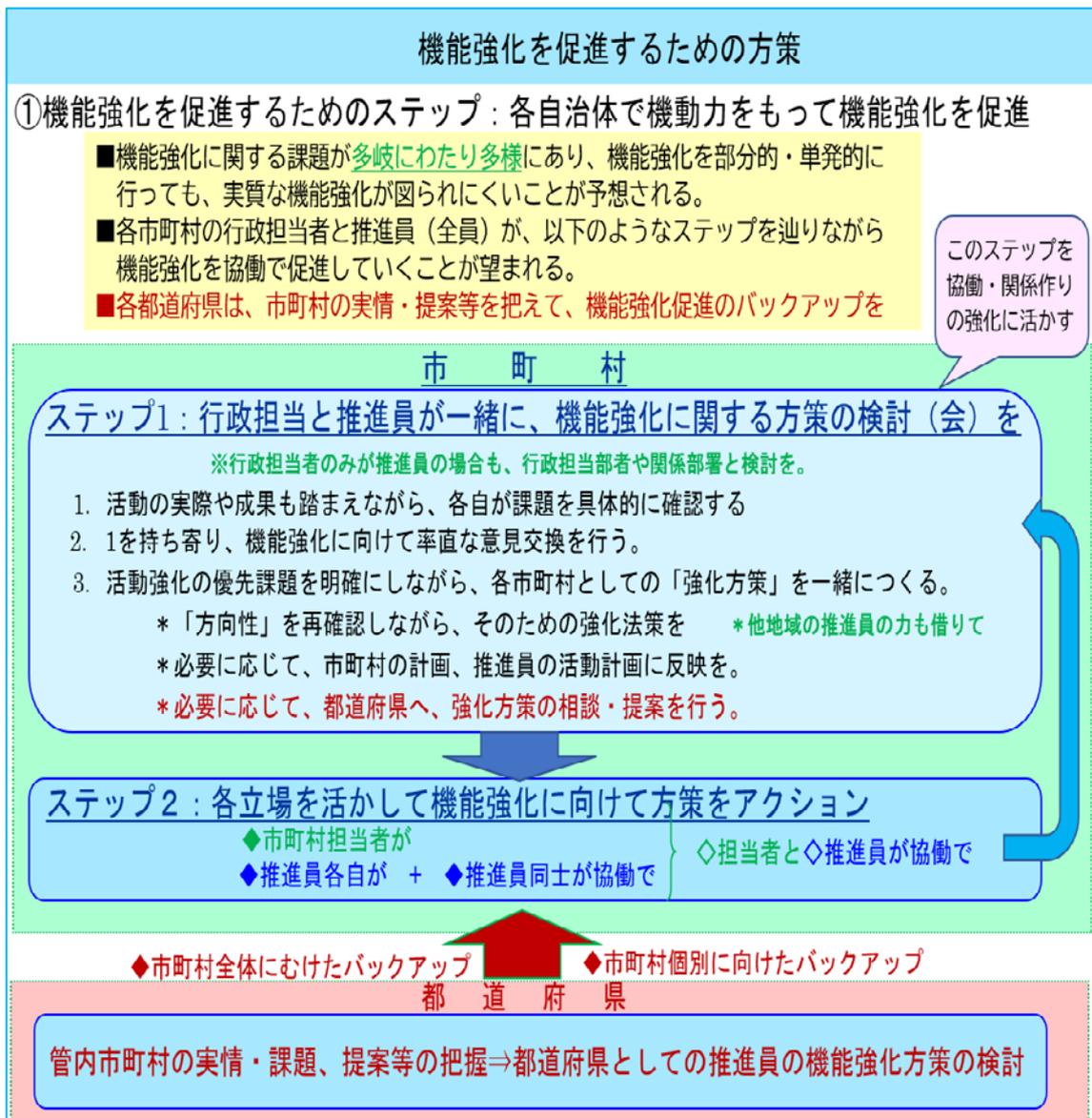
以下は、検討委員会での提案内容を集約した提案である。



○なお、検討委員会に参加した本人（委員）より、「推進員の配置や機能強化について、行政や推進員だけで考えるのではなく、推進員がどこにいるといいのか、どんなはたらきをすることがよりよい暮らしにつながるのか、その地で暮らす本人とも話しあいながら進めてほしい」という提案があった。

各市町村で、「推進員の配置と機能強化」のあり方と今後検討していく際こそ、「本人視点」、「本人発信」、「本人の社会参加」の機会として活かしていくことが望まれる。

3) 配置と機能強化促進のためには、表層的・部分的・単発的な対策ではなく、基本的・全体的・継続的な促進策が必要：担当者と推進員が協働で促進策を練り、中長期の視点で促進を



3. 今後の課題

1) 推進員の配置と機能強化を継続的に推進・フォロー・モニターするセンター機能の強化

- 推進員配置や機能強化・活躍が進みつつあるが、自治体間の温度差も大きい。各自治体の地域特性・主体性を重視しながら、各自治体における推進員配置と機能強化がより効率的に進んでいくように、全国レベルで継続的に推進・フォロー・モニターするセンター機能を、より強化していく必要がある。

2) 現場発の推進員活動情報共有システムの実装と拡充

- 今年度開発した推進員活動情報共有システムを実際に稼働させながら、利用する推進員、自治体職員等の意見や提案を集約し、知りたいことに関する情報をタイムリーに、わかりやすく入手できるための内容面の改善を図っていくことが必要である。
- 現場の推進員から、他の推進員と共有したい情報を、自発的に、より簡便に発信できるよう、システム全体やその周知等も含めて、運用面の見直しを図っていく必要がある。
- 情報共有システムを維持・改善していくためには、人財とコストの確保が必要である。

3) 見えにくい推進員機能を通じた成果の発信

- 認知症に関する良質な支援は、目に見えにくく、数値化しにくい特徴があることが、各方面から提示されているが、推進員の活動による成果も目に見えにくく、数値化しにくい。各市町村や推進員も、その活動を丁寧に展開していても、成果を発信できていない自治体・推進員が多い。
- 推進員が多様な事業や、地域共生の実現に成果をあげている実態を今後も継続的に把握し、自治体や推進員、そしてより多様な領域の人たちに発信していくことを、上記の情報共有システムともあわせて、より積極的に行っていく必要がある。

4) 進化を続ける推進員機能に関する探索的研究の必要性

- 認知症施策の拡充に伴い、推進員機能も進化・深化が求められている。
- 1741の市町村は、人口規模や地域特性の違いが大きく、それぞれの地域特性に応じて無理・無駄のない推進員の機能の拡充が求められている。
- 今後、アンケート調査では把握が難しい推進員機能の詳細や機能強化に関する要件などを、より具体的に明らかにしていくことを、フィールドワーク等も含めて継続的に行っていく必要がある。

5) 内外の関連機関との連携・協働

- 推進員機能の強化を図っていくためには、関連する機能を有する多種のコーディネーターや連携推進役に関する情報収集と連携・協働が不可欠である。それらのコーディネーター機能に関連した内外の組織との連携を強化しながら、協働が望まれる部分に関しては積極的に協働を図っていく必要がある。

巻末資料 全国調査 調査票及び回答結果

1. 単純集計結果

【都道府県調査】結果

【市区町村調査】結果

【認知症地域支援推進員調査】結果

2. 都道府県フィードバック用集計結果

全国集計と各都道府県集計結果を対照した結果

令和4年度 厚生労働省老健事業
 認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究
 認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査
 【 都道府県用 】

○ 調査概要

	全国
調査対象数	47
回答数	47
回収率	100.0%

I. 都道府県の基本情報について

	件数	比率
【 1. 貴都道府県について 】		
③ 人口		
50 万人以上 100 万人未満	10	21.3%
100 万人以上 200 万人未満	21	44.7%
200 万人以上	16	34.0%
④ 高齢化率		
27%未満	6	12.8%
27%以上 30%未満	11	23.4%
30%以上 33%未満	15	31.9%
33%以上 40%未満	15	31.9%
⑤ 市町村数		
1 以上 20 未満	9	19.1%
20 以上 30 未満	12	25.5%
30 以上 40 未満	10	21.3%
40 以上	16	34.0%
	件数	比率
【 2. ご記入下さっているご担当者の部署の概要について 】		
② 認知症施策のご担当者の数		
1 人	8	17.0%
2 人	14	29.8%
3 人	11	23.4%
4 人以上	14	29.8%
③ ご担当者の中で認知症施策を最も長く担当している人の年数		
2 年未満	16	34.0%
2 年以上 3 年未満	13	27.7%
3 年以上	18	38.3%

Ⅱ. 都道府県として推進員の機能強化に関して取組んでいること

【 Ⅱ-1 市町村における推進員の配置状況や活動実態、課題等の把握 】

	全国	
	件数	比率
＜ 1)市町村における推進員の配置状況についての把握 ＞		
① 推進員の配置数		
(概ね)全市町村について把握している	46	97.9%
半数程度の市町村について把握している	0	0.0%
一部の市町村について把握している	1	2.1%
把握していない	0	0.0%
② 推進員が配置先（配置組織）		
(概ね)全市町村について把握している	42	89.4%
半数程度の市町村について把握している	2	4.3%
一部の市町村について把握している	1	2.1%
把握していない	2	4.3%
③ 推進員の配置形態（専任、兼任）		
(概ね)全市町村について把握している	35	74.5%
半数程度の市町村について把握している	0	0.0%
一部の市町村について把握している	5	10.6%
把握していない	7	14.9%
④ 推進員の勤務形態（常勤、非常勤）		
(概ね)全市町村について把握している	31	66.0%
半数程度の市町村について把握している	0	0.0%
一部の市町村について把握している	3	6.4%
把握していない	13	27.7%
⑤ 推進員が兼務している役割（例：初期集中支援チーム員、生活支援コーディネーター、チームオレンジコーディネーター等）		
(概ね)全市町村について把握している	6	12.8%
半数程度の市町村について把握している	2	4.3%
一部の市町村について把握している	16	34.0%
把握していない	23	48.9%
⑥ 市町村における推進員の異動/交代状況		
(概ね)全市町村について把握している	13	27.7%
半数程度の市町村について把握している	1	2.1%
一部の市町村について把握している	7	14.9%
把握していない	26	55.3%
⑦ 市町村の推進員配置に関する課題		
(概ね)全市町村について把握している	9	19.1%
半数程度の市町村について把握している	5	10.6%
一部の市町村について把握している	14	29.8%
把握していない	19	40.4%

	全国	
	件数	比率
＜ 2)市町村の推進員活動に関する現状と課題、成果等の把握 ＞		
① 市町村の、認知症施策のビジョンや視点、焦点等についての理解・考え方について		
積極的に把握するようにしている	8	17.0%
把握するようにしている	15	31.9%
必要時のみ把握している	14	29.8%
把握していない	10	21.3%
② 市町村の、推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解・考え方について		
積極的に把握するようにしている	3	6.4%
把握するようにしている	7	14.9%
必要時のみ把握している	23	48.9%
把握していない	14	29.8%
③ 市町村が推進員に依頼している役割・機能について		
積極的に把握するようにしている	3	6.4%
把握するようにしている	7	14.9%
必要時のみ把握している	23	48.9%
把握していない	14	29.8%
④ 市町村の推進員活動の状況や内容について		
積極的に把握するようにしている	9	19.1%
把握するようにしている	11	23.4%
必要時のみ把握している	18	38.3%
把握していない	9	19.1%
⑤ 推進員が活動する上での課題や必要としていることについて		
積極的に把握するようにしている	7	14.9%
把握するようにしている	12	25.5%
必要時のみ把握している	17	36.2%
把握していない	11	23.4%
⑥ 推進員の活動を通じた変化/成果について		
積極的に把握するようにしている	3	6.4%
把握するようにしている	6	12.8%
必要時のみ把握している	22	46.8%
把握していない	16	34.0%
⑦ 推進員活動に関する好事例		
積極的に把握するようにしている	9	19.6%
把握するようにしている	9	19.6%
必要時のみ把握している	16	34.8%
把握していない	12	26.1%
⑦-1 好事例を把握している場合、把握方法について		
認知症施策全体に関する市町村調査などで把握	13	27.7%
推進員に関する市町村調査などで把握	7	14.9%
市町村担当者の会議等で把握	16	34.0%
推進員の研修や集まり等で把握	21	44.7%
都道府県担当者が市町村等に出向いて把握	10	21.3%
都道府県担当者が市町村担当者/推進員と電話やメールでやりとりして把握	18	38.3%
市町村担当者/推進員等が、報告した資料等で把握	15	31.9%
その他	0	0.0%

	全国	
	件数	比率
＜ 3）推進員機能の強化に関する市町村の取組みについての把握 ＞		
① 市町村の施策担当者と推進員との関係性や協働の状況について		
積極的に把握するようにしている	2	4.3%
把握するようにしている	11	23.4%
必要時のみ把握している	18	38.3%
把握していない	16	34.0%
② 市町村の施策担当者と推進員との方向性や役割等に関する合意形成について		
積極的に把握するようにしている	1	2.1%
把握するようにしている	7	14.9%
必要時のみ把握している	17	36.2%
把握していない	22	46.8%
③ 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組みについて		
積極的に把握するようにしている	1	2.1%
把握するようにしている	5	10.6%
必要時のみ把握している	18	38.3%
把握していない	23	48.9%
④ 推進員同士等がつながり、学び合い、支えあう機会についての市町村の支援等について		
積極的に把握するようにしている	2	4.3%
把握するようにしている	7	14.9%
必要時のみ把握している	15	31.9%
把握していない	23	48.9%
⑤ 推進員活動の「PDCA」等、推進員の質の向上に向けた市町村の取組みについて		
積極的に把握するようにしている	1	2.1%
把握するようにしている	8	17.0%
必要時のみ把握している	13	27.7%
把握していない	25	53.2%
⑥ 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等について		
積極的に把握するようにしている	2	4.3%
把握するようにしている	6	12.8%
必要時のみ把握している	19	40.4%
把握していない	20	42.6%
⑦ 認知症施策を推進員していくための、市町村としての推進員の適正な配置・体制について		
積極的に把握するようにしている	2	4.3%
把握するようにしている	6	13.0%
必要時のみ把握している	16	34.8%
把握していない	22	47.8%

【Ⅱ-2 市町村の施策担当者が推進員の機能強化を図るための、都道府県による取り組み】

	全国	
	件数	比率
＜ 1)市町村の施策担当者への都道府県としての方向性や方針等の提示等 ＞		
① 認知症施策が目指していること(ビジョン、方向性等)を都道府県として提示/説明		
積極的に行っている	11	23.4%
ある程度行っている	31	66.0%
あまり行っていない	0	0.0%
行っていない	5	10.6%
② 「認知症とともに生きる希望宣言」についての情報提供/普及の勧奨		
積極的に行っている	9	19.1%
ある程度行っている	17	36.2%
あまり行っていない	14	29.8%
行っていない	7	14.9%
③ 推進員の取り組みの基本姿勢や活動の焦点についての提示/説明		
積極的に行っている	4	8.5%
ある程度行っている	7	14.9%
あまり行っていない	22	46.8%
行っていない	14	29.8%

	全国	
	件数	比率
＜ 2)研修や連絡会、ネットワーク作りの機会等の提供 ＞		
① 都道府県主催で、市町村担当者を対象に、推進員の機能強化に関する情報提供や、担当者同士で情報・意見交換を行う機会をつくっている		
積極的に行っている	6	12.8%
ある程度行っている	17	36.2%
あまり行っていない	9	19.1%
行っていない	15	31.9%
② 都道府県主催で、市町村担当者と推進員を対象に合同で集まる機会をつくり、推進員の機能強化に関する情報提供や参加同士での情報・意見交換を図る機会をつくっている		
積極的に行っている	9	19.1%
ある程度行っている	14	29.8%
あまり行っていない	8	17.0%
行っていない	16	34.0%
③ 都道府県主催で、市町村担当者と推進員と連携協働上重要な関係者(例:認知症疾患医療センター、若年性認知症支援コーディネーター、都道府県警察、保健所、企業等)が集まり、情報提供や情報・意見交換を図る機会をつくっている		
積極的に行っている	5	10.6%
ある程度行っている	9	19.1%
あまり行っていない	6	12.8%
行っていない	27	57.4%

④ 市町村の施策担当者等が、全国の認知症支援体制づくりの動きや推進員も含めた今後のあり方についての情報や知見をうるために、全国合同セミナー(東京センター)への参加を市町村担当者に勧奨している		
積極的に行っている	16	34.0%
ある程度行っている	24	51.1%
あまり行っていない	3	6.4%
行っていない	4	8.5%
⑤ 推進員の新任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている(受講勧奨、調整、費用確保等)		
積極的に行っている	29	61.7%
ある程度行っている	14	29.8%
あまり行っていない	2	4.3%
行っていない	2	4.3%
⑥ 推進員の新任者が、都道府県独自(主催)の研修を受講する機会をつくっている		
積極的に行っている	11	23.4%
ある程度行っている	6	12.8%
あまり行っていない	3	6.4%
行っていない	27	57.4%
⑦ 推進員の現任者が、東京センター主催の推進員研修を受講する機会をつくっている(受講勧奨、調整、費用確保等)		
積極的に行っている	27	57.4%
ある程度行っている	15	31.9%
あまり行っていない	2	4.3%
行っていない	3	6.4%
⑧ 推進員の現任者が、都道府県独自(主催)のの推進員研修を受講する機会をつくっている		
積極的に行っている	12	25.5%
ある程度行っている	5	10.6%
あまり行っていない	3	6.4%
行っていない	27	57.4%
⑨ 上記研修以外で、推進員の機能向上を図るための都道府県独自(主催)の研修やセミナー等を実施している		
積極的に行っている	6	13.0%
ある程度行っている	10	21.7%
あまり行っていない	4	8.7%
行っていない	26	56.5%
⑩ 都道府県内の推進員同士のネットワーク作りを、都道府県が行っている/支援している		
積極的に行っている	8	17.4%
ある程度行っている	8	17.4%
あまり行っていない	11	23.9%
行っていない	19	41.3%
⑪ 全国の推進員同士のネットワーク「すいしんいんネット」に都道府県内の推進員が参加する勧奨を行っている		
積極的に行っている	2	4.3%
ある程度行っている	7	15.2%
あまり行っていない	11	23.9%
行っていない	26	56.5%

	全国	
	件数	比率
＜ 3）都道府県の立場を活かした、市町村の連携・協働の支援 ＞		
① 認知症疾患医療センターと市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	8	17.0%
ある程度行っている	18	38.3%
あまり行っていない	12	25.5%
行っていない	9	19.1%
② 若年性認知症支援コーディネーターと市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	10	21.3%
ある程度行っている	19	40.4%
あまり行っていない	12	25.5%
行っていない	6	12.8%
③ 都道府県警察/管内警察と市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	3	6.4%
ある程度行っている	9	19.1%
あまり行っていない	11	23.4%
行っていない	24	51.1%
④ 都道府県内の交通機関と市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	1	2.1%
ある程度行っている	2	4.3%
あまり行っていない	15	31.9%
行っていない	29	61.7%
⑤ 都道府県内の企業と市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	2	4.3%
ある程度行っている	5	10.6%
あまり行っていない	13	27.7%
行っていない	27	57.4%
⑥ 都道府県の保健所と市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	5	10.6%
ある程度行っている	11	23.4%
あまり行っていない	12	25.5%
行っていない	19	40.4%
⑦ その他、上記以外の関係機関等と市町村・推進員との連携・協働の支援		
積極的に行っている	2	4.3%
ある程度行っている	3	6.5%
あまり行っていない	8	17.4%
行っていない	33	71.7%

	全国	
	件数	比率
＜ 4）都道府県から市町村等への推進員機能強化に関連した情報の収集・提供・発信等 ＞		
① 都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に随時情報提供している		
積極的に行っている	5	10.6%
ある程度行っている	9	19.1%
あまり行っていない	16	34.0%
行っていない	17	36.2%
② 都道府県管内の推進員活動の好事例情報や関連情報をもとに、活動の事例集や手引きを作成し配布		
積極的に行っている	3	6.4%
ある程度行っている	4	8.5%
あまり行っていない	8	17.0%
行っていない	32	68.1%
③ 全国の推進員活動の好事例情報や関連情報をとらえて、市町村・推進員に情報提供している		
積極的に行っている	5	10.6%
ある程度行っている	10	21.3%
あまり行っていない	13	27.7%
行っていない	19	40.4%
④ 都道府県として、管内の推進員が活動を報告・共有しあう報告会等を実施している		
積極的に行っている	10	21.3%
ある程度行っている	7	14.9%
あまり行っていない	6	12.8%
行っていない	24	51.1%
④-1 報告会等を行っている場合、実施方法について		
公開して実施	0	0.0%
推進員と市町村担当者・関係者が参加して実施	8	61.5%
主に推進員のみで実施	5	38.5%
その他	0	0.0%
⑤ 都道府県のイベント等で、管内の推進員が活動を報告・発信する機会をつくっている		
積極的に行っている	3	7.3%
ある程度行っている	4	9.8%
あまり行っていない	6	14.6%
行っていない	28	68.3%
⑥ 都道府県の広報物やホームページ等で、管内の推進員の活動や活躍を報告・発信する機会をつくっている		
積極的に行っている	4	10.0%
ある程度行っている	3	7.5%
あまり行っていない	8	20.0%
行っていない	25	62.5%
⑦ 都道府県等のメディア(新聞、テレビ、ラジオ等)を通じて、管内の推進員の活動や活躍を発信する機会をつくっている		
積極的に行っている	2	5.0%
ある程度行っている	2	5.0%
あまり行っていない	5	12.5%
行っていない	31	77.5%

⑧ その他、推進員機能強化に関連した情報の収集・提供・発信等を行っている		
積極的に行っている	2	5.1%
ある程度行っている	2	5.1%
あまり行っていない	9	23.1%
行っていない	26	66.7%

	全国	
	件数	比率
＜ 5) 推進員機能の強化に向けた市町村の取組みの較差解消に向けた都道府県の取組み ＞		
(1) 推進員機能の強化に向けた市町村の取組みの現状について		
推進員機能の強化に向けて、管内の市町村は全体的に積極的に取組む姿勢がみられる	7	14.9%
推進員機能の強化に向けて、管内の市町村の多くに積極的な姿勢がみられるが、一部消極的な市町村もある	21	44.7%
推進員機能の強化に向けて、管内では積極的に取組む市町村の方が少く、消極的な市町村が多い	3	6.4%
推進員機能の強化に向けて、管内では積極的な姿勢がみられる市町村は、ほとんどみられない	0	0.0%
よく把握しておらずわからない	14	29.8%
その他	2	4.3%
(2) 取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に向けて		
研修会や会議等の開催時は、個別に連絡を入れて、参加を呼びかけている	4	8.5%
研修会や会議等の開催時は、個別に連絡を入れて、研修会等や推進員の意義やメリットを説明し、参加を後押ししている	2	4.3%
研修会や会議等に不参加の場合は、当日の資料や情報を提供し、不参加でもできるだけ情報共有ができるようにしている	13	27.7%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村には、個別に連絡を入れて、市町村担当者の状況や課題、悩み等を聞き、話しあうようにしている	5	10.6%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に出向いて、市町村の担当者の話を聞いたり、状況を見て、話しあうことがある	7	14.9%
取組みが消極的/今後の動きが懸念される市町村に出向いて、市町村の担当者や推進員等との話しあいをもち、助言や調整等をするところがある	6	12.8%
その市町村の担当者等が必要としていることについて、情報提供や助言をおこなっている	20	42.6%
その市町村の担当者等が必要としていることに適切な助言やバックアップをしてくれる人や組織につながりがある	16	34.0%
その他	3	6.4%
特に行なっていることはない	17	36.2%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について

	全国	
	件数	比率
【Ⅲ-1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」】		
「本人の変化・成果」についての情報や事例を把握している		
本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった	10	21.3%
本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった	8	17.0%
本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった	13	27.7%
本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった	11	23.4%
本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった	4	8.5%
本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった	19	40.4%
本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった	8	17.0%
本人が発症後もこれまで勤めていた職場で働き続けられるようになった	0	0.0%
本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった	7	14.9%
本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった	2	4.3%
本人がGPS 機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	2	4.3%
本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった	1	2.1%
本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)	1	2.1%
本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった	5	10.6%
認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった	3	6.4%
本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった	8	17.0%
若年性認知症の人が、上記のいずれかの姿がみられるようになった	12	25.5%
その他、「本人に関する変化や成果」がみられた	0	0.0%
変化・成果を把握していない	21	44.7%

	全国	
	件数	比率
【 Ⅲ-2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」の事例 】		
「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」についての事例を把握している		
住民が本人の声を聴こうとするようになった	6	12.8%
住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった	6	12.8%
住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった	5	10.6%
住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった	10	21.3%
地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった	6	12.8%
住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった	5	10.6%
医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	4	8.5%
介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった	5	10.6%
医療・介護等の専門職の人たちが本人視点にたって支援連携の改善を図るようになった	5	10.6%
地域ケア会議等で、本人視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった	6	12.8%
医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった	7	14.9%
地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった	9	19.1%
地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった	2	4.3%
地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった	1	2.1%
住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	3	6.4%
医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取組みをするようになった	2	4.3%
本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった	6	12.8%
その他、「地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果」が見られた	1	2.1%
変化・成果を把握していない	26	55.3%
	件数	比率
【 Ⅲ-4 あなたの都道府県での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況 】		
① 地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつつあるようになってきている		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	9	19.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	9	19.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	5	10.9%
今年度からみられるようになった	1	2.2%
まだない/把握していない	22	47.8%
② 認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきている		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	8	17.4%
増えてはいないが、中身が充実してきている	11	23.9%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	5	10.9%
今年度からみられるようになった	1	2.2%
まだない/把握していない	21	45.7%

IV. 推進員の機能強化のための課題と、都道府県として今後必要な取組みについて

	件数	比率
【 IV-1 推進員の機能強化のための課題と、課題解消に向けて都道府県として必要な取組み 】		
① 市町村の、認知症施策のビジョンや方向性、焦点等の理解(の向上)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	11	24.4%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	20	44.4%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	11	24.4%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.7%
② 市町村の、推進員の価値や位置づけ、機能に関する理解(の向上)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	12	26.7%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	17	37.8%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	14	31.1%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.4%
③ 市町村担当者と推進員との関係性・協働のあり方(の向上)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	5	11.1%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	17	37.8%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	19	42.2%
課題・必要性は(あまり)ない	4	8.9%
④ 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み(の向上)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	4	8.9%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	15	33.3%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	22	48.9%
課題・必要性は(あまり)ない	4	8.9%
⑤ 推進員の新任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会(の拡充)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	5	10.9%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	26	56.5%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	12	26.1%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.5%
⑥ 推進員の現任者が、研修等で他の推進員とつながり、学び合い、支えあう機会(の拡充)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	5	10.9%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	27	58.7%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	11	23.9%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.5%
⑦ 推進員同士が、日常的につながり、情報交換や相談・支えあいができるネットワーク(の拡充)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	3	6.7%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	25	55.6%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	14	31.1%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.7%
⑧ 市町村担当者と担当者が、研修等で一緒に学び、話しあう機会(の拡充)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	8	17.8%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	21	46.7%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	13	28.9%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.7%

⑨ 市町村担当者と担当者が、研修等で協働が必要な関係者と出会い、話しあう機会(の拡充)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	7	15.6%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	20	44.4%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	15	33.3%
課題・必要性は(あまり)ない	3	6.7%
⑩ 推進員活動の「PDCA」(の促進)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	2	4.4%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	20	44.4%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	21	46.7%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.4%
⑪ 市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の集約(の促進)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	7	15.6%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	25	55.6%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	11	24.4%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.4%
⑫ 市町村による推進員活動の実際や成果、課題等の発信・共有(の促進)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	7	15.6%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	26	57.8%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	10	22.2%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.4%
⑬ 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等(の促進)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	4	8.9%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	22	48.9%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	17	37.8%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.4%
⑭ 各市町村の特性や状況に応じた推進員の適正な配置・活動体制(の促進)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	2	4.4%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	18	40.0%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	24	53.3%
課題・必要性は(あまり)ない	1	2.2%
⑮ 認知症施策・推進員活動が進んでいない市町村(のバックアップ)		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	13	28.9%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	26	57.8%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	6	13.3%
課題・必要性は(あまり)ない	0	0.0%
⑯ 都道府県の担当者が、セミナー等で他都道府県担当者と認知症施策・推進員活動のあり方を学び、話しあう機会の拡充		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	6	13.30%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	26	57.80%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	11	24.40%
課題・必要性は(あまり)ない	2	4.40%
⑰ その他		
重要な課題であり、都道府県として取組む必要性が高い	1	10.0%
課題であり、都道府県として取組む必要性がある	0	0.0%
課題ではあるが、都道府県として取組む必要性は低い	0	0.0%
課題・必要性は(あまり)ない	9	90.0%

V. 推進員の機能強化に関する市町村担当者の意向等

	全国	
	件数	比率
【 V-1 推進員の機能強化に関する都道府県担当の意向 】		
推進員機能を強化していくことについて、認知症施策ご担当者としての考え		
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を積極的に進めていきたい	30	63.8%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をこれまであまり持っていなかったが、今後は推進員を重視し、機能強化を進めたい	7	14.9%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をあまり持っておらず、推進員の機能強化を進めていこうとは(あまり)思わない	0	0.0%
推進員について考える余裕や環境がない	6	12.8%
その他、上記以外の推進員の存在や機能強化に関する考えがある	4	8.5%

	件数	比率
【 V-2 都道府県内の推進員活動の促進役になる人財について 】		
推進員同士のネットワークや推進員機能の向上のためのを牽引役/促進役になる人がおられますか。		
そうした人財が複数おり、すでに都道府県としてそうした人財を組織化し、都道府県全体の推進員機能の促進のために連携・協働をしている	1	2.1%
そうした人財がおり、組織化まではしていないが、すでに都道府県担当者が連携・協働をしている	9	19.1%
そうした人財がいるが、まだ都道府県担当者が連携・協働はしておらず、今後連携・協働をしていきたい	5	10.6%
そうした人財がいるが、まだ都道府県担当者が連携・協働はしておらず、今後も連携・協働までは考えていない	1	2.1%
そうした人財がいるかどうか把握していないが、今後把握し、連携・協働をしていきたい	24	51.1%
そうした人財がいるかどうか把握しておらず、今後も連携・協働までは考えていない	7	14.9%

令和4年度 厚生労働省老健事業
 認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究
 認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査
 【 市町村用 】

○ 調査概要

	全国
調査対象数	1741
回答数	1111
回収率	63.8%

I. 市町村の基本情報について

	件数	比率
【 1. 市町村(東京 23 区を含む)について 】		
④ 人口		
1 万人未満	248	22.6%
1 万人以上 5 万人未満	436	39.7%
5 万人以上 20 万人未満	307	28.0%
20 万人以上	107	9.7%
⑤ 高齢化率		
25%未満	122	11.1%
25%以上 30%未満	215	19.6%
30%以上 35%未満	254	23.2%
35%以上 40%未満	241	22.0%
40%以上	265	24.2%

	件数	比率
【 2. ご記入下さっているご担当者の部署の概要について 】		
② 認知症施策のご担当者の数		
3 人未満	712	64.6%
5 人未満	269	24.4%
7 人未満	78	7.1%
7 人以上	43	3.9%
③ ご担当者の中で認知症施策を最も長く担当している人の年数		
3 年未満	351	32.5%
3 年以上 6 年未満	403	37.3%
6 年以上 9 年未満	182	16.9%
9 年以上	144	13.3%

④ 担当部署内で推進員を兼任している人数		
いない	453	43.5%
1人	243	23.3%
2人	160	15.4%
3人以上	185	17.8%
⑤ 市町村が推進員を最初に配置した年度（西暦）		
2014年度以前	195	18.4%
2015年度	263	24.8%
2016年度	252	23.8%
2017年度	157	14.8%
2018年度以降	191	18.0%
⑥ 現在の推進員の配置総数		
0人	5	0.5%
1人	286	26.1%
2人	208	19.0%
3人以上5人未満	249	22.7%
5人以上10人未満	220	20.1%
10人以上	128	11.7%
⑦ 最初に配置してからの推進員の配置数等の変更		
変更していない	471	43.1%
配置する組織の種類を増やし、数も増員	208	19.0%
配置する組織の種類は増やしていないが、配置組織数や推進員数を増やした	314	28.7%
その他の変更をしている	101	9.2%
⑧ 現在、推進員を配置している組織		
市町村 役所	333	30.0%
市町村 直営地域包括支援センター	540	48.6%
委託型地域包括支援センター	441	39.7%
社会福祉協議会(本体)	85	7.7%
認知症疾患医療センター	13	1.2%
上記以外の医療機関	22	2.0%
介護事業所	65	5.9%
出向	10	0.9%
その他	51	4.6%
⑨ 推進員の配置形態		
専任配置のみ	127	11.7%
兼任配置のみ	855	78.8%
専任と兼任を配置	98	9.0%
その他の配置をしている	5	0.5%
⑩ 推進員の勤務形態		
常勤のみ	855	78.5%
常勤と非常勤が混ざっている	156	14.3%
非常勤のみ	64	5.9%
把握していない	14	1.3%

⑪ 市町村の推進員が、推進員以外で兼務している連携関連の役割		
初期集中支援チーム員	745	67.1%
生活支援コーディネーター	163	14.7%
チームオレンジコーディネーター	308	27.7%
相談支援包括化推進員	19	1.7%
高齢者の就労的活動のコーディネーター	6	0.5%
在宅医療・介護連携推進に関するコーディネーター	77	6.9%
若年性認知症支援コーディネーター	18	1.6%
キャラバンメイト	757	68.1%
認知症介護指導者	29	2.6%
その他（地域包括支援センター業務や施策担当の役割以外）	290	26.1%

Ⅱ. 市町村内の推進員が実際に取組んでいること（機能）

	件数	比率
【 Ⅱ-1 推進員の取組み方の基本姿勢や焦点について 】		
① 認知症の人（以下、本人とする）への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう		
日常的にやっている	893	81.5%
時々やっている	140	12.8%
（あまり）やれていない	35	3.2%
把握していない	28	2.6%
② 本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をする		
日常的にやっている	411	37.5%
時々やっている	361	32.9%
（あまり）やれていない	271	24.7%
把握していない	53	4.8%
③ 活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている（本人抜きに進めない）		
日常的にやっている	498	45.4%
時々やっている	306	27.9%
（あまり）やれていない	243	22.2%
把握していない	49	4.5%
④ 日常の中で本人が声（思い、希望等）を表せるための支援（本人発信支援）に注力する		
日常的にやっている	300	27.4%
時々やっている	295	26.9%
（あまり）やれていない	429	39.1%
把握していない	72	6.6%
⑤ 本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること（社会参加支援）に注力する		
日常的にやっている	213	19.5%
時々やっている	250	22.8%
（あまり）やれていない	528	48.2%
把握していない	104	9.5%

⑥ 認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること(認知症バリアフリー)に注力する		
日常的にやっている	166	15.2%
時々やっている	302	27.6%
(あまり)やれていない	508	46.4%
把握していない	119	10.9%
⑦ 活動を推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちと繋がりながら進める		
日常的にやっている	317	29.0%
時々やっている	427	39.0%
(あまり)やれていない	309	28.2%
把握していない	41	3.7%
⑧ 事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯(物語)		
日常的にやっている	230	21.0%
時々やっている	282	25.8%
(あまり)やれていない	439	40.1%
把握していない	143	13.1%

	件数	比率
【 II-2 医療・介護等の支援ネットワークの構築 】		
① 医療職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	432	39.5%
時々やっている	394	36.0%
(あまり)やれていない	230	21.0%
把握していない	38	3.5%
② 初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	533	48.7%
時々やっている	349	31.9%
(あまり)やれていない	177	16.2%
把握していない	36	3.3%
③ 介護職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	468	42.7%
時々やっている	402	36.7%
(あまり)やれていない	178	16.3%
把握していない	47	4.3%
④ 権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	372	34.0%
時々やっている	409	37.4%
(あまり)やれていない	244	22.3%
把握していない	70	6.4%
⑤ 本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	68	6.2%
時々やっている	153	14.0%
(あまり)やれていない	631	57.6%
把握していない	243	22.2%

⑥ 地域で暮らす人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	255	23.3%
時々やっている	419	38.3%
(あまり)やれていない	346	31.6%
把握していない	75	6.8%

⑦ 地域で働く多様な領域の人たちや企業と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	96	8.8%
時々やっている	229	20.9%
(あまり)やれていない	593	54.2%
把握していない	177	16.2%

⑧ 専門職と地域で暮らす人たちが、本人を中心につながり支えあう機会をつくる		
日常的にやっている	202	18.4%
時々やっている	319	29.1%
(あまり)やれていない	482	44.0%
把握していない	92	8.4%

⑨ 認知症ケアパスを、本人視点にたつて見直し、改良する		
日常的にやっている	240	21.9%
時々やっている	356	32.5%
(あまり)やれていない	439	40.1%
把握していない	60	5.5%

⑩ 認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用する		
日常的にやっている	457	41.7%
時々やっている	345	31.5%
(あまり)やれていない	251	22.9%
把握していない	42	3.8%

⑪ 見守りネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	208	19.0%
時々やっている	335	30.6%
(あまり)やれていない	463	42.3%
把握していない	89	8.1%

⑫ 行方不明など本人の SOS 時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	200	18.3%
時々やっている	305	27.9%
(あまり)やれていない	486	44.4%
把握していない	104	9.5%

⑬ 自然災害時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	65	5.9%
時々やっている	177	16.2%
(あまり)やれていない	648	59.2%
把握していない	205	18.7%

⑭ IT や通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取組みをする		
日常的にやっている	66	6.0%
時々やっている	116	10.6%
(あまり)やれていない	667	61.0%
把握していない	245	22.4%
⑮ その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取組んでいることがある		
日常的にやっている	80	7.7%
時々やっている	105	10.0%
(あまり)やれていない	431	41.2%
把握していない	429	41.1%

全国	
件数	比率

【Ⅱ-3 関係機関と連携した事業の企画・調整について】		
① 講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する		
日常的にやっている	459	41.9%
時々やっている	336	30.7%
(あまり)やれていない	244	22.3%
把握していない	57	5.2%
② 配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画調整する (チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等)		
日常的にやっている	448	40.9%
時々やっている	357	32.6%
(あまり)やれていない	241	22.0%
把握していない	50	4.6%
③ 病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する		
日常的にやっている	219	20.0%
時々やっている	310	28.3%
(あまり)やれていない	396	36.2%
把握していない	170	15.5%
④ 地域ケア会議が、本人視点での検討が展開するように企画・調整する		
日常的にやっている	300	27.4%
時々やっている	357	32.6%
(あまり)やれていない	335	30.6%
把握していない	103	9.4%
⑤ 認知症多職種協働研修が、本人視点で協働について学びあえるように企画・調整する		
日常的にやっている	81	7.4%
時々やっている	115	10.5%
(あまり)やれていない	580	53.1%
把握していない	317	29.0%

⑤-1 多職種協働研修に取り組んでいる場合、実施方法		
ライフサポート研修を実施	4	3.0%
ライフサポート研修を発展させて実施	4	3.0%
独自に実施	125	94.0%
⑥ 住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取り組む企画・調整をする		
日常的にやっている	292	27.2%
時々やっている	429	40.0%
(あまり)やれていない	292	27.2%
把握していない	60	5.6%
⑦ 本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする		
日常的にやっている	119	11.1%
時々やっている	166	15.5%
(あまり)やれていない	650	60.6%
把握していない	137	12.8%

⑧ 診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする		
日常的にやっている	39	3.6%
時々やっている	99	9.2%
(あまり)やれていない	737	68.8%
把握していない	196	18.3%
⑨ 家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする		
日常的にやっている	86	8.0%
時々やっている	154	14.4%
(あまり)やれていない	648	60.5%
把握していない	183	17.1%
⑩ 本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする		
日常的にやっている	65	6.1%
時々やっている	120	11.3%
(あまり)やれていない	639	59.9%
把握していない	242	22.7%
⑩-1 取り組みをしている場合		
以前から、すでに地域独自の一体型支援の企画・調整をしてきている	45	31.7%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている	68	47.9%
一体型支援事業で示されたスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	15	10.6%
その他	14	9.9%
⑪ 認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整		
日常的にやっている	394	36.5%
時々やっている	392	36.3%
(あまり)やれていない	245	22.7%
把握していない	48	4.4%

⑫ 地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整		
日常的にやっている	67	6.2%
時々やっている	196	18.2%
(あまり)やれていない	669	62.2%
把握していない	144	13.4%
⑬ 地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整		
日常的にやっている	47	4.4%
時々やっている	143	13.3%
(あまり)やれていない	695	64.7%
把握していない	190	17.7%
⑭ 地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整		
日常的にやっている	13	1.2%
時々やっている	52	4.8%
(あまり)やれていない	725	67.4%
把握していない	285	26.5%
⑮ 本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整		
日常的にやっている	60	5.6%
時々やっている	184	17.1%
(あまり)やれていない	656	61.0%
把握していない	175	16.3%
⑯ 本人の声を聞きながら自地域に潜むバリアを解消していくための認知症バリアフリーの企画・調整		
日常的にやっている	30	2.8%
時々やっている	115	10.7%
(あまり)やれていない	738	68.7%
把握していない	192	17.9%
⑰ 「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整		
日常的にやっている	15	1.4%
時々やっている	65	6.1%
(あまり)やれていない	722	67.2%
把握していない	272	25.3%
⑱ 本人が理解者となつがり、本人が参画したチームで支えあうチームオレンジ等の企画・調整		
日常的にやっている	119	11.1%
時々やっている	192	17.9%
(あまり)やれていない	597	55.7%
把握していない	164	15.3%
⑱-1 取組みをしている場合		
以前から、すでに地域独自のチームによる支援体制づくりの企画・調整をしている	52	18.8%
地域で育ててきているつながりやしくみを活かして、チームオレンジの企画・調整をしている	171	62.0%
チームオレンジのスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	42	15.2%
その他	11	4.0%

	全国	
	件数	比率
【Ⅱ-4 個別の相談・支援体制構築】		
① 家族や周囲の声や情報だけでなく、本人が声(思いや望み等)を表せるように、配慮や工夫をする		
日常的にやっている	531	48.5%
時々やっている	343	31.4%
(あまり)やれていない	170	15.5%
把握していない	50	4.6%
② 医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる		
日常的にやっている	464	42.4%
時々やっている	369	33.7%
(あまり)やれていない	214	19.6%
把握していない	47	4.3%
③ 医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくる		
日常的にやっている	449	41.0%
時々やっている	397	36.3%
(あまり)やれていない	197	18.0%
把握していない	52	4.7%
④ 個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝える		
日常的にやっている	271	24.7%
時々やっている	397	36.3%
(あまり)やれていない	343	31.3%
把握していない	84	7.7%
⑤ 関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援(体制)の見直し・拡充を図る		
日常的にやっている	162	14.8%
時々やっている	381	34.8%
(あまり)やれていない	473	43.2%
把握していない	79	7.2%
⑥ 個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たに作り出す		
日常的にやっている	60	5.5%
時々やっている	188	17.2%
(あまり)やれていない	719	65.8%
把握していない	126	11.5%

	全国	
	件数	比率
【 Ⅱ-5 認知症施策の全体的な推進・調整 】		
① 事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図る		
日常的にやっている	191	17.5%
時々やっている	258	23.6%
(あまり)やれていない	550	50.3%
把握していない	95	8.7%
② 年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う		
日常的にやっている	300	27.4%
時々やっている	427	39.0%
(あまり)やれていない	305	27.9%
把握していない	63	5.8%
③ 次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う		
日常的にやっている	295	26.9%
時々やっている	420	38.4%
(あまり)やれていない	325	29.7%
把握していない	55	5.0%
④ まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が(関係者とともに)試行的にやってみる		
日常的にやっている	55	5.0%
時々やっている	166	15.2%
(あまり)やれていない	658	60.4%
把握していない	211	19.4%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について ※推進員の間接的な取組みも含めて

	全国	
	件数	比率
【 Ⅲ-1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」 】		
① 本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	84	7.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	332	30.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	168	15.3%
今年度からみられるようになった	24	2.2%
まだない/把握していない	489	44.6%
② 本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	87	7.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	321	29.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	172	15.7%
今年度からみられるようになった	25	2.3%
まだない/把握していない	492	44.8%

③ 本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	38	3.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	154	14.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	56	5.1%
今年度からみられるようになった	37	3.4%
まだない/把握していない	812	74.0%
④ 本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	30	2.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	119	10.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	33	3.0%
今年度からみられるようになった	35	3.2%
まだない/把握していない	880	80.2%
⑤ 本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	18	1.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	193	17.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	55	5.0%
今年度からみられるようになった	28	2.6%
まだない/把握していない	802	73.2%
⑥ 本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	89	8.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	280	25.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	94	8.6%
今年度からみられるようになった	60	5.5%
まだない/把握していない	574	52.3%
⑦ 本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	10	0.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	83	7.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	31	2.8%
今年度からみられるようになった	21	1.9%
まだない/把握していない	951	86.8%
⑧ 本人が発症後もこれまで勤めていた職場で働きつづけられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	2	0.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている	32	2.9%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	10	0.9%
今年度からみられるようになった	13	1.2%
まだない/把握していない	1040	94.8%
⑨ 本人が望む社会活動に参加し、地域の中で活き活き過ごせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	20	1.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている	139	12.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	48	4.4%
今年度からみられるようになった	34	3.1%
まだない/把握していない	856	78.0%

⑩ 本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	5	0.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	34	3.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	14	1.3%
今年度からみられるようになった	14	1.3%
まだない/把握していない	1030	93.9%
⑪ 本人がGPS 機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	11	1.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	69	6.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	52	4.7%
今年度からみられるようになった	18	1.6%
まだない/把握していない	947	86.3%
⑫ 本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	5	0.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	26	2.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	13	1.2%
今年度からみられるようになった	17	1.5%
まだない/把握していない	1036	94.4%
⑬ 本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	16	1.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	177	16.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	67	6.1%
今年度からみられるようになった	29	2.6%
まだない/把握していない	808	73.7%
⑭ 本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	77	7.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	293	26.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	137	12.5%
今年度からみられるようになった	44	4.0%
まだない/把握していない	546	49.8%
⑮ 認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	19	1.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	150	13.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	62	5.7%
今年度からみられるようになった	23	2.1%
まだない/把握していない	843	76.8%
⑯ 本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	24	2.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている	71	6.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	24	2.2%
今年度からみられるようになった	34	3.1%
まだない/把握していない	944	86.1%

⑪ 若年性認知症の人が、上記①～⑩のいずれかの姿がみられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	18	1.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	89	8.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	18	1.6%
今年度からみられるようになった	43	3.9%
まだない/把握していない	929	84.7%
⑫ その他、本人に関する変化や成果がみられている		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	17	1.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	55	5.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	16	1.5%
今年度からみられるようになった	30	2.8%
まだない/把握していない	938	88.8%

	全国	
	件数	比率
【Ⅲ-2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」】		
① 住民が本人の声を聴こうとするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	53	4.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	226	20.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	101	9.3%
今年度からみられるようになった	59	5.4%
まだない/把握していない	652	59.8%
② 住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	135	12.3%
増えてはいないが、中身が充実してきている	244	22.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	188	17.2%
今年度からみられるようになった	65	5.9%
まだない/把握していない	462	42.2%
③ 住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	53	4.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている	255	23.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	131	12.0%
今年度からみられるようになった	53	4.8%
まだない/把握していない	602	55.0%
④ 住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	89	8.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	277	25.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	110	10.1%
今年度からみられるようになった	61	5.6%
まだない/把握していない	557	50.9%

⑤ 地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	58	5.3%
増えてはいるが、中身が充実してきている	139	12.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	72	6.6%
今年度からみられるようになった	42	3.8%
まだない/把握していない	783	71.6%
⑥ 住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	27	2.5%
増えてはいるが、中身が充実してきている	85	7.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	36	3.3%
今年度からみられるようになった	24	2.2%
まだない/把握していない	922	84.3%
⑦ 医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	79	7.2%
増えてはいるが、中身が充実してきている	259	23.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	116	10.6%
今年度からみられるようになった	27	2.5%
まだない/把握していない	613	56.0%
⑧ 介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	104	9.5%
増えてはいるが、中身が充実してきている	283	25.9%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	117	10.7%
今年度からみられるようになった	28	2.6%
まだない/把握していない	562	51.4%
⑨ 医療・介護等の専門職の人たちが、本人視点にたって支援や連携をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	82	7.5%
増えてはいるが、中身が充実してきている	312	28.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	114	10.4%
今年度からみられるようになった	29	2.7%
まだない/把握していない	555	50.8%
⑩ 地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	125	11.4%
増えてはいるが、中身が充実してきている	399	36.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	99	9.0%
今年度からみられるようになった	39	3.6%
まだない/把握していない	432	39.5%
⑪ 医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	71	6.5%
増えてはいるが、中身が充実してきている	199	18.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	62	5.7%
今年度からみられるようになった	44	4.0%
まだない/把握していない	716	65.6%

⑫ 地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	43	3.9%
増えてはいるが、中身が充実してきている	156	14.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	44	4.0%
今年度からみられるようになった	39	3.6%
まだない/把握していない	812	74.2%
⑬ 地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	19	1.7%
増えてはいるが、中身が充実してきている	32	2.9%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	13	1.2%
今年度からみられるようになった	12	1.1%
まだない/把握していない	1018	93.1%
⑭ 地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	8	0.7%
増えてはいるが、中身が充実してきている	70	6.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	27	2.5%
今年度からみられるようになった	12	1.1%
まだない/把握していない	977	89.3%
⑮ 住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取り組みをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	28	2.6%
増えてはいるが、中身が充実してきている	109	10.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	31	2.8%
今年度からみられるようになった	47	4.3%
まだない/把握していない	879	80.3%
⑯ 医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取り組みをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	25	2.3%
増えてはいるが、中身が充実してきている	89	8.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	25	2.3%
今年度からみられるようになった	31	2.8%
まだない/把握していない	924	84.5%
⑰ 本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	38	3.5%
増えてはいるが、中身が充実してきている	265	24.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	77	7.0%
今年度からみられるようになった	34	3.1%
まだない/把握していない	680	62.2%

⑩ その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果がある		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	29	2.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	86	8.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	30	2.8%
今年度からみられるようになった	35	3.3%
まだない/把握していない	876	83.0%
	件数	比率

【Ⅲ-3 情報の流れや協働に関する変化・成果】

① 施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	173	15.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	373	34.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	197	18.1%
今年度からみられるようになった	37	3.4%
まだない/把握していない	310	28.4%

② 市町村内の推進員/推進役の人から施策担当者に情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	174	15.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	380	34.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	188	17.2%
今年度からみられるようになった	38	3.5%
まだない/把握していない	313	28.6%

③ 施策担当者に、地域包括支援センター(の職員)の情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	182	16.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	416	38.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	229	21.0%
今年度からみられるようになった	28	2.6%
まだない/把握していない	236	21.6%

④ 施策担当者に、医療関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	100	9.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	303	27.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	180	16.5%
今年度からみられるようになった	22	2.0%
まだない/把握していない	489	44.7%

⑤ 施策担当者に、介護関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	98	9.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	335	30.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	193	17.7%
今年度からみられるようになった	26	2.4%
まだない/把握していない	441	40.3%

⑥ 施策担当者に、権利擁護の関係者の情報が入るようになり、協働しやすくなった

昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	88	8.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	279	25.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	166	15.2%
今年度からみられるようになった	31	2.8%
まだない/把握していない	529	48.4%

⑦ 施策担当者に、警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	141	12.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	241	22.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	276	25.3%
今年度からみられるようになった	22	2.0%
まだない/把握していない	413	37.8%
⑧ 施策担当者に、民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	119	10.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	345	31.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	253	23.1%
今年度からみられるようになった	24	2.2%
まだない/把握していない	352	32.2%
⑨ 施策担当者に、生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	118	10.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている	292	26.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	149	13.6%
今年度からみられるようになった	48	4.4%
まだない/把握していない	486	44.5%
⑩ 地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	61	5.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	177	16.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	123	11.2%
今年度からみられるようになった	26	2.4%
まだない/把握していない	707	64.6%
⑪ 本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	39	3.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	135	12.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	68	6.2%
今年度からみられるようになった	24	2.2%
まだない/把握していない	829	75.7%
⑫ 家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	89	8.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	265	24.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	206	18.8%
今年度からみられるようになった	41	3.7%
まだない/把握していない	494	45.1%
⑬ 必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	130	11.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	299	27.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	141	12.9%
今年度からみられるようになった	46	4.2%
まだない/把握していない	477	43.6%

	全国	
	件数	比率
【 Ⅲ-4 あなたの市町村での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況 】		
① 地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしつづけるようになってきている		
年々、拡充してきている	29	2.7%
少しずつ進みつつある	460	42.1%
今年度から動きだしてきている	66	6.0%
今年度はまだだが、来年度から動き出す(予定含む)	156	14.3%
まだ動きも予定もない	381	34.9%
② 認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきている		
年々、拡充してきている	34	3.1%
少しずつ進みつつある	541	49.5%
今年度から動きだしてきている	72	6.6%
今年度はまだだが、来年度から動き出す(予定含む)	136	12.5%
まだ動きも予定もない	309	28.3%

IV. 推進員が機能を強め、活躍するための課題や必要なこと

	全国	
	件数	比率
【 IV-1 認知症施策担当者と推進員との関係性について 】		
① 施策担当者と推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある		
すでにあり、引き続き必要	667	60.8%
あるが、より強化が必要	255	23.2%
現在はなく、強化が必要	163	14.9%
必要と思わない	12	1.1%
② 施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい		
すでにあり、引き続き必要	684	62.4%
あるが、より強化が必要	315	28.7%
現在はなく、強化が必要	88	8.0%
必要と思わない	10	0.9%
③ 施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししている		
すでにあり、引き続き必要	471	42.9%
あるが、より強化が必要	362	33.0%
現在はなく、強化が必要	243	22.2%
必要と思わない	21	1.9%
④ 施策担当者と推進員と一緒に、地元の認知症の本人の話を聴いたり、本人と過ごす場面がある		
すでにあり、引き続き必要	287	26.2%
あるが、より強化が必要	287	26.2%
現在はなく、強化が必要	489	44.6%
必要と思わない	34	3.1%

⑤ 施策担当者と推進員と一緒に、地域や取組みの現場に出向く機会がある		
すでにあり、引き続き必要	372	33.9%
あるが、より強化が必要	324	29.5%
現在はなく、強化が必要	368	33.5%
必要と思わない	33	3.0%
⑥ 推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えている		
すでにあり、引き続き必要	513	46.8%
あるが、より強化が必要	401	36.6%
現在はなく、強化が必要	170	15.5%
必要と思わない	13	1.2%
⑦ 推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする関係を育てる		
すでにあり、引き続き必要	483	44.1%
あるが、より強化が必要	378	34.5%
現在はなく、強化が必要	221	20.2%
必要と思わない	14	1.3%
⑧ 施策担当者/関係者が悩んだり困っている時に、推進員に相談したり助けを求められる関係を育てる		
すでにあり、引き続き必要	526	48.0%
あるが、より強化が必要	384	35.0%
現在はなく、強化が必要	172	15.7%
必要と思わない	14	1.3%
⑨ 推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする		
すでにあり、引き続き必要	488	44.5%
あるが、より強化が必要	390	35.6%
現在はなく、強化が必要	204	18.6%
必要と思わない	14	1.3%
⑩ 施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めることがある		
すでにあり、引き続き必要	560	51.0%
あるが、より強化が必要	366	33.4%
現在はなく、強化が必要	156	14.2%
必要と思わない	15	1.4%

【 IV-2 認知症施策推進に向けた、認知症施策担当者と推進員との合意形成について 】

	全国	
	件数	比率
＜ 1) 担当者と推進員との、わがまちが目指すこと(ビジョン、方向性)の検討と共有・浸透 ＞		
① 認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する		
すでにあり、引き続き必要	223	20.3%
あるが、より強化が必要	479	43.6%
現在はなく、強化が必要	387	35.2%
必要と思わない	9	0.8%

② 認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わが町が目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する		
すでにあり、引き続き必要	220	20.0%
あるが、より強化が必要	478	43.5%
現在はなく、強化が必要	393	35.8%
必要と思わない	7	0.6%
③ (新規の)事業が目指していることや意味について話しあい、共有する		
すでにあり、引き続き必要	274	25.0%
あるが、より強化が必要	513	46.7%
現在はなく、強化が必要	303	27.6%
必要と思わない	8	0.7%
④ 市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろるように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかる		
すでにあり、引き続き必要	166	15.1%
あるが、より強化が必要	428	39.1%
現在はなく、強化が必要	485	44.3%
必要と思わない	17	1.6%

＜ 2) 担当者と推進員との、認知症に関する地域の現状と課題の検討と具体的な共有 ＞		
① 本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有する		
すでにあり、引き続き必要	226	20.7%
すでにあるが、より強化が必要	404	37.1%
(あまり)なく、強化が必要	451	41.4%
必要と思わない	9	0.8%
② 認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有する		
すでにあり、引き続き必要	231	21.2%
すでにあるが、より強化が必要	439	40.3%
(あまり)なく、強化が必要	411	37.7%
必要と思わない	9	0.8%

＜ 3) 担当者と推進員との、推進員の位置づけと機能・役割に関する検討と共有 ＞		
① わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有している		
すでにあり、引き続き必要	186	17.0%
あるが、より強化が必要	422	38.6%
現在はなく、強化が必要	468	42.8%
必要と思わない	18	1.6%
② わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有している		
すでにあり、引き続き必要	183	16.7%
あるが、より強化が必要	468	42.7%
現在はなく、強化が必要	427	39.0%
必要と思わない	17	1.6%

③ 推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有している		
すでにあり、引き続き必要	177	16.2%
あるが、より強化が必要	459	41.9%
現在はなく、強化が必要	442	40.4%
必要と思わない	17	1.6%
④ 推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整する		
すでにあり、引き続き必要	179	16.4%
あるが、より強化が必要	406	37.1%
現在はなく、強化が必要	478	43.7%
必要と思わない	31	2.8%

		全国	
		件数	比率
〈 4) 担当者と推進員との、活動方針や推進員の機能についての具体的な共有 〉			
① 事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする			
すでにあり、引き続き必要		286	26.2%
あるが、より強化が必要		569	52.2%
現在はなく、強化が必要		225	20.6%
必要と思わない		11	1.0%
② 認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく			
すでにあり、引き続き必要		266	24.3%
あるが、より強化が必要		590	54.0%
現在はなく、強化が必要		227	20.8%
必要と思わない		10	0.9%
③ 地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく（認知症観の変革）			
すでにあり、引き続き必要		209	19.1%
あるが、より強化が必要		548	50.1%
現在はなく、強化が必要		318	29.1%
必要と思わない		18	1.6%
④ 「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく			
すでにあり、引き続き必要		114	10.4%
あるが、より強化が必要		337	30.8%
現在はなく、強化が必要		615	56.2%
必要と思わない		28	2.6%
⑤ 施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく（本人視点、本人参画の重視）			
すでにあり、引き続き必要		128	11.7%
あるが、より強化が必要		391	35.7%
現在はなく、強化が必要		561	51.3%
必要と思わない		14	1.3%

⑥ 施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く(本人の声が起点)		
すでにあり、引き続き必要	106	9.7%
あるが、より強化が必要	336	30.7%
現在はなく、強化が必要	636	58.1%
必要と思わない	16	1.5%
⑦ 国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取組みを創意工夫していく(自治体主体、創意工夫)		
すでにあり、引き続き必要	122	11.2%
あるが、より強化が必要	435	39.8%
現在はなく、強化が必要	521	47.7%
必要と思わない	15	1.4%
⑧ 地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む(創出力の重視)		
すでにあり、引き続き必要	120	11.0%
あるが、より強化が必要	402	36.8%
現在はなく、強化が必要	557	51.0%
必要と思わない	13	1.2%
⑨ 事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯(物語)		
すでにあり、引き続き必要	132	12.1%
あるが、より強化が必要	346	31.7%
現在はなく、強化が必要	597	54.6%
必要と思わない	18	1.6%
⑩ 事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく(楽しさ、気軽さ)		
すでにあり、引き続き必要	170	15.6%
あるが、より強化が必要	468	42.9%
現在はなく、強化が必要	442	40.5%
必要と思わない	12	1.1%
⑪ 推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく(自発的な活動重視)		
すでにあり、引き続き必要	205	18.7%
あるが、より強化が必要	436	39.9%
現在はなく、強化が必要	435	39.8%
必要と思わない	18	1.6%
⑫ 当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく(実情に応じた柔軟な改良)		
すでにあり、引き続き必要	202	18.5%
あるが、より強化が必要	489	44.7%
現在はなく、強化が必要	389	35.6%
必要と思わない	14	1.3%
⑬ 事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む(持続発展性)		
すでにあり、引き続き必要	195	17.8%
あるが、より強化が必要	545	49.9%
現在はなく、強化が必要	343	31.4%
必要と思わない	10	0.9%

⑭ 事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく(事業の連動・統合)		
すでにあり、引き続き必要	151	13.8%
あるが、より強化が必要	438	40.1%
現在はなく、強化が必要	492	45.0%
必要と思わない	12	1.1%
⑮ 増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち(住民、専門職等)が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく(地域の主体的取組みの推進)		
すでにあり、引き続き必要	101	9.2%
あるが、より強化が必要	382	34.9%
現在はなく、強化が必要	598	54.7%
必要と思わない	12	1.1%
⑯ 推進員が、本人・地域と行政とをつなぐパイプ役を果たす(届きにくい声や力等を行政につなぐ機能)		
すでにあり、引き続き必要	206	18.8%
あるが、より強化が必要	486	44.5%
現在はなく、強化が必要	389	35.6%
必要と思わない	12	1.1%
⑰ 推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政の計画づくりや予算に反映していく(施策提案・立案)		
すでにあり、引き続き必要	194	17.7%
あるが、より強化が必要	484	44.3%
現在はなく、強化が必要	404	37.0%
必要と思わない	11	1.0%

全国

件数 比率

【 IV-3 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み 】

① 推進員が配置されている職場の上司等に、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけ		
すでにあり、引き続き必要	383	35.0%
あるが、より強化が必要	405	37.1%
現在はなく、強化が必要	263	24.1%
必要と思わない	42	3.8%
② 推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知		
すでにあり、引き続き必要	167	15.3%
あるが、より強化が必要	472	43.1%
現在はなく、強化が必要	425	38.8%
必要と思わない	30	2.7%
③ 推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織(医師会、自治会、警察、企業等)へ広く発信・周知		
すでにあり、引き続き必要	136	12.4%
あるが、より強化が必要	422	38.5%
現在はなく、強化が必要	509	46.5%
必要と思わない	28	2.6%

④ 行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ		
すでにあり、引き続き必要	157	14.3%
あるが、より強化が必要	369	33.7%
現在はなく、強化が必要	532	48.6%
必要と思わない	37	3.4%
⑤ 推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知		
すでにあり、引き続き必要	101	9.2%
あるが、より強化が必要	278	25.4%
現在はなく、強化が必要	677	61.8%
必要と思わない	39	3.6%
⑥ 推進員が活動を進める上で、実際に関係機関(医師会、自治会、学校、商工、警察等)と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつながりや調整を図る		
すでにあり、引き続き必要	211	19.3%
あるが、より強化が必要	419	38.3%
現在はなく、強化が必要	443	40.5%
必要と思わない	22	2.0%
⑦ 推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	263	24.0%
あるが、より強化が必要	412	37.6%
現在はなく、強化が必要	386	35.3%
必要と思わない	34	3.1%
⑧ 推進員が活動を進める上で必要な個人情報の入手や共有を、行政が支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	346	31.6%
あるが、より強化が必要	363	33.2%
現在はなく、強化が必要	329	30.1%
必要と思わない	56	5.1%

		全国	
		件数	比率
【 IV-4 推進員同士等がつながり、学びあい、支えあう機会等 】			
① 同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる ※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会について			
すでにあり、引き続き必要	417	38.1%	
あるが、より強化が必要	275	25.1%	
現在はなく、強化が必要	365	33.4%	
必要と思わない	37	3.4%	
② 近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる			
すでにあり、引き続き必要	128	11.7%	
あるが、より強化が必要	163	14.9%	
現在はなく、強化が必要	766	69.8%	
必要と思わない	40	3.6%	

③ 困った時や相談したい時に、タイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつなぎやしきみをつくる		
すでにあり、引き続き必要	225	20.5%
あるが、より強化が必要	249	22.7%
現在はなく、強化が必要	577	52.6%
必要と思わない	46	4.2%
④ 推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫		
すでにあり、引き続き必要	176	17.4%
あるが、より強化が必要	207	20.4%
現在はなく、強化が必要	536	52.9%
必要と思わない	94	9.3%
⑤ 推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備や ICT の活用に関する市町村の支援		
すでにあり、引き続き必要	163	15.0%
あるが、より強化が必要	131	12.0%
現在はなく、強化が必要	573	52.6%
必要と思わない	222	20.4%
⑥ 市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有		
すでにあり、引き続き必要	151	13.8%
あるが、より強化が必要	263	24.1%
現在はなく、強化が必要	633	58.0%
必要と思わない	45	4.1%
⑦ 都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	430	39.3%
あるが、より強化が必要	273	25.0%
現在はなく、強化が必要	338	30.9%
必要と思わない	52	4.8%
⑧ 推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる		
すでにあり、引き続き必要	352	32.2%
あるが、より強化が必要	320	29.3%
現在はなく、強化が必要	391	35.8%
必要と思わない	30	2.7%
⑨ 認知症施策の担当者と推進員が、施策や全国の新しい動きを一緒に学べる都道府県や全国での機会をつくる		
すでにあり、引き続き必要	304	27.7%
あるが、より強化が必要	298	27.2%
現在はなく、強化が必要	455	41.5%
必要と思わない	39	3.6%

		全国	
		件数	比率
【 IV-5 推進員活動の「PDCA(計画・実践・見直し・改善)」や質向上の促進について 】			
① 推進員活動の「PDCA(計画・実践・見直し・改善)」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる			
すでにあり、引き続き必要		103	9.4%
あるが、より強化が必要		337	30.7%
現在はなく、強化が必要		630	57.5%
必要と思わない		26	2.4%
② 推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有			
すでにあり、引き続き必要		27	2.5%
あるが、より強化が必要		59	5.4%
現在はなく、強化が必要		809	73.7%
必要と思わない		203	18.5%
③ 推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信			
すでにあり、引き続き必要		41	3.7%
あるが、より強化が必要		94	8.6%
現在はなく、強化が必要		841	76.6%
必要と思わない		122	11.1%
④ 推進員活動の報告会の開催			
すでにあり、引き続き必要		70	6.4%
あるが、より強化が必要		90	8.3%
現在はなく、強化が必要		733	67.2%
必要と思わない		197	18.1%
④-1 報告会を行っている場合、実施方法			
	地域で公開して実施	7	5.4%
	活動の関係者が参加して実施	50	38.5%
	推進員のみで実施	65	50.0%
	その他	8	6.2%
⑤ 自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施			
すでにあり、引き続き必要		83	7.9%
あるが、より強化が必要		154	14.7%
現在はなく、強化が必要		746	71.3%
必要と思わない		64	6.1%

		全国	
		件数	比率
【 IV-6 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等 】			
① 推進員が(短期間で)異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ			
すでにあり、引き続き必要		169	15.4%
あるが、より強化が必要		192	17.6%
現在はなく、強化が必要		608	55.6%
必要と思わない		125	11.4%

② 推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつづけていけるための調整や位置づけ		
すでにあり、引き続き必要	45	4.1%
あるが、より強化が必要	80	7.3%
現在はなく、強化が必要	710	64.9%
必要と思わない	259	23.7%
③ 推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ		
すでにあり、引き続き必要	39	3.6%
あるが、より強化が必要	54	4.9%
現在はなく、強化が必要	783	71.6%
必要と思わない	218	19.9%
④ 推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援		
すでにあり、引き続き必要	146	13.3%
あるが、より強化が必要	236	21.6%
現在はなく、強化が必要	642	58.7%
必要と思わない	70	6.4%

全国

件数

比率

【 IV-7 認知症施策を推進していくための、市町村としての推進員の適正な配置と工夫等 】

① 市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人材が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする

すでにあり、引き続き必要	147	13.4%
あるが、より強化が必要	240	21.9%
現在はなく、強化が必要	640	58.4%
必要と思わない	69	6.3%

② 市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする

すでにあり、引き続き必要	184	16.8%
あるが、より強化が必要	242	22.1%
現在はなく、強化が必要	584	53.2%
必要と思わない	87	7.9%

③ 市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする

すでにあり、引き続き必要	152	13.9%
あるが、より強化が必要	195	17.8%
現在はなく、強化が必要	615	56.1%
必要と思わない	135	12.3%

④ 推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする

すでにあり、引き続き必要	161	14.7%
あるが、より強化が必要	168	15.3%
現在はなく、強化が必要	553	50.4%
必要と思わない	215	19.6%

⑤ 推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に進めていくフォーメーションをつくる		
すでにあり、引き続き必要	80	7.3%
あるが、より強化が必要	115	10.5%
現在はなく、強化が必要	770	70.3%
必要と思わない	131	12.0%

V. 推進員の機能強化に関する市町村担当者の意向等

	全国	
	件数	比率
【 V-1 推進員の強化機能に関する市町村担当の意向 】		
推進員機能を強化していくことについて、認知症施策ご担当者としての考え		
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」と考えており、推進員の機能強化を進めていきたい	832	77.1%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」という認識をこれまであまり持っていなかったが、今後は推進員を重視し、機能強化を進めていきたい	69	6.4%
「認知症施策の推進のために推進員は重要な存在」とはあまり考えておらず、施策担当者として、推進員の機能強化を進めていこうとは、(あまり)思わない	19	1.8%
推進員について考える余裕や環境がない	131	12.1%
その他、上記以外の推進員の存在や機能強化に関する考えがある	28	2.6%

	全国	
	件数	比率
【 V-2 市町村内全体の推進員活動の促進役になる人財について 】		
推進員同士のネットワークや推進員機能の向上のための牽引役/促進役になる人がおられますか。		
そうした人財が複数名おり、すでにそうした人たちを組織化し、市町村全体の推進員機能の向上のために、施策担当者と一緒に取組んでいる	119	11.0%
そうした人財が複数名おり、組織化まではしていないが、市町村全体の推進員機能の向上のために、施策担当者と一緒に取組んでいる	259	23.9%
そうした人財はいるが、市町村全体の推進員機能の向上のための施策担当者との連携・協働はまだなく、今後一緒に取組みたい	186	17.1%
そうした人財はいるが、推進員機能の向上のための連携・協働までは考えていない	65	6.0%
そうした人財がいるかどうか把握していないが、今後把握し、連携・協働をしていきたい	173	15.9%
そうした人財がいるかどうか把握しておらず、今後も連携・協働までは考えていない	49	4.5%
市町村の推進員は一人あるいは数人であり、市町村内というよりは、他市町村の推進員とのネットワークや推進員機能の向上のための促進役として活動することを市町村として応援している	163	15.0%
その他	71	6.5%

令和4年度 厚生労働省老健事業
 認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究
 認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査
 【 推進員用 】 * 認知症地域支援推進員を 推進員 と表記します

○ 調査概要

	全国
調査対象数	8078
回答数	3707
回収率	45.8%

I. 推進員の基本情報について

	全国	
	件数	比率
【 1. 配置されている市町村(東京 23 区を含む)について 】		
④ 人口		
1 万人未満	387	10.6%
1 万人以上 5 万人未満	922	25.3%
5 万人以上 20 万人未満	1188	32.6%
20 万人以上	1147	31.5%
⑤ 高齢化率		
25%未満	635	17.5%
25%以上 30%未満	1024	28.2%
30%以上 35%未満	904	24.9%
35%以上 40%未満	570	15.7%
40%以上	499	13.7%
⑥ 推進員を最初に配置した年度（西暦）		
2013 年度以前	611	17.6%
2014 年度	398	11.5%
2015 年度	867	25.0%
2016 年度	697	20.1%
2017 年度	435	12.5%
2018 年度以降	462	13.3%
⑦ 現在の推進員の配置総数		
1 人	319	8.9%
2 人	301	8.4%
3 人以上 5 人未満	580	16.1%
5 人以上 10 人未満	903	25.1%
10 人以上	1493	41.5%

		全国	
		件数	比率
【 2. あなたご自身について 】			
① 年齢			
20代		220	6.0%
30代		710	19.4%
40代		1298	35.5%
50代		1029	28.1%
60代以上		402	11.0%
② 所持している資格等 ※推進員活動に主に関連するものを3つまで選択可			
医師		1	0.0%
歯科医師		0	0.0%
薬剤師		5	0.1%
歯科衛生士		28	0.8%
栄養士		26	0.7%
保健師		1000	27.0%
助産師		15	0.4%
看護師		1266	34.2%
准看護師		50	1.3%
理学療法士		18	0.5%
作業療法士		29	0.8%
言語聴覚士		2	0.1%
視能訓練士		0	0.0%
義肢装具士		0	0.0%
あん摩マッサージ指圧師		2	0.1%
はり師		3	0.1%
きゅう師		5	0.1%
柔道整復師		3	0.1%
社会福祉士		1366	36.8%
精神保健福祉士		310	8.4%
介護福祉士		930	25.1%
介護支援専門員		1803	48.6%
認知症介護指導者		35	0.9%
その他		147	4.0%
③ ご自身が推進員として配置された年度（西暦）			
2015年度以前		287	8.7%
2016～2017年度		563	17.0%
2018～2019年度		729	22.2%
2020～2021年度		938	28.9%
2022年度以降		762	23.1%

④ 配置されているご自身の組織		
市町村 役所	393	10.9%
市町村 直営地域包括支援センター	924	25.6%
委託型地域包括支援センター	1907	52.8%
社会福祉協議会(本体)	110	3.0%
認知症疾患医療センター	36	1.0%
上記以外の医療機関	89	2.5%
介護事業所	83	2.3%
出向	20	0.6%
その他	50	1.4%
⑤ 市町村の認知症施策担当と推進員を兼任		
している	802	61.8%
していない	496	38.2%
⑥ 所属する組織の中で何代目か		
自分が初めての推進員	562	28.4%
2代目	496	25.1%
3代目以上	637	32.2%
不明	285	14.4%
⑦ 雇用形態		
正規	3028	84.2%
契約 / 嘱託	462	12.9%
その他	105	2.9%
⑧ 勤務形態		
常勤	3276	91.7%
非常勤	297	8.3%
⑧-1 非常勤の場合、一週間の勤務時間数		
32時間以下	333	12.0%
33時間以上 40時間未満	689	24.9%
40時間以上	1745	63.1%
⑨ 推進員としての配置形態		
推進員として専任配置	439	12.1%
他の業務と兼任配置	3183	87.9%
⑩ あなたが推進員以外で兼務している連携担当に関する役割		
初期集中支援チーム員	1733	46.7%
生活支援コーディネーター	373	10.1%
チームオレンジコーディネーター	473	12.8%
相談支援包括化推進員	95	2.6%
高齢者の就労的活動のコーディネーター	8	0.2%
在宅医療・介護連携推進に関するコーディネーター	122	3.3%
若年性認知症支援コーディネーター	23	0.6%
キャラバンメイト	2056	55.5%
認知症介護指導者	41	1.1%
その他(地域包括支援センター業務や施策担当の役割以外)	1167	31.5%

① あなたの全仕事の中で推進員に関する活動が占める時間の割合(エフォート)		
10%未満	682	19.1%
10%以上 20%未満	1045	29.2%
20%以上 30%未満	564	15.8%
30%以上 40%未満	433	12.1%
40%以上 100%以下	853	23.8%

Ⅱ. 推進員が実際に取組んでいること（機能）

	全国	
	件数	比率
【Ⅱ-1 取組み方の基本姿勢や焦点について】		
① 認知症の人(以下、本人とする)への先入観をもたずに、同じ地域で暮らす人として自然体で向きあう		
日常的にやっている	2612	71.0%
時々やっている	740	20.1%
やりたいが(あまり)やれていない	274	7.4%
やっていない	53	1.4%
② 本人が暮らす場や過ごす場に足を運び、本人と継続的につきあう体験をする		
日常的にやっている	1018	27.7%
時々やっている	1212	33.0%
やりたいが(あまり)やれていない	1207	32.8%
やっていない	240	6.5%
③ 活動は、本人視点で、本人とともに進めていくことを大切にしている(本人抜きに進めない)		
日常的にやっている	1521	41.3%
時々やっている	1032	28.1%
やりたいが(あまり)やれていない	1004	27.3%
やっていない	122	3.3%
④ 日常の中で本人が声(思い、希望等)を表せるための支援(本人発信支援)に注力する		
日常的にやっている	1041	28.3%
時々やっている	967	26.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1468	39.9%
やっていない	201	5.5%
⑤ 本人が望む社会参加を、本人が自らの力を活かしてかなえること(社会参加支援)に注力する		
日常的にやっている	512	13.9%
時々やっている	775	21.1%
やりたいが(あまり)やれていない	2056	55.9%
やっていない	333	9.1%
⑥ 認知症バリアを見つけ、バリアを解消すること(認知症バリアフリー)に注力する		
日常的にやっている	371	10.1%
時々やっている	748	20.3%
やりたいが(あまり)やれていない	2099	57.1%
やっていない	460	12.5%

⑦ 活動を、推進員やそれまでの関係者だけで進めずに、より多様な立場や他領域の人たちとつながりながら進める		
日常的にやっている	678	18.4%
時々やっている	1299	35.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1472	40.0%
やっていない	228	6.2%
⑧ 事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯(物語)		
日常的にやっている	492	13.4%
時々やっている	736	20.1%
やりたいが(あまり)やれていない	1956	53.3%
やっていない	484	13.2%

		全国	
		件数	比率
【Ⅱ-2 医療・介護等の支援ネットワークの構築】			
① 医療職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う			
日常的にやっている		991	27.0%
時々やっている		1404	38.2%
やりたいが(あまり)やれていない		1066	29.0%
やっていない		215	5.8%
② 初期集中支援チームの関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う			
日常的にやっている		1077	29.3%
時々やっている		1199	32.6%
やりたいが(あまり)やれていない		949	25.8%
やっていない		453	12.3%
③ 介護職の人たちと、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う			
日常的にやっている		1094	29.7%
時々やっている		1408	38.3%
やりたいが(あまり)やれていない		943	25.6%
やっていない		235	6.4%
④ 権利擁護の専門職や関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う			
日常的にやっている		874	23.7%
時々やっている		1317	35.8%
やりたいが(あまり)やれていない		1097	29.8%
やっていない		393	10.7%
⑤ 本人が「はたらく」ための関係機関/関係者と、本人視点にたって話しあいながら、連携・協働を行う			
日常的にやっている		150	4.1%
時々やっている		348	9.5%
やりたいが(あまり)やれていない		1665	45.2%
やっていない		1517	41.2%

⑥ 地域で暮らす人たちと、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	510	13.9%
時々やっている	1300	35.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1540	41.8%
やっていない	331	9.0%
⑦ 地域で働く多様な領域の人たち/企業と、本人視点にたつて話しあいながら、連携・協働を行う		
日常的にやっている	175	4.8%
時々やっている	549	14.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1886	51.2%
やっていない	1071	29.1%
⑧ 専門職と地域で暮らす人たちがいっしょになって、本人を中心につながり支えあう機会をつくる		
日常的にやっている	359	9.8%
時々やっている	989	26.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1868	50.7%
やっていない	465	12.6%
⑨ 認知症ケアパスを、本人視点にたつて見直し、改良する		
日常的にやっている	323	8.8%
時々やっている	863	23.5%
やりたいが(あまり)やれていない	1407	38.3%
やっていない	1085	29.5%
⑩ 認知症ケアパスを、日常的に普及し、活用する		
日常的にやっている	890	24.2%
時々やっている	1252	34.0%
やりたいが(あまり)やれていない	1061	28.8%
やっていない	478	13.0%
⑪ 見守りネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	299	8.1%
時々やっている	869	23.6%
やりたいが(あまり)やれていない	1734	47.1%
やっていない	777	21.1%
⑫ 行方不明など本人の SOS 時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	277	7.5%
時々やっている	757	20.6%
やりたいが(あまり)やれていない	1691	46.0%
やっていない	954	25.9%
⑬ 自然災害時のネットワークを、本人視点にたつて見直し、よりよいネットワークにする		
日常的にやっている	81	2.2%
時々やっている	350	9.5%
やりたいが(あまり)やれていない	1853	50.4%
やっていない	1395	37.9%

⑭ IT や通信機器等を活用して、自地域の多様な人たちのネットワークを拡充する取り組みをする		
日常的にやっている	93	2.5%
時々やっている	285	7.7%
やりたいが(あまり)やれていない	1483	40.3%
やっていない	1817	49.4%
⑮ その他、推進員が支援ネットワーク構築のために取り組んでいることがある		
日常的にやっている	193	5.4%
時々やっている	425	11.8%
やりたいが(あまり)やれていない	1145	31.9%
やっていない	1830	50.9%

全国	
件数	比率

【 II-3 関係機関と連携した事業の企画・調整について 】		
① 講座等の啓発が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する		
日常的にやっている	1029	28.0%
時々やっている	1135	30.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1011	27.5%
やっていない	503	13.7%
② 配布物や広報が、偏見を助長せずに共生の理解を広げる内容や表現になるように、本人視点で企画・調整する(チラシ、パンフレット、説明文書、自治体の広報・ホームページ等)		
日常的にやっている	957	26.0%
時々やっている	1126	30.6%
やりたいが(あまり)やれていない	1023	27.8%
やっていない	572	15.6%
③ 病院・施設等における困難事例の検討及び個別支援が、本人視点で展開するように企画・調整する		
日常的にやっている	408	11.1%
時々やっている	869	23.6%
やりたいが(あまり)やれていない	1306	35.5%
やっていない	1092	29.7%
④ 地域ケア会議が、本人視点で検討が展開するように企画・調整する		
日常的にやっている	619	16.8%
時々やっている	1039	28.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1102	30.0%
やっていない	914	24.9%
⑤ 認知症多職種協働研修が、本人視点で協働について学びあえるように企画・調整する		
日常的にやっている	177	4.8%
時々やっている	290	7.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1160	31.7%
やっていない	2033	55.5%

⑤-1 多職種協働研修に取り組んでいる場合、実施方法		
ライフサポート研修を実施	37	11.0%
ライフサポート研修を発展させて実施	19	5.7%
独自に実施	279	83.3%
⑥ 住民が認知症を自分ごととして受けとめ、この先を健やかに暮らしていくための予防に取り組む企画・調整する		
日常的にやっている	597	16.6%
時々やっている	1204	33.5%
やりたいが(あまり)やれていない	1260	35.0%
やっていない	536	14.9%
⑦ 本人ミーティング等、本人同士が出会い話しあえる機会をつくる企画・調整をする		
日常的にやっている	204	5.7%
時々やっている	422	11.7%
やりたいが(あまり)やれていない	1713	47.6%
やっていない	1256	34.9%
⑧ 診断後の本人等が前向きに暮らしていくための、本人によるピアサポートの企画・調整をする		
日常的にやっている	64	1.8%
時々やっている	225	6.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1750	48.7%
やっていない	1551	43.2%
⑨ 家族の声や力を活かして、家族によるピアサポートの企画・調整をする		
日常的にやっている	146	4.1%
時々やっている	385	10.7%
やりたいが(あまり)やれていない	1631	45.4%
やっていない	1434	39.9%
⑩ 本人と家族の一体的支援についての企画・調整をする		
日常的にやっている	116	3.3%
時々やっている	321	9.0%
やりたいが(あまり)やれていない	1564	44.0%
やっていない	1550	43.6%
⑩-1 取組みをしている場合		
以前から、すでに地域独自の一体型支援の企画・調整をしてきている	75	22.1%
地域で育ててきているつながりやしくみを活かして、一体型支援の企画・調整をしている	177	52.2%
一体型支援事業で示されたスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	46	13.6%
その他	41	12.1%
⑪ 認知症カフェ等、地域の中での集いの場に、本人が参加しやすくなるための企画・調整		
日常的にやっている	801	22.1%
時々やっている	1050	29.0%
やりたいが(あまり)やれていない	1201	33.2%
やっていない	567	15.7%
⑫ 地域の子供たちや若い世代が、地域の中で本人と出会い、つながるための企画・調整		
日常的にやっている	131	3.6%
時々やっている	488	13.5%
やりたいが(あまり)やれていない	1798	49.8%
やっていない	1195	33.1%

⑬ 地域の企業等、多様な分野の人たちが、本人と出会い、つながるための企画・調整		
日常的にやっている	101	2.8%
時々やっている	358	9.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1767	49.0%
やっていない	1383	38.3%
⑭ 地域の企業や就労支援関係機関等が、本人が望む「はたらく」ことの支援・連携をするための企画・調整		
日常的にやっている	23	0.6%
時々やっている	111	3.1%
やりたいが(あまり)やれていない	1422	39.5%
やっていない	2047	56.8%
⑮ 本人の社会参加活動の機会や体制整備についての企画・調整		
日常的にやっている	94	2.6%
時々やっている	387	10.7%
やりたいが(あまり)やれていない	1697	47.0%
やっていない	1429	39.6%
⑯ 本人の声を聞きながら自地域に潜むバリアを解消していく認知症バリアフリーの企画・調整		
日常的にやっている	53	1.5%
時々やっている	228	6.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1786	49.6%
やっていない	1536	42.6%
⑰ 「本人の希望をかなえるヘルプカード」を本人が地域で活かすための企画・調整		
日常的にやっている	24	0.7%
時々やっている	105	2.9%
やりたいが(あまり)やれていない	1366	37.9%
やっていない	2108	58.5%
⑱ 本人が理解者とつながり、本人が参画したチームで支えあうチームオレンジ等の企画・調整		
日常的にやっている	192	5.3%
時々やっている	442	12.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1507	42.0%
やっていない	1448	40.3%
⑱-1 取組みをしている場合		
以前から、すでに地域独自のチームによる支援体制づくりの企画・調整をしてきている	87	16.2%
地域で育ってきているつながりやしくみを活かして、チームオレンジの企画・調整をしている	309	57.6%
チームオレンジのスキームをもとに、新たに企画・調整をしている	118	22.0%
その他	22	4.1%

件数 比率

【Ⅱ-4 個別の相談・支援体制構築】

① 家族や周囲の声や情報だけではなく、本人が声(思いや望み等)を表せるように、配慮や工夫をする		
日常的にやっている	1586	43.3%
時々やっている	1139	31.1%
やりたいが(あまり)やれていない	779	21.3%
やっていない	158	4.3%

② 医療や介護サービスにつなげることのみでなく、本人が望む暮らしをかなえるつながりをつくる		
日常的にやっている	1160	31.6%
時々やっている	1285	35.1%
やりたいが(あまり)やれていない	1056	28.8%
やっていない	165	4.5%
③ 医療や介護サービスにつなげることのみでなく、家族が望む暮らしをかなえるつながりをつくる		
日常的にやっている	1083	29.5%
時々やっている	1327	36.2%
やりたいが(あまり)やれていない	1072	29.2%
やっていない	183	5.0%
④ 個別の関わりを通じて、得られた声やつながり等を、他の人や地域に伝える		
日常的にやっている	625	17.0%
時々やっている	1368	37.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1301	35.5%
やっていない	372	10.1%
⑤ 関わった一人をもとに、地域の課題について多様な人たちと話しあい、地域支援(体制)の見直し・拡充を図る		
日常的にやっている	303	8.3%
時々やっている	1041	28.4%
やりたいが(あまり)やれていない	1847	50.4%
やっていない	473	12.9%
⑥ 個別相談を通じ、足りない支援や資源があった場合、その個人のために必要な支援や資源を新たに作り出す		
日常的にやっている	145	4.0%
時々やっている	391	10.7%
やりたいが(あまり)やれていない	2214	60.4%
やっていない	913	24.9%

		全国	
		件数	比率
【 II-5 認知症施策の全体的な推進・調整 】			
① 事業を単発的に考えず、本人視点で事業と事業との連動・統合を図る			
日常的にやっている		295	8.1%
時々やっている		493	13.5%
やりたいが(あまり)やれていない		1891	51.6%
やっていない		985	26.9%
② 年度内に進めている施策・事業を改善する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う			
日常的にやっている		460	12.6%
時々やっている		870	23.8%
やりたいが(あまり)やれていない		1041	28.4%
やっていない		1290	35.2%

③ 次年度以降の計画に関する提案を、行政の施策担当者や担当部署に行う		
日常的にやっている	457	12.5%
時々やっている	854	23.3%
やりたいが(あまり)やれていない	1073	29.3%
やっていない	1277	34.9%
④ まだ施策・事業にはないが、地域で必要な新たな取組みを、推進員が(関係者とともに)試行的にやってみる		
日常的にやっている	99	2.7%
時々やっている	327	9.0%
やりたいが(あまり)やれていない	1388	38.0%
やっていない	1838	50.3%

Ⅲ. 推進員の取組みを通じた変化・成果について ※推進員の間接的な取組みによる変化等も含めて

	全国	
	件数	比率
【Ⅲ-1 推進員の取組みを通じた「認知症の本人の変化・成果」】		
① 本人が発症後の早い段階(早期)で相談につながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	227	6.2%
増えてはいるが、中身が充実してきている(一人でも可)	906	24.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	803	22.0%
今年度からみられるようになった	181	5.0%
まだ(あまり)ない	1537	42.1%
② 本人が早期に診断や適切な医療につながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	249	6.8%
増えてはいるが、中身が充実してきている(一人でも可)	939	25.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	819	22.4%
今年度からみられるようになった	191	5.2%
まだ(あまり)ない	1458	39.9%
③ 本人が自分の声(思いや希望等)を周囲や地域に向けて表せるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	83	2.3%
増えてはいるが、中身が充実してきている(一人でも可)	456	12.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	336	9.2%
今年度からみられるようになった	199	5.4%
まだ(あまり)ない	2582	70.6%
④ 本人が、早期に本人仲間に出会い、本人同士で支えあったり相談しあうようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	73	2.0%
増えてはいるが、中身が充実してきている(一人でも可)	269	7.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	214	5.9%
今年度からみられるようになった	205	5.6%
まだ(あまり)ない	2895	79.2%

⑤ 本人が、早期に地域の理解者・支援者につながり、必要以上に介護サービスを利用しないで暮らせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	72	2.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	503	13.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	318	8.7%
今年度からみられるようになった	222	6.1%
まだ(あまり)ない	2541	69.5%
⑥ 本人が認知症カフェ等の地域の集いの場につながり、仲間や味方に出会えるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	203	5.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	721	19.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	381	10.4%
今年度からみられるようになった	343	9.4%
まだ(あまり)ない	2012	55.0%
⑦ 本人がなじみの店や行きたいところに安心して出かけられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	30	0.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	328	9.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	245	6.7%
今年度からみられるようになった	145	4.0%
まだ(あまり)ない	2907	79.5%
⑧ 本人が発症後もこれまで勤めていた職場で働きつづけられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	6	0.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	59	1.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	65	1.8%
今年度からみられるようになった	73	2.0%
まだ(あまり)ない	3449	94.4%
⑨ 本人が望む社会活動に参加し、地域の中で生き生き過ごせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	54	1.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	402	11.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	250	6.8%
今年度からみられるようになった	228	6.2%
まだ(あまり)ない	2720	74.4%
⑩ 本人がスマホや通信機器を使って、他の人と交流できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	17	0.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	109	3.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	114	3.1%
今年度からみられるようになった	119	3.3%
まだ(あまり)ない	3295	90.2%
⑪ 本人がGPS機器等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	32	0.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	193	5.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	232	6.3%
今年度からみられるようになった	157	4.3%
まだ(あまり)ない	3043	83.2%

⑫ 本人がヘルプカード等を使って、一人で安心・安全に外出できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	9	0.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	78	2.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	64	1.8%
今年度からみられるようになった	102	2.8%
まだ(あまり)ない	3402	93.1%
⑬ 本人が望む場で暮らし続けられるようになった(望まない転居や入院・入所を回避して暮らせるようになった)		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	49	1.3%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	566	15.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	449	12.3%
今年度からみられるようになった	216	5.9%
まだ(あまり)ない	2370	64.9%
⑭ 本人が状態や生活の変化時に、必要な医療や介護等の専門的支援にスムーズにつながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	285	7.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	886	24.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	699	19.1%
今年度からみられるようになった	285	7.8%
まだ(あまり)ない	1499	41.0%
⑮ 認知症が進行した人や施設等で暮らす人が、地域の中でつながり、生き生き過ごせるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	59	1.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	448	12.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	377	10.3%
今年度からみられるようになった	208	5.7%
まだ(あまり)ない	2562	70.1%
⑯ 本人が推進員とともに認知症施策推進や地域づくりの活動をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	45	1.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	169	4.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	113	3.1%
今年度からみられるようになった	189	5.2%
まだ(あまり)ない	3138	85.9%
⑰ 若年性認知症の人が、上記①～⑯のいずれかの姿がみられるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	37	1.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	213	5.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	92	2.5%
今年度からみられるようになった	198	5.4%
まだ(あまり)ない	3108	85.2%
⑱ その他、本人に関する変化や成果がみられている		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	52	1.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている(一人でも可)	270	7.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	147	4.2%
今年度からみられるようになった	191	5.4%
まだ(あまり)ない	2876	81.3%

	全国	
	件数	比率
【Ⅲ-2 推進員の取組みを通じた「地域の人たちや専門職、家族の変化・成果」】		
① 住民が本人の声を聴こうとするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	201	5.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	765	21.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	525	14.4%
今年度からみられるようになった	311	8.5%
まだ(あまり)ない	1844	50.6%
② 住民が認知症を自分ごととしてとらえ、認知症への備えをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	402	11.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	832	22.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	846	23.2%
今年度からみられるようになった	385	10.5%
まだ(あまり)ない	1188	32.5%
③ 住民が、認知症への先入観をなくし、地域の本人と自然体でつきあう/関わるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	179	4.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	792	21.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	665	18.2%
今年度からみられるようになった	271	7.4%
まだ(あまり)ない	1744	47.8%
④ 住民が地域の認知症カフェ等の集いの場に参加し、本人と楽しく過ごしたりいっしょに活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	239	6.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	747	20.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	426	11.7%
今年度からみられるようになった	349	9.5%
まだ(あまり)ない	1895	51.8%
⑤ 地域の企業等で働く人が、認知症の人への関心を高め、配慮や工夫をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	125	3.4%
増えてはいないが、中身が充実してきている	408	11.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	379	10.4%
今年度からみられるようになった	257	7.0%
まだ(あまり)ない	2484	68.0%
⑥ 住民や地域で働く人が、本人の社会参加活動に加わり、いっしょに活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	61	1.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	267	7.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	184	5.0%
今年度からみられるようになった	169	4.6%
まだ(あまり)ない	2971	81.4%

⑦ 医療の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	351	9.6%
増えてはいないが、中身が充実してきている	905	24.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	706	19.4%
今年度からみられるようになった	160	4.4%
まだ(あまり)ない	1521	41.8%
⑧ 介護の専門職の人たちが、本人の声を聴くようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	425	11.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	1042	28.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	726	19.9%
今年度からみられるようになった	166	4.6%
まだ(あまり)ない	1287	35.3%
⑨ 医療・介護等の専門職の人たちが、本人視点にたつて支援や連携をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	390	10.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	1028	28.2%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	713	19.6%
今年度からみられるようになった	195	5.3%
まだ(あまり)ない	1320	36.2%
⑩ 地域ケア会議等で、本人の視点や声を重視しながら、本人のよりよい暮らしや地域づくりに関して前向きな検討をするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	364	10.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	1191	32.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	493	13.5%
今年度からみられるようになった	220	6.0%
まだ(あまり)ない	1381	37.8%
⑪ 医療・介護等の専門職の人たちが、地域の集いの場や社会参加活動に参加したり、取組むようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	232	6.4%
増えてはいないが、中身が充実してきている	704	19.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	380	10.4%
今年度からみられるようになった	305	8.4%
まだ(あまり)ない	2028	55.6%
⑫ 地域の中で、専門職と住民等が混ざりあって、本人といっしょに楽しく活動するようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	146	4.0%
増えてはいないが、中身が充実してきている	550	15.1%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	236	6.5%
今年度からみられるようになった	242	6.6%
まだ(あまり)ない	2479	67.9%
⑬ 地域の中で ICT を活用して、専門職や住民等が、本人とつながるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	45	1.2%
増えてはいないが、中身が充実してきている	121	3.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	91	2.5%
今年度からみられるようになった	126	3.5%
まだ(あまり)ない	3269	89.5%

⑭ 地域の中での認知症バリアを本人とともに具体的にみつけ、バリアが少しずつ解消されるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	24	0.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	233	6.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	173	4.7%
今年度からみられるようになった	149	4.1%
まだ(あまり)ない	3074	84.2%
⑮ 住民や地域で働く人たちが、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取り組みをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	78	2.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	315	8.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	194	5.3%
今年度からみられるようになった	214	5.9%
まだ(あまり)ない	2848	78.0%
⑯ 医療や介護等の専門職が、制度や事業では行き届かないことについて、自発的な取り組みをするようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	54	1.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	317	8.7%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	198	5.4%
今年度からみられるようになった	174	4.8%
まだ(あまり)ない	2901	79.6%
⑰ 本人の家族が、地域の人たちや専門職とのつながりを通じて、本人との関係が改善したり、家族なりの暮らしを継続できるようになった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	163	4.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	802	22.0%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	462	12.7%
今年度からみられるようになった	277	7.6%
まだ(あまり)ない	1948	53.3%
⑱ その他、地域の人たちや専門職、家族に関する変化・成果がある		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	105	2.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	439	12.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	274	7.7%
今年度からみられるようになった	242	6.8%
まだ(あまり)ない	2504	70.3%

全国

件数

比率

【Ⅲ-3 情報の流れや協働に関する変化・成果】

① 認知症施策担当者/関係者から推進員に情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	536	14.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	890	24.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	738	20.3%
今年度からみられるようになった	250	6.9%
まだ(あまり)ない	1227	33.7%

② 市町村内の他の推進員/推進役の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	461	12.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	887	24.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	608	16.7%
今年度からみられるようになった	255	7.0%
まだ(あまり)ない	1428	39.2%
③ 地域包括支援センターの職員から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	607	16.9%
増えてはいないが、中身が充実してきている	1018	28.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	784	21.8%
今年度からみられるようになった	236	6.6%
まだ(あまり)ない	948	26.4%
④ 医療関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	320	8.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている	852	23.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	805	22.1%
今年度からみられるようになった	192	5.3%
まだ(あまり)ない	1478	40.5%
⑤ 介護関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	296	8.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	870	23.9%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	763	20.9%
今年度からみられるようになった	173	4.7%
まだ(あまり)ない	1545	42.4%
⑥ 権利擁護の関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	185	5.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	640	17.5%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	525	14.4%
今年度からみられるようになった	155	4.3%
まだ(あまり)ない	2142	58.7%
⑦ 警察関係者から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	384	10.5%
増えてはいないが、中身が充実してきている	636	17.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	1052	28.9%
今年度からみられるようになった	178	4.9%
まだ(あまり)ない	1395	38.3%
⑧ 民生委員や地域住民から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	623	17.1%
増えてはいないが、中身が充実してきている	935	25.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	1091	29.9%
今年度からみられるようになった	176	4.8%
まだ(あまり)ない	824	22.6%

⑨ 生活支援コーディネーターから情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	357	9.8%
増えてはいないが、中身が充実してきている	705	19.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	495	13.6%
今年度からみられるようになった	246	6.8%
まだ(あまり)ない	1827	50.3%
⑩ 地域で働く人たち等、多様な分野の人から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	197	5.4%
増えてはいないが、中身が充実してきている	540	14.8%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	502	13.8%
今年度からみられるようになった	241	6.6%
まだ(あまり)ない	2166	59.4%
⑪ 本人自身から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	89	2.4%
増えてはいないが、中身が充実してきている	375	10.3%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	369	10.1%
今年度からみられるようになった	179	4.9%
まだ(あまり)ない	2636	72.3%
⑫ 家族から情報が入るようになり、協働しやすくなった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	319	8.7%
増えてはいないが、中身が充実してきている	708	19.4%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	991	27.2%
今年度からみられるようになった	270	7.4%
まだ(あまり)ない	1362	37.3%
⑬ 必要な時や困った時に、相談したり助けてもらえる人が広がった		
昨年度より中身が充実し、数も増えてきている	484	13.3%
増えてはいないが、中身が充実してきている	894	24.6%
数は増えたが、中身はあまり変わっていない	633	17.4%
今年度からみられるようになった	336	9.2%
まだ(あまり)ない	1294	35.5%

	件数	比率
【 Ⅲ-4 あなたの市町村での「認知症とともに生きる地域共生」の進捗状況 】		
① 地域の認知症の本人が、希望をもって自分らしく暮らしてつづけるようになってきている		
年々、拡充してきている	103	2.8%
少しずつ進みつつある	1591	43.9%
今年度から動きだしてきている	249	6.9%
今年度はまだだが、来年度から動きだす(予定含む)	491	13.5%
まだ動きも予定もない	1194	32.9%
② 認知症があってもなくても、同じ地域でともに生きる意識や姿が広がってきている		
年々、拡充してきている	129	3.6%
少しずつ進みつつある	1756	48.4%
今年度から動きだしてきている	268	7.4%
今年度はまだだが、来年度から動きだす(予定含む)	423	11.7%
まだ動きも予定もない	1051	29.0%

IV. 推進員が機能を強め、活躍するための課題や必要なこと

	件数	比率
【 IV-1 認知症施策担当者と推進員との関係性について 】		
① 施策担当者と推進員が、定期的/随時に推進員活動について話しあう機会がある		
すでにあり、引き続き必要	1896	52.0%
あるが、より強化が必要	967	26.5%
現在はなく、強化が必要	730	20.0%
必要と思わない	53	1.5%
② 施策担当者に推進員が、気軽に相談しやすい		
すでにあり、引き続き必要	2003	54.9%
あるが、より強化が必要	988	27.1%
現在はなく、強化が必要	605	16.6%
必要と思わない	51	1.4%
③ 施策担当者が、推進員のやりたいことや得意なことなど、自由な活動を後押ししてくれる		
すでにあり、引き続き必要	1393	38.2%
あるが、より強化が必要	1044	28.7%
現在はなく、強化が必要	1099	30.2%
必要と思わない	107	2.9%
④ 施策担当者と推進員と一緒に、地元の認知症の本人の話をきいたり、本人と過ごす場面がある		
すでにあり、引き続き必要	808	22.2%
あるが、より強化が必要	787	21.6%
現在はなく、強化が必要	1919	52.6%
必要と思わない	131	3.6%
⑤ 施策担当者と推進員と一緒に、地域や取組みの現場に向く機会がある		
すでにあり、引き続き必要	973	26.7%
あるが、より強化が必要	995	27.3%
現在はなく、強化が必要	1564	42.9%
必要と思わない	114	3.1%

⑥ 推進員が不安だったり迷った時に、施策担当者が一緒に考えてくれる		
すでにあり、引き続き必要	1481	40.6%
あるが、より強化が必要	1134	31.1%
現在はなく、強化が必要	949	26.0%
必要と思わない	81	2.2%
⑦ 推進員が活動を進めながら失敗やトラブルが生じた際、施策担当者がいっしょに考え、助力やカバーをする		
すでにあり、引き続き必要	1383	38.0%
あるが、より強化が必要	1004	27.6%
現在はなく、強化が必要	1171	32.1%
必要と思わない	86	2.4%
⑧ 施策担当者が企画や取組みについて思案している時に、推進員に相談したり助けを求めてくれる		
すでにあり、引き続き必要	1420	39.1%
あるが、より強化が必要	1023	28.2%
現在はなく、強化が必要	1076	29.6%
必要と思わない	114	3.1%

【 IV-2 認知症施策推進に向けた、認知症施策担当者と推進員との合意形成について 】

	件数	比率
＜ 1) 担当者と推進員との、わがまちが目指すこと(ビジョン、方向性)の検討と共有・浸透 ＞		
① 認知症になってから、どのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す本人の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する		
すでにあり、引き続き必要	638	17.5%
あるが、より強化が必要	1472	40.3%
現在はなく、強化が必要	1498	41.1%
必要と思わない	41	1.1%
② 認知症があってもなくても、認知症とともにどのように暮らせたらいいか、わがまちが目指す地域の姿を話しあい、具体的なイメージを共有する		
すでにあり、引き続き必要	600	16.4%
あるが、より強化が必要	1485	40.7%
現在はなく、強化が必要	1528	41.9%
必要と思わない	35	1.0%
③ (新規の)事業が目指していることや意味について話しあい、共有する		
すでにあり、引き続き必要	686	18.9%
あるが、より強化が必要	1465	40.3%
現在はなく、強化が必要	1436	39.5%
必要と思わない	48	1.3%
④ 市町村内の各地域の取組みがバラバラに進まずに足並みがそろうように、施策担当者が市町村として目指していることを、関係者や住民等に浸透をはかる		
すでにあり、引き続き必要	497	13.6%
あるが、より強化が必要	1359	37.3%
現在はなく、強化が必要	1722	47.3%
必要と思わない	64	1.8%

		全国	
		件数	比率
＜ 2) 担当者と推進員との、認知症に関する地域の現状と課題の検討と具体的な共有 ＞			
① 本人が地域で暮らす現状と課題を話しあい、具体的に共有する			
すでにあり、引き続き必要		634	17.5%
あるが、より強化が必要		1275	35.2%
現在はなく、強化が必要		1680	46.4%
必要と思わない		31	0.9%
② 認知症をめぐる家族や地域で起きている現状と課題を話しあい、具体的に共有する			
すでにあり、引き続き必要		611	16.9%
あるが、より強化が必要		1350	37.3%
現在はなく、強化が必要		1620	44.8%
必要と思わない		36	1.0%

		全国	
		件数	比率
＜ 3) 担当者と推進員との、推進員の位置づけと機能・役割に関する検討と共有 ＞			
① わがまちの地域包括ケアシステムや地域全体のしくみの中で、推進員がどこに位置づいているのか話しあい、具体的に共有する			
すでにあり、引き続き必要		552	15.1%
あるが、より強化が必要		1386	38.0%
現在はなく、強化が必要		1639	45.0%
必要と思わない		69	1.9%
② わがまちの認知症施策の推進や地域での連携強化のために、推進員として必要な機能・役割について話しあい、具体的に共有する			
すでにあり、引き続き必要		531	14.6%
あるが、より強化が必要		1452	39.8%
現在はなく、強化が必要		1600	43.9%
必要と思わない		64	1.8%
③ 推進員の多様な機能・役割の中で、今後どこに注力していくことが必要か、活動の焦点について話しあい、具体的に共有する			
すでにあり、引き続き必要		517	14.2%
あるが、より強化が必要		1394	38.2%
現在はなく、強化が必要		1677	46.0%
必要と思わない		59	1.6%
④ 推進員に過重な役割や負担がかからないよう、推進員と関係機関（行政、地域包括支援センター、社協等）との役割分担について話しあい、調整する			
すでにあり、引き続き必要		511	14.0%
あるが、より強化が必要		1198	32.9%
現在はなく、強化が必要		1859	51.0%
必要と思わない		76	2.1%

	全国	
	件数	比率
＜ 4) 担当者と推進員との、活動方針や推進員の機能についての具体的な共有 ＞		
① 事業をこなすことを焦らずに、誰のために、何のために活動するのか、目的を見失わないようにする		
すでにあり、引き続き必要	799	21.9%
あるが、より強化が必要	1699	46.5%
現在はなく、強化が必要	1119	30.6%
必要と思わない	35	1.0%
② 認知症を自分ごととして考え、希望を持てる地域を、行政と推進員が力をあわせてつくりだしていく		
すでにあり、引き続き必要	731	20.0%
あるが、より強化が必要	1783	48.9%
現在はなく、強化が必要	1110	30.4%
必要と思わない	25	0.7%
③ 地域の中にある古い認知症観を、推進員が活動を通じて新しい認知症観に変えていく(認知症観の変革)		
すでにあり、引き続き必要	511	14.0%
あるが、より強化が必要	1783	48.8%
現在はなく、強化が必要	1316	36.0%
必要と思わない	42	1.2%
④ 「認知症とともに生きる希望宣言」を地域の中で伝え、認知症になってからよりよく生きていける希望や実現可能性を地域全体に広げていく		
すでにあり、引き続き必要	350	9.6%
あるが、より強化が必要	1275	34.9%
現在はなく、強化が必要	1971	54.0%
必要と思わない	55	1.5%
⑤ 施策や事業は、本人視点、本人参画で進めていく(本人視点、本人参画の重視)		
すでにあり、引き続き必要	390	10.7%
あるが、より強化が必要	1343	36.8%
現在はなく、強化が必要	1879	51.5%
必要と思わない	38	1.0%
⑥ 施策や事業を具体的に進めるために、本人の声を聞く(本人の声が起点)		
すでにあり、引き続き必要	354	9.7%
あるが、より強化が必要	1177	32.3%
現在はなく、強化が必要	2083	57.1%
必要と思わない	34	0.9%
⑦ 国や都道府県が示すものを参考にしながら、地域の特徴やあるものをフルに活かし、わがまちならではの取組みを創意工夫していく(自治体主体、創意工夫)		
すでにあり、引き続き必要	309	8.5%
あるが、より強化が必要	1365	37.4%
現在はなく、強化が必要	1935	53.0%
必要と思わない	42	1.2%
⑧ 地域で起きている問題だけにとらわれずに、起きているいい動きをとらえながら取組む(創出力の重視)		
すでにあり、引き続き必要	280	7.7%
あるが、より強化が必要	1251	34.3%
現在はなく、強化が必要	2075	56.8%
必要と思わない	44	1.2%

⑨ 事業をこなしたり、数を増やすことを焦らずに、一人の本人からグッドストーリーが生まれることを大切にする ※グッドストーリー：本人が人と出会い地域でつながりながら、よりよく暮らせるようになった経緯(物語)		
すでにあり、引き続き必要	306	8.4%
あるが、より強化が必要	1109	30.4%
現在はなく、強化が必要	2170	59.5%
必要と思わない	59	1.6%
⑩ 事業や活動を、本人や住民、関係者にとって、楽しく気楽に関われるものにしていく(楽しさ、気軽さ)		
すでにあり、引き続き必要	425	11.7%
あるが、より強化が必要	1439	39.4%
現在はなく、強化が必要	1756	48.1%
必要と思わない	28	0.8%
⑪ 推進員が企画/計画をたて、行政と協働しながら、自発的な推進員活動を展開していく(自発的な活動重視)		
すでにあり、引き続き必要	437	12.0%
あるが、より強化が必要	1328	36.4%
現在はなく、強化が必要	1796	49.2%
必要と思わない	88	2.4%
⑫ 当初の計画等の枠内でとどまらずに、やりながらよりよい取組みに発展させていく(実情に応じた柔軟な改良)		
すでにあり、引き続き必要	466	12.8%
あるが、より強化が必要	1412	38.7%
現在はなく、強化が必要	1720	47.1%
必要と思わない	51	1.4%
⑬ 事業や取組みを単発で行わず、その後の持続や発展を考えながら取組む(持続発展性)		
すでにあり、引き続き必要	461	12.6%
あるが、より強化が必要	1539	42.2%
現在はなく、強化が必要	1606	44.0%
必要と思わない	40	1.1%
⑭ 事業や取組みをバラバラに行わず、本人視点で事業等をつなげ、統合していく(事業の連動・統合)		
すでにあり、引き続き必要	347	9.5%
あるが、より強化が必要	1306	35.8%
現在はなく、強化が必要	1949	53.4%
必要と思わない	47	1.3%
⑮ 増えていく事業を推進員が抱え込まずに、地域の人たち(住民、専門職等)が主体的に取組めるようになるように事業を進めていく(地域の主体的取組みの推進)		
すでにあり、引き続き必要	262	7.2%
あるが、より強化が必要	1127	30.9%
現在はなく、強化が必要	2196	60.2%
必要と思わない	60	1.6%
⑯ 推進員が、本人や地域と行政をつなぐパイプ役を果たす(届きにくい声や力等を行政につなぐ機能)		
すでにあり、引き続き必要	403	11.0%
あるが、より強化が必要	1470	40.3%
現在はなく、強化が必要	1718	47.1%
必要と思わない	58	1.6%

⑩ 推進員が、施策担当に意見や提案を伝え、それらを行政が計画づくりや予算に反映していく(施策提案・立案)		
すでにあり、引き続き必要	420	11.5%
あるが、より強化が必要	1297	35.6%
現在はなく、強化が必要	1845	50.6%
必要と思わない	81	2.2%

	件数	比率
【 IV-3 「推進員の活動のしやすさ」への市町村としての配慮や取組み 】		
① 推進員が配置されている職場の上等、推進員活動の理解や協力を得るための行政からの説明や働きかけ		
すでにあり、引き続き必要	1043	28.8%
あるが、より強化が必要	1238	34.1%
現在はなく、強化が必要	1169	32.2%
必要と思わない	176	4.9%
② 推進員の存在や意義、活動について、行政として地域住民等へ広く発信・周知		
すでにあり、引き続き必要	434	12.0%
あるが、より強化が必要	1500	41.3%
現在はなく、強化が必要	1574	43.3%
必要と思わない	123	3.4%
③ 推進員の存在や意義、活動について、行政として関係組織(医師会、自治会、警察、企業等)へ広く発信・周知		
すでにあり、引き続き必要	366	10.1%
あるが、より強化が必要	1427	39.3%
現在はなく、強化が必要	1708	47.1%
必要と思わない	129	3.6%
④ 行政の関係部署や上層部が、推進員の意義や付加価値を理解し、配置や活動が進むための説明や働きかけ		
すでにあり、引き続き必要	359	9.9%
あるが、より強化が必要	1284	35.4%
現在はなく、強化が必要	1856	51.2%
必要と思わない	127	3.5%
⑤ 推進員が多世代・他領域との連携協働を進めやすくなるよう、行政内の他部署に推進員について広く周知		
すでにあり、引き続き必要	257	7.1%
あるが、より強化が必要	1095	30.2%
現在はなく、強化が必要	2134	58.9%
必要と思わない	139	3.8%
⑥ 推進員が活動を進める上で、実際に関係機関(医師会、自治会、学校、商工、警察等)と連携協働が必要となった時に、行政が関係機関や行政内の関係部署と具体的なつなぎや調整を図る		
すでにあり、引き続き必要	486	13.4%
あるが、より強化が必要	1396	38.5%
現在はなく、強化が必要	1664	45.9%
必要と思わない	81	2.2%

⑦ 推進員が活動を進める上で必要になった場や人、資材、資金等の調達を、行政が支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	587	16.2%
あるが、より強化が必要	1277	35.2%
現在はなく、強化が必要	1681	46.3%
必要と思わない	82	2.3%
⑧ 推進員が活動を進める上で必要な個人情報の入手や共有を、行政が支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	764	21.1%
あるが、より強化が必要	1233	34.1%
現在はなく、強化が必要	1484	41.0%
必要と思わない	139	3.8%
	件数	比率

【 IV-4 推進員同士等がつながり、学びあい、支えあう機会等 】

① 同じ市町村内の推進員同士が集まり/つながり、話しあったり学びあう機会をつくる ※市町村内に推進員が一人の場合は、地域内の推進役の人との話しあいや学びあう機会について		
すでにあり、引き続き必要	1336	36.6%
あるが、より強化が必要	1158	31.8%
現在はなく、強化が必要	1074	29.4%
必要と思わない	79	2.2%
② 近隣の市町村の推進員同士がつながり、話しあいや学びあい、支えあう機会をつくる		
すでにあり、引き続き必要	432	11.9%
あるが、より強化が必要	700	19.2%
現在はなく、強化が必要	2347	64.4%
必要と思わない	166	4.6%
③ 困った時や相談したい時にタイムリーに地域内外の推進員同士で相談しあえるためのつながりやしくみをつくる		
すでにあり、引き続き必要	637	17.5%
あるが、より強化が必要	915	25.1%
現在はなく、強化が必要	1973	54.1%
必要と思わない	124	3.4%
④ 推進員による活動のバラつきや温度差をなくすための、市町村の働きかけや工夫		
すでにあり、引き続き必要	439	12.1%
あるが、より強化が必要	837	23.0%
現在はなく、強化が必要	2108	57.9%
必要と思わない	254	7.0%
⑤ 推進員同士等がつながり合うための、ネット環境の整備や ICT の活用に関する市町村の支援		
すでにあり、引き続き必要	393	10.8%
あるが、より強化が必要	606	16.7%
現在はなく、強化が必要	2170	59.7%
必要と思わない	465	12.8%
⑥ 市町村内外の推進員活動の好事例を市町村がとらえて、推進員と共有		
すでにあり、引き続き必要	414	11.4%
あるが、より強化が必要	917	25.2%
現在はなく、強化が必要	2157	59.3%
必要と思わない	148	4.1%

⑦ 都道府県や全国の推進員研修や集まりに、推進員が参加できるための市町村の支援・調整		
すでにあり、引き続き必要	1064	29.2%
あるが、より強化が必要	1054	29.0%
現在はなく、強化が必要	1348	37.0%
必要と思わない	173	4.8%
⑧ 推進員のみでなく、認知症施策の担当者が、施策や全国の新しい動きを都道府県や全国で学ぶ機会をつくる		
すでにあり、引き続き必要	856	23.6%
あるが、より強化が必要	1143	31.5%
現在はなく、強化が必要	1496	41.3%
必要と思わない	130	3.6%
⑨ 施策や全国の新しい動きについて、認知症施策の担当者と推進員と一緒に学べる、都道府県や全国での機会をつくる		
すでにあり、引き続き必要	720	19.8%
あるが、より強化が必要	1010	27.8%
現在はなく、強化が必要	1711	47.1%
必要と思わない	191	5.3%
	件数	比率
【 IV-5 推進員活動の「PDCA(計画・実践・見直し・改善)」や質向上の促進について 】		
① 推進員活動の「PDCA(計画・実践・見直し・改善)」を形骸化させずに、実質の活動改善につなげる		
すでにあり、引き続き必要	334	9.2%
あるが、より強化が必要	1060	29.2%
現在はなく、強化が必要	2122	58.4%
必要と思わない	120	3.3%
② 推進員活動の実際や成果、課題等を集約した冊子や事例集を自治体で作成し、推進員や関係者、地域で共有		
すでにあり、引き続き必要	198	5.4%
あるが、より強化が必要	466	12.8%
現在はなく、強化が必要	2575	70.8%
必要と思わない	400	11.0%
③ 推進員活動の実際や成果、課題等を自治体のホームページやメディア等で地域に発信		
すでにあり、引き続き必要	181	5.0%
あるが、より強化が必要	547	15.0%
現在はなく、強化が必要	2571	70.7%
必要と思わない	337	9.3%
④ 推進員活動の報告会の開催		
すでにあり、引き続き必要	367	10.2%
あるが、より強化が必要	568	15.7%
現在はなく、強化が必要	2194	60.7%
必要と思わない	484	13.4%
④-1 報告会を行っている場合、実施方法		
地域で公開して実施	49	7.0%
活動の関係者が参加して実施	278	39.4%
推進員のみで実施	350	49.6%
その他	28	4.0%

⑤ 自地域にあった推進員活動の「質の評価」について、施策担当者と推進員が話しあいながら実施		
すでにあり、引き続き必要	257	7.5%
あるが、より強化が必要	529	15.4%
現在はなく、強化が必要	2368	69.1%
必要と思わない	272	7.9%
	件数	比率

【 IV-6 推進員活動が持続発展していくための、市町村の配慮・工夫等 】		
① 推進員が(短期間で)異動せずに、継続的に活動できるための調整や働きかけ		
すでにあり、引き続き必要	459	12.7%
あるが、より強化が必要	560	15.5%
現在はなく、強化が必要	2211	61.1%
必要と思わない	387	10.7%
② 推進員が異動した場合、その人が望む場合は異動先でも推進員機能を果たしつづけていけるための調整や位置づけ		
すでにあり、引き続き必要	192	5.3%
あるが、より強化が必要	343	9.5%
現在はなく、強化が必要	2419	66.8%
必要と思わない	667	18.4%
③ 推進員が退職等した場合、その人が望む場合は推進員活動に参画できるための調整や位置づけ		
すでにあり、引き続き必要	130	3.6%
あるが、より強化が必要	287	7.9%
現在はなく、強化が必要	2502	69.1%
必要と思わない	702	19.4%
④ 推進員が異動する場合、前任者が後任者に引き継ぎを着実に行うための機会づくりや支援		
すでにあり、引き続き必要	360	9.9%
あるが、より強化が必要	759	21.0%
現在はなく、強化が必要	2291	63.3%
必要と思わない	210	5.8%

	件数	比率
【 IV-7 認知症施策を推進していくための、市町村としての推進員の適正な配置と工夫等 】		
① 市町村が、すでに活動している推進員等と推進員として適切な人材像について話しあい、適切な人材が確保・配置できるように関係部署や関係機関と調整や働きかけをする		
すでにあり、引き続き必要	384	10.7%
あるが、より強化が必要	823	22.9%
現在はなく、強化が必要	2188	60.9%
必要と思わない	198	5.5%
② 市町村が、すでに活動している推進員等と適切な推進員数を検討し、その数の確保のための調整や働きかけをする		
すでにあり、引き続き必要	473	13.2%
あるが、より強化が必要	904	25.2%
現在はなく、強化が必要	2016	56.2%
必要と思わない	196	5.5%

③ 市町村が、すでに活動している推進員等と自地域の中での効果的な「推進員の配置先」を検討し、配置先の工夫や調整をする		
すでにあり、引き続き必要	374	10.4%
あるが、より強化が必要	712	19.9%
現在はなく、強化が必要	2210	61.6%
必要と思わない	289	8.1%
④ 推進員の雇用形態や勤務形態に関して、改善や調整をする		
すでにあり、引き続き必要	356	9.9%
あるが、より強化が必要	588	16.4%
現在はなく、強化が必要	2175	60.6%
必要と思わない	470	13.1%
⑤ 推進員が孤立したり過重な業務で消耗せずに推進員として活躍できるように、推進員とともに活動する自地域のコアメンバーを市町村が組織化し、取組みを一緒に推進していくフォーメーションをつくる		
すでにあり、引き続き必要	205	5.7%
あるが、より強化が必要	478	13.3%
現在はなく、強化が必要	2625	73.2%
必要と思わない	280	7.8%

V. 推進員活動に関する意向等

	全国	
	件数	比率
【 V-1 推進員活動をやってみての自分の感想や率直な思い 】		
① 推進員活動は、やりがいがある		
非常にそう思う	500	13.7%
そう思う	2083	57.2%
あまり思わない	889	24.4%
思わない	167	4.6%
② 推進員活動は、やっていて楽しい、おもしろい		
非常にそう思う	361	9.9%
そう思う	1771	48.7%
あまり思わない	1271	34.9%
思わない	236	6.5%
③ 推進員活動は、地域の多様な人と出会え、つながりが育ってうれしい		
非常にそう思う	505	13.9%
そう思う	2028	55.7%
あまり思わない	921	25.3%
思わない	187	5.1%
④ 推進員として、自分なりにやりたいことをやっている		
非常にそう思う	198	5.4%
そう思う	1266	34.8%
あまり思わない	1638	45.0%
思わない	538	14.8%

⑤ 推進員同士がつながり、支えあったり機能を高めあうための推進役になりたい		
非常にそう思う	295	8.1%
そう思う	1607	44.1%
あまり思わない	1265	34.7%
思わない	474	13.0%
⑥ 施策担当者と推進員との協働について、不安や懸念がある		
非常にそう思う	254	7.0%
そう思う	778	21.5%
あまり思わない	1818	50.2%
思わない	768	21.2%
⑦ 推進員として活動していく上での負担やストレスが大きい		
非常にそう思う	392	11.3%
そう思う	1068	30.8%
あまり思わない	1614	46.5%
思わない	399	11.5%

	全国	
	件数	比率
【 V-2 推進員として、今後も活動を継続していく意向 】		
今後も推進員を続けていきたい	1399	38.5%
今後も推進員を続けていきたいが、負担等が大きく、続けていけるかわからない	818	22.5%
今後も推進員を続けていきたいが、雇用形態が1年のみの任用なので、続けていけるかわからない	190	5.2%
今後も推進員を続けていきたいが、法人の意向で、続けていけるかわからない	478	13.1%
今後も推進員を続けていきたいとは(あまり)思わない	465	12.8%
その他	288	7.9%

2. 都道府県別データ集約（ひな形）

都道府県別【市区町村調査】結果

令和4年度 厚生労働省老健事業
「認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究」
認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査
【市町村用】

○ 調査概要

	全国	〇〇県
回答数	1,111	

1. 市町村の基本情報について

	全国		〇〇県	
	件数	比率	件数	比率
【1-1 市町村(東京23区を含む)について】				
④ 人口				
1万人未満	248	22.6%		
1万人以上5万人未満	436	39.7%		
5万人以上20万人未満	307	28.0%		
20万人以上	107	9.7%		
⑤ 高齢化率 小数点第一位まで				
25%未満	122	11.1%		
25%以上30%未満	215	19.6%		
30%以上35%未満	254	23.2%		
35%以上40%未満	241	22.0%		
40%以上	265	24.2%		

	全国		〇〇県	
	件数	比率	件数	比率
【1-2 ご記入下さっているご担当者の部署の概要について】				
② 認知症施策のご担当者の数				
3人未満	712	64.6%		
5人未満	269	24.4%		
7人未満	78	7.1%		
7人以上	43	3.9%		
③ ご担当者の中で認知症施策を最も長く担当している人の年数				
3年未満	351	32.5%		
3年以上6年未満	403	37.3%		
6年以上9年未満	182	16.9%		
9年以上	144	13.3%		

令和4年度 厚生労働省老健事業
「認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究」
認知症地域支援推進員の配置と活動に関する全国調査
【認知症地域支援推進員用】

○ 調査概要

	全国	〇〇県
回答数	3,707	

Ⅰ. 推進員の基本情報について

	全国		〇〇県	
	件数	比率	件数	比率
【 1. 配置されている市町村(東京23区を含む)について 】				
④ 人口（市町村全体）				
1万人未満	387	10.6%		
1万人以上5万人未満	922	25.3%		
5万人以上20万人未満	1,188	32.6%		
20万人以上	1,147	31.5%		
⑤ 高齢化率 小数点第一位まで				
25%未満	635	17.5%		
25%以上30%未満	1,024	28.2%		
30%以上35%未満	904	24.9%		
35%以上40%未満	570	15.7%		
40%以上	499	13.7%		
⑥ 推進員を最初に配置した年度（西暦）				
2013年度以前	611	17.6%		
2014年度	398	11.5%		
2015年度	867	25.0%		
2016年度	697	20.1%		
2017年度	435	12.5%		
2018年度以降	462	13.3%		
⑦ 現在の推進員の配置総数				
1人	319	8.9%		
2人以上3人未満	301	8.4%		
3人以上5人未満	580	16.1%		
5人以上10人未満	903	25.1%		
10人以上	1,493	41.5%		

令和4年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

認知症地域支援推進員の配置形態や活動実態に応じた機能強化に関する調査研究

報告書

発行

社会福祉法人浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
電話 (03) 3334-2173

発行年月 2023 (令和5) 年3月